

目次

本書をお読みになる前に	7
本書の表記	7
商標および著作権について	9
第 1 章 各部名称	
1 各部の名称と働き	12
パソコン本体前面	12
パソコン本体右側面	15
パソコン本体左側面	15
パソコン本体上側面	17
パソコン本体背面	19
ドッキングステーション	20
ワイヤレスキーボード	22
2 状態表示 LED について	25
3 タブレットボタンについて	27
4 セキュリティボタンについて	29
第 2 章 ハードウェア	
1 周辺機器を取り付ける前に	32
取り扱い上の注意	32
2 ポインティングデバイスについて	33
タブレットについて	33
ペンを使った文字入力について	35
ペン先の交換方法	37
フラットポイントについて	38
マウスについて	40
マウスの接続のしかた	41
マウスの使い方	42
3 キーボードについて	44
ワイヤレスキーボードについて	44
USB キーボードの接続について	47
OADG キーボード	48
4 バッテリーについて	51
バッテリーを充電する	51
バッテリーで運用する	51
バッテリー残量を確認する	52
取り扱い上の注意	54
内蔵バッテリーパックを交換する	55

5 CD / DVD について	57
取り扱い上の注意	57
使用できるディスク	60
推奨ディスク	61
ディスクをセットする／取り出す	62
6 ドッキングステーションについて	65
ドッキングステーションを取り付ける	65
ドッキングステーションを取り外す	67
7 メモリについて	68
メモリを取り付ける／取り外す	68
8 PC カードについて	73
取り扱い上の注意	73
PC カードをセットする	73
PC カードを取り出す	74
9 メモリーカードについて	77
取り扱い上の注意	77
使用できるメモリーカード	77
メモリーカードをセットする	78
メモリーカードを取り出す	79
10 外部ディスプレイについて	82
接続について	82
11 ハードウェアのお手入れ	84
パソコン本体のお手入れ	84
液晶ディスプレイのお手入れ	84
キーボードのお手入れ	85
マウスのお手入れ	85

第 3 章 機能

1 ディスプレイ関連	88
液晶ディスプレイの明るさ設定	88
全画面表示と通常表示の切り替え	90
ローテーション機能	92
解像度と色数について	95
表示装置の切り替え	97
マルチモニタ機能	100
外部ディスプレイの走査周波数について	103
2 音量の設定	105
キーボードで調節する	105
画面上の音量つまみで設定する	105
再生時／録音時の音量設定について	106
3 通信	108
LAN について	108
無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について	109

内蔵モデムについて	110
赤外線通信	111
4 ドライブ関連	112
ドライブ構成	112
5 省電力	113
スタンバイと休止状態	113
注意事項	114
省電力の設定	115
スタンバイまたは休止状態にする	117
スタンバイまたは休止状態からのレジューム	117
省電力モードの設定	119

第 4 章 セキュリティ

1 セキュリティについて	122
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	124
コンピュータウイルス対策	124
Windows やソフトウェアのアップデート	126
セキュリティセンター	127
ファイアウォール	128
通信データの暗号化	128
無線 LAN 使用時の通信データの暗号化	129
3 不正使用からのセキュリティ	130
Windows のパスワード	130
管理者権限とユーザーアカウント	130
アクセス権と暗号化	130
BIOS のパスワード	131
セキュリティチップ	131
セキュリティボタン	131
スマートカードリーダー/ライタ	132
指紋センサー	132
Portshutter	133
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	133
4 パソコンの盗難防止	134
5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	135
パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する ご注意	135
ハードディスクのデータ消去サービスについて	136

第 5 章 ソフトウェア

1 ソフトウェア一覧	138
各ソフトウェアの紹介	139
アンインストール方法	150
2 ドライバ	151

第 6 章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	154
2 BIOS セットアップの操作のしかた	155
BIOS セットアップを起動する	155
設定を変更する	157
各キーの役割	159
BIOS セットアップを終了する	160
3 メニュー詳細	161
メインメニュー	161
詳細メニュー	162
セキュリティメニュー	164
起動メニュー	167
情報メニュー	168
終了メニュー	168
4 BIOS のパスワード機能を使う	170
パスワードの種類	170
パスワードを設定する	170
パスワードを設定した後は	172
パスワードを忘れてしまったら	173
パスワードを変更／削除する	174
5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う	176
セキュリティチップ	176
スマートカード	178
6 BIOS が表示するメッセージ一覧	182
メッセージが表示されたときは	182
メッセージ一覧	183

第 7 章 技術情報

1 仕様一覧	188
本体仕様	188
2 コネクタのピン配列と信号名	192

第 8 章 トラブルシューティング

1 トラブルに備えて	194
テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	194
Windows のセットアップ後の操作	194
修正プログラムの適用について	195
データのバックアップ	195
自動車内での使用について	195
ドキュメントの確認	195
2 トラブル発生時の基本操作	196
本パソコンや周辺機器の電源を確認する	196

以前の状態に戻す	196
セーフモードで起動する	197
ハードウェアの競合を確認する	198
バックアップを行う	198
メッセージなどが表示されたらメモしておく	198
診断／修正プログラムを使用する	198
リカバリ	201
3 起動・終了時のトラブル	202
4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル	205
5 ハードウェア関連のトラブル	208
ハードウェア関連のトラブル一覧	208
BIOS	209
メモリ	210
内蔵 LAN	211
内蔵モデム	212
ハードディスク	212
デバイス	213
CD / DVD	213
フロッピーディスク	215
PC カード	215
スマートカード	216
バッテリー	216
ディスプレイ	216
サウンド	217
キーボード	218
ペン／マウス	218
USB	219
IEEE1394	220
プリンタ	220
その他	220
6 それでも解決できないときは	221
お問い合わせ先	221
索引	223

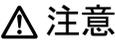
Memo

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

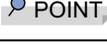
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
      ↑ ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、**【Space】**キーを1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

- DVD-ROM&CD-R/RW ドライブのドライブ名を、**【CD/DVD ドライブ】**で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例：**【CD/DVD ドライブ】**:¥setup.exe

■ 操作方法の表記

お使いの機種により、マウスが添付されています。

本文中では、操作方法を「タップ」と表記しています。

マウスをお使いになる場合は、「タップ」を「クリック」と読み替えてください。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをタップし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をタップする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にタップします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」（コロン）の後に記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「言語 (Language)」の項目を「日本語 (JP)」に設定します。

↓

「メイン」-「言語 (Language)」: 日本語 (JP)

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なる場合があります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ キーボード、マウス、CD-ROM の使用について

本文中の操作手順において、キーボード、マウス、または CD-ROM を使用することがあります。キーボード、マウス、ドッキングステーションが添付されていない機種をお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある FMV-STYLISTIC の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。

また、周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

なお、本書にはお使いの機種以外の情報もあります。お使いの機種のところをお読みください。

製品名称	本文中の表記		
FMV-STYLISTIC TB13/S	TB/S	本パソコン パソコン本体	
FMV-STYLISTIC TB13/B	TB/B		
FMV-STYLISTIC TB13/R	TB/R		
Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition 2005	Windows XP Tablet PC Edition 2005	Windows XP	Windows
Microsoft® Windows® XP 日本語版 Service Pack	SP		
Norton AntiVirus™ 2006	Norton AntiVirus		
Roxio Easy Media Creator	Easy Media Creator		
InterVideo WinDVD™ 5	WinDVD		
Adobe® Reader™ 7.0	Adobe Reader		

■ お問い合わせ先 / URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2006 年 10 月現在のものであります。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください (→『取扱説明書』)。

商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Intel、Intel、Intel Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。

xD-ピクチャーカード™ は富士写真フイルム株式会社の商標です。

「メモリースティック」、「メモリースティック PRO」、「メモリースティック Duo」、「メモリースティック PRO Duo」、

「マジックゲート」は、ソニー株式会社の商標です。

SD カードおよび SD ロゴは、SD ASSOCIATION の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2006

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo

第 1 章

各部名称

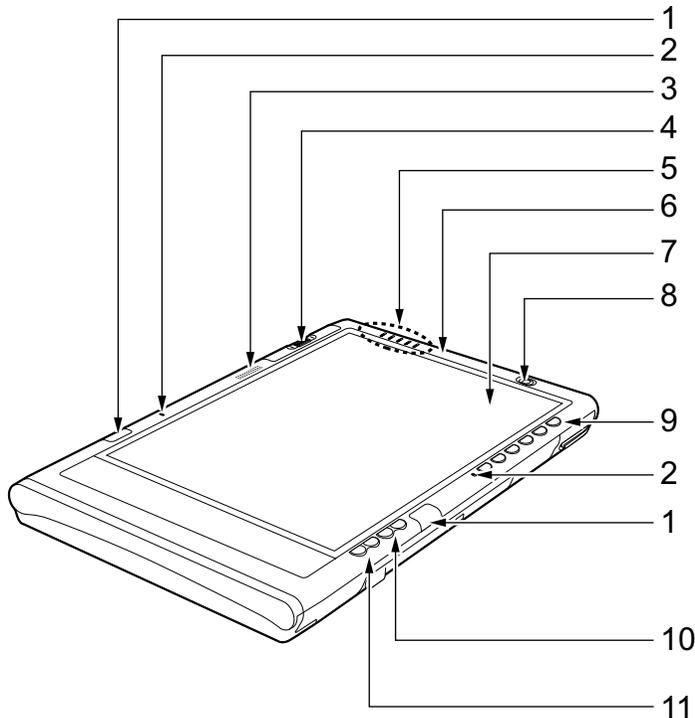
各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	12
2 状態表示 LED について	25
3 タブレットボタンについて	27
4 セキュリティボタンについて	29

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



(イラストは機種や状況により異なります)

1 ワイヤレスキーボード受光部

ワイヤレスキーボードの赤外線信号を受信します。

「ハードウェア」 - 「ワイヤレスキーボードについて」 (→ P.44)

2 内蔵マイク

音声を録音できます。

POINT

- ▶ TB/S、TB/B ではステレオ、TB/R ではモノラルで音声を録音できます。
- ▶ カラオケソフトなど、マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調整するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」(消音)にしてください。詳しくは、「機能」 - 「音量の設定」 (→ P.105) をご覧ください。
- ▶ 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

3 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。
「機能」－「音量の設定」(→ P.105)

POINT

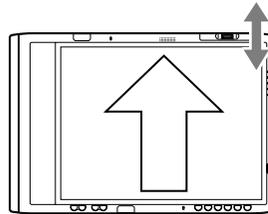
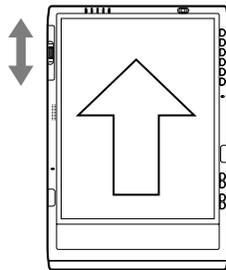
- ▶ 音量はスピーカーから聞こえる音が歪まない範囲に設定や調整をしてください。スピーカーが故障する原因となります。

4 指紋センサー (TB/S、または TB/B のみ)

指紋を識別してユーザー認証を行うことができます。
「セキュリティ」－「指紋センサー」(→ P.132)

POINT

- ▶ お使いになるソフトウェアによっては、指紋センサーのスクロール機能による画面のスクロールができない場合があります。
- ▶ 指紋センサーのスクロール機能の速度は、「指紋センサー」ウィンドウで変更できます。「指紋センサー」ウィンドウを表示するには、「コントロールパネル」ウィンドウの関連項目にある「コントロールパネルのその他のオプション」－「指紋センサー」アイコンをタップしてください。
- ▶ 指紋センサーのスクロール機能をお使いになる場合は、画面の表示の向きに対して指先を上下方向にスライドさせてください。



↑ : 画面の表示の向き
↑↓ : 指先をスライドする向き

5 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。
「状態表示 LED について」(→ P.25)

6 内蔵無線 LAN アンテナ

無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。
本パソコンの使用時、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分には極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所は避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
「機能」－「無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について」(→ P.109)

POINT

- ▶ 無線 LAN については、『IEEE 802.11a/g 準拠 内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

7 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

お使いの機種により、次のいずれかが取り付けられています。

- ・ 12.1 型 TFT カラー液晶ディスプレイ
- ・ 10.4 型 TFT カラー液晶ディスプレイ

POINT

▶ 液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・ 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで行えます。詳しくは、「機能」－「省電力の設定」（→ P.115）をご覧ください。また、スクリーンセーバーの設定については、Windows のヘルプをご覧ください。
- ・ 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

8 電源ボタン (⏻)

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（中断）／レジューム（回復）させるためのボタンです。

POINT

▶ 電源ボタンを 4 秒以上押さないでください。

電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

9 タブレットボタン／セキュリティボタン

ボタンを押すだけで、ソフトウェアの起動や E メール受信などを行うことができます。また、添付のソフトウェア「セキュリティボタン」をインストールするとセキュリティボタン機能を使用することができます。

添付のソフトウェア「セキュリティボタン」でパスワードを設定することにより、ユーザー認証を行うことができます。

「セキュリティ」－「セキュリティボタン」（→ P.131）

10 Page Up/Page Down ボタン

前のページまたは次のページに切り替えるときに使います。

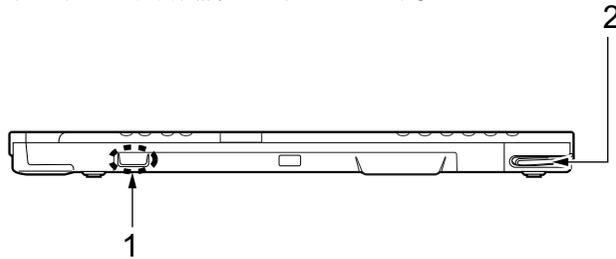
タブレットボタンの「Fn」ボタンを押した後このボタンを押すと、キーボードの【Tab】キーと同じ動作をします。

11 カーソルボタン

カーソルを上下に移動するときに使います。タブレットボタンの「Fn」ボタンを押した後このボタンを押すと、カーソルが左右に移動します。

パソコン本体右側面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 内蔵無線 LAN アンテナ

無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。

本パソコンの使用時、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分には極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所は避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

「機能」－「無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について」(→ P.109)

POINT

- ▶ 無線 LAN については、『IEEE 802.11a/g 準拠 内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

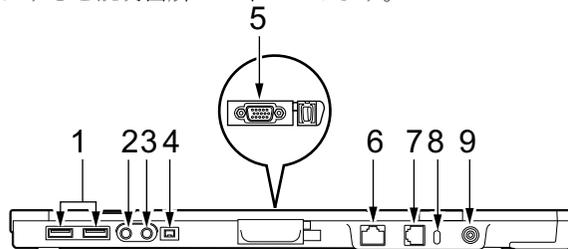
2 ペン収納スロット

ペンを収納するスロットです。

「ハードウェア」－「タブレットについて」(→ P.33)

パソコン本体左側面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



重要

- ▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 USB コネクタ (🔌)

FDD ユニット (USB) や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

POINT

- ▶ ハブなどを経由してUSB2.0に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

2 ヘッドホン端子 (🎧)

市販のヘッドホンを接続するための端子です (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠ 注意

- ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



- 電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

3 マイク端子 (🎤)

市販のマイクを接続し、音声 (モノラル) を録音するための端子です (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。

ただし、市販されているマイクの一部の機種 (ダイナミックマイクなど) には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

4 IEEE1394 端子 (🔌)

IEEE1394 規格の周辺機器を接続するコネクタです。

5 外部ディスプレイコネクタ (🖥)

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

ドッキングステーション接続時には、ドッキングステーションの外部ディスプレイコネクタをお使いください。

「ハードウェア」 - 「外部ディスプレイについて」 (→ P.82)

6 LAN コネクタ (🌐)

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

ドッキングステーション接続時には、ドッキングステーションの LAN コネクタをお使いください。

「機能」 - 「LAN について」 (→ P.108)

7 モデムコネクタ (📡)

モジュラーケーブルを接続するためのコネクタです。

POINT

- ▶ 内蔵モデムについては『内蔵モデムをお使いになる方へ』をご覧ください。

8 盗難防止用ロック取り付け穴

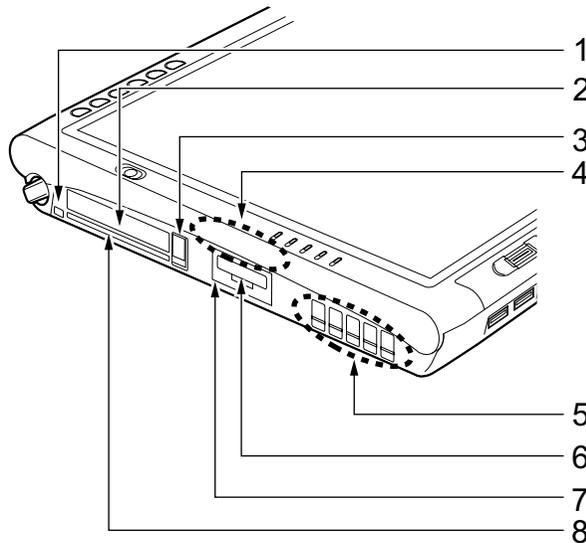
市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

9 DC-IN コネクタ (🔌)

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

パソコン本体上側面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



(イラストは機種や状況により異なります)

重要

▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 ペンひも取り付け用穴

ペンひもを本体に取りつけるための穴です。

2 PC カードスロット

お使いになる PC カードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」－「PC カードをセットする」(→ P.73)

3 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

「ハードウェア」－「PC カードを取り出す」(→ P.74)

4 内蔵無線 LAN アンテナ

無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。本パソコンの使用上、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分には極力触れないでください。

また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所は避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

「機能」－「無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について」(→ P.109)

POINT

▶ 無線 LAN については、『IEEE 802.11a/g 準拠 内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

5 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。このため、起動時や動作中にファンによる回転音が発生しますが、パソコンの冷却のためであり、異常ではありません。

⚠ 注意



- 排気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

👉 重要

- ▶ 排気孔からは熱風がでます。排気孔付近には手を触れないでください。
- ▶ 排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。

6 SD カード／メモリースティックスロット

SD メモリーカード、またはメモリースティックをセットするためのスロットです。
「ハードウェア」－「メモリーカードをセットする」(→ P.78)

7 赤外線通信ポート

赤外線通信を行うためのインターフェースです。

🔍 POINT

- ▶ 赤外線通信ポートは、「ワイヤレスリンク」にてお使いになれます。
- ▶ 赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。
- ▶ 赤外線通信は、プラズマディスプレイやプラズマカラーテレビの側では行わないでください。本パソコンが正常に動作しない場合があります。

8 スマートカードスロット ()

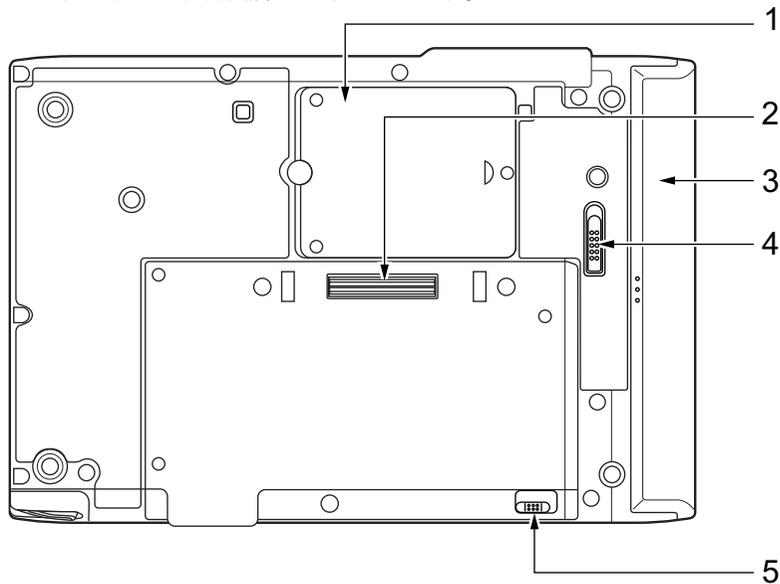
スマートカードをセットするためのスロットです。

🔍 POINT

- ▶ スマートカードをセットする方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。

パソコン本体背面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 拡張 RAM モジュールスロット

本パソコンのメモリをセットするためのスロットです。
「ハードウェア」－「メモリについて」(→ P.68)

2 ドッキングステーション接続コネクタ

ドッキングステーションを接続するためのコネクタです。
「ハードウェア」－「ドッキングステーションについて」(→ P.65)

3 内蔵バッテリーパック

内蔵バッテリーパックが装着されています。
「ハードウェア」－「内蔵バッテリーパックを交換する」(→ P.55)

4 内蔵バッテリーパックロック

内蔵バッテリーパックを取り外すときにスライドさせます。

5 ワイヤレススイッチ

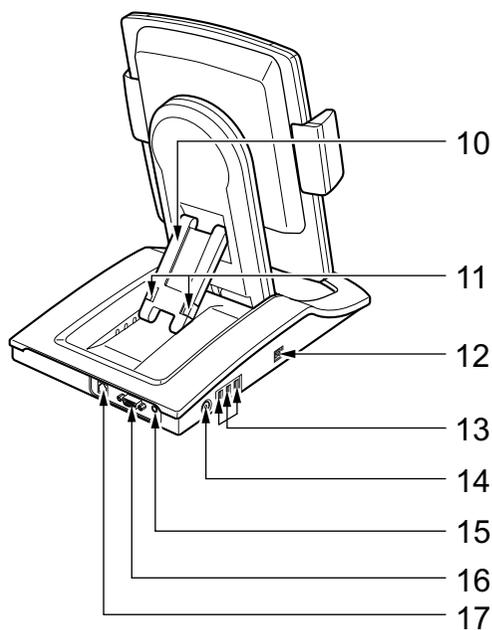
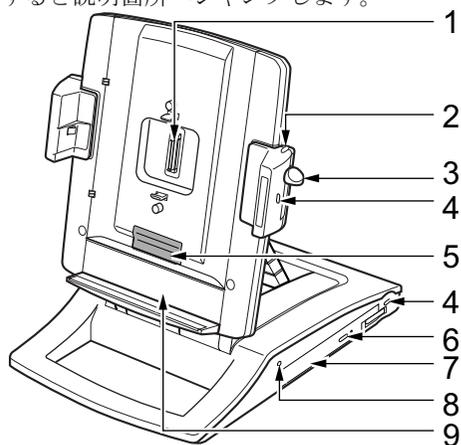
無線 LAN による通信機能の ON と OFF を切り替えます。
病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。
「機能」－「無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について」(→ P.109)

POINT

- ▶ 無線 LAN については、『IEEE 802.11a/g 準拠 内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

ドッキングステーション

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



重要

- ▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- ▶ ドッキングステーション接続時には、パソコン本体の LAN コネクタ、外部ディスプレイコネクタ、ワイヤレススイッチはお使いになれません。
- ▶ お使いの機種によってはドッキングステーションは添付しておりません。お使いになる場合は、別売のドッキングステーションをご購入ください。

POINT

- ▶ ドッキングステーションは、パソコン本体の電源が入っているときでも、取り付け、取り外しができます。通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルタップして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「内蔵 DVD/CD ドライブ」や「USB オプション」を「停止」にしてから取り外してください。

1 本体接続コネクタ

パソコン本体と接続するためのコネクタです。

警告

- 本体接続コネクタに手を触れないでください。異物（金属片、液体など）が入らないようにしてください。
感電・火災・故障の原因になります。

2 ロック解除ボタン

ロックレバーのロックを解除する場合に押します。

3 ロックレバー

本体を取り付けるときは、下にスライドしてロックします。本体を取り外すときは、ロック解除ボタンを押しながら上にスライドして、ロックを解除します。

4 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

5 冷却ファン

パソコン本体背面に空気を吹き付け、効率よく冷やします。

6 CD/DVD 取り出しボタン

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブにディスクをセットしたり、取り出すときに押します。

7 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ

CD-ROM/R/RW または DVD-ROM の情報を読み出したりできます。

「ハードウェア」－「CD / DVD について」(→ P.57)

POINT

- ▶ DVD-ROM&CD-R/RW ドライブはパソコン本体の電源が入っているときに、取り付け、取り外しはできません。必ずパソコン本体の電源を切ってから行ってください。

8 CD アクセスランプ

CD-ROM や DVD-ROM からデータを読み込んでいるときや CD-R/RW ディスクにデータを書き込んでいるとき、音楽 CD などを再生しているときに点滅します。

9 バッテリーガイド

パソコン本体にバッテリーパック (L) を取り付けている場合、下にスライドさせます。

10 角度調節バー

角度を調整します。

11 角度調節バー固定／解除ボタン

角度調節バーで角度を調節するときに押します。

12 IEEE1394 端子 (1394)

IEEE1394 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

13 USB コネクタ ()

FDD ユニット (USB) や、USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

POINT

- ▶ ハブなどを経由してUSB2.0に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

14 DC-IN コネクタ ()

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

15 ラインアウト端子 ()

オーディオ機器などの音声入力端子を接続します。

16 外部ディスプレイコネクタ ()

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。
「ハードウェア」 - 「外部ディスプレイについて」 (→ P.82)

17 LAN コネクタ ()

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。
「機能」 - 「LAN について」 (→ P.108)

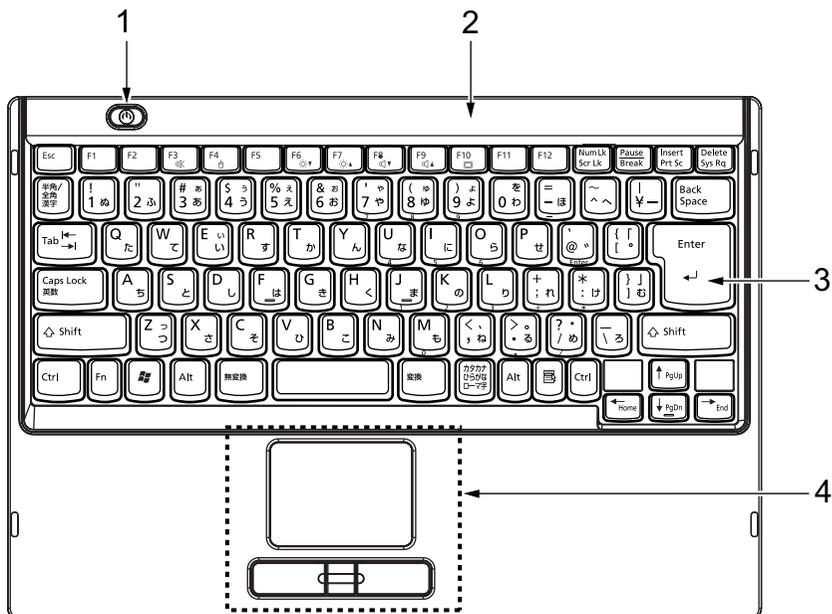
ワイヤレスキーボード

POINT

- ▶ お使いになる機種によっては、ワイヤレスキーボードが添付されています。

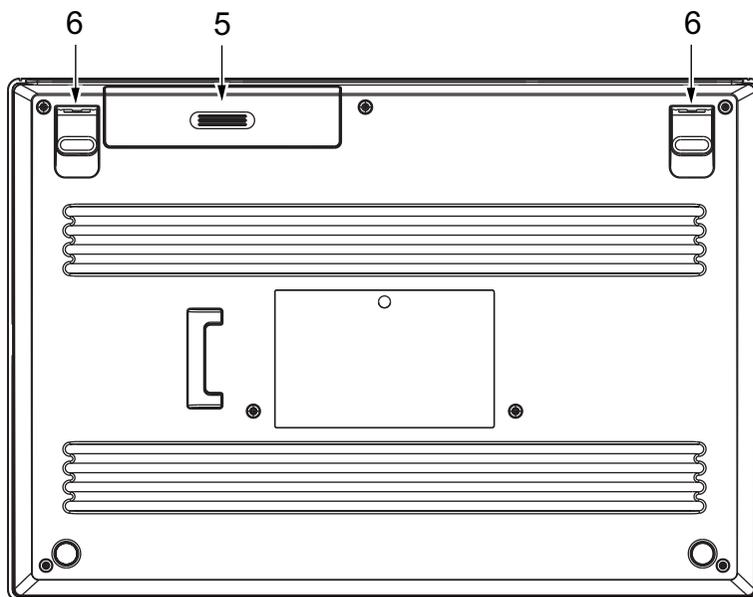
各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

■ 上面

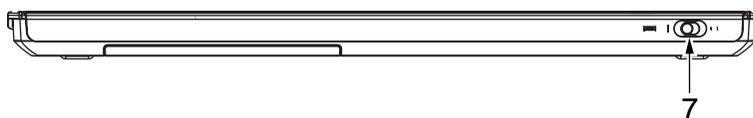


1

■ 下面



■ 背面



1 電源ボタン (⏻)

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（中断）／レジューム（回復）させるためのボタンです。

POINT

- ▶ 電源ボタンを4秒以上押さないでください。
電源ボタンを4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

2 赤外線送信部

パソコン本体に赤外線信号を送信します。

3 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」(→ P.44)

4 フラットポイント

マウスポインタを操作します。

中央のスクロールボタンを押すと、画面が上下にスクロールします。

「ハードウェア」－「ポインティングデバイスについて」(→ P.33)

5 電池カバー

単4アルカリ乾電池4本を入れます。

6 チルトフット

お好みに応じて起こすことにより、キーボードに角度をつけることができます。

7 ワイヤレスキーボードスイッチ

ワイヤレスキーボードのON/OFFを切り替えます。

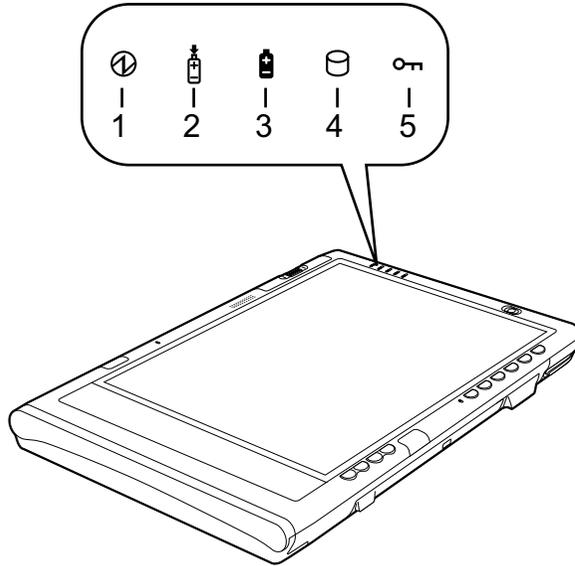
○側にスライドするとワイヤレスキーボードの機能がすべて停止します。ワイヤレスキーボードを使用するときには|側にスライドします。

重要

- ▶ キー操作をまったく行わない場合でも、ワイヤレスキーボードのフラットポイントは微量の電力を消費し続けます。ワイヤレスキーボードをお使いにならないときは、必ずワイヤレスキーボードスイッチを○側にスライドさせてください。

2 状態表示 LED について

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 電源ランプ

本パソコンの状態を表示します。

LED 表示	パソコン本体の状態
緑色点灯	動作状態
緑色点滅	スタンバイ
消灯	電源 OFF または休止状態

2 バッテリ充電ランプ

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリーパックの充電状態を表示します。

LED 表示	バッテリーパックの充電状態
緑色点灯	充電終了またはバッテリーパック未装着で非充電
オレンジ点灯	充電中
オレンジ点滅	充電停止中 (バッテリー温度アラーム時など ^注)
消灯	AC アダプタ未接続により充電動作なし

注：バッテリー温度アラームとは、内蔵バッテリーパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなった場合に、バッテリーの保護機能が働いて充電を停止することです。

3 バッテリ残量ランプ

本パソコンに接続されている内蔵バッテリーパックの残量を表示します。

LED 表示	バッテリーの状態
緑色点灯	バッテリー残量 100～51% ^注
オレンジ点灯	バッテリー残量 50～13% ^注
赤色点灯	バッテリー残量 12%以下 ^注
オレンジ点滅	バッテリー残量計測中（内蔵バッテリーパック装着後 4 秒間）
赤色点滅	バッテリー異常時
消灯	バッテリー未接続時またはバッテリー残量 0%

注：動作状態またはバッテリー充電中。

POINT

- ▶ 電源 OFF 時に内蔵バッテリーパックを装着すると、バッテリー残量ランプはオレンジ点滅後、そのときのバッテリー残量を 5 秒間表示します。
なお、内蔵バッテリーパックが充電されていない場合はそのまま消灯します。
- ▶ スタンバイでバッテリーを充電していないときは、LED 表示が点灯ではなく点滅になります。その場合の点滅の間隔は、約 1 秒間点灯し、約 6 秒間消灯となります。
- ▶ バッテリー残量が 0% の場合、電源が入りません。AC アダプタを接続し、充電してからお使いください。

4 ハードディスクアクセスランプ

本パソコンの内蔵ハードディスクにアクセスしている場合に表示します。

LED 表示	ハードディスクアクセス状態
緑色点灯	ハードディスクアクセス中
消灯	ハードディスクアクセスなし

POINT

- ▶ ハードディスクアクセスランプが点灯中は、電源ボタンを押さないでください。ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。

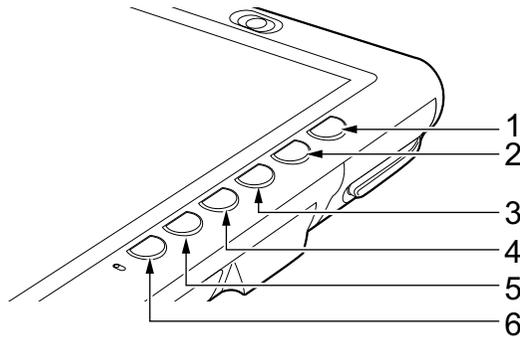
5 セキュリティランプ

添付のソフトウェア「セキュリティボタン」でパスワードを設定している場合、パスワード要求時に点灯します。パソコン本体の電源を入れたときやレジューム時にセキュリティランプが点灯したらパスワードを入力してください。

LED 表示	セキュリティの状態
緑色点灯	パスワード要求時
消灯	パスワード未設定またはパスワード解除時

3 タブレットボタンについて

タブレットボタンは、パソコンの各種機能呼び出すためのボタンです。ボタンを押すだけでソフトウェアの起動やEメールの受信などが行えます。各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Del】 ボタン

2秒以上押し続けると、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウまたは「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示され、システムを強制終了できます。

これは、キーボードで【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Del】 キーを押したときと同じ動作です。

2 E-mail ボタン

メールソフトが起動します。

POINT

- ▶ あらかじめメールソフトの設定を行っておく必要があります。

3 ローテーションボタン

画面の縦横の表示を切り替えます。

4 Esc ボタン

キーボードで【Esc】キーを押したときと同じ動作をします。

5 Enter ボタン

キーボードで【Enter】キーを押したときと同じ動作をします。

6 Fn ボタン

本パソコン独自のボタンです。2回押しすと本パソコンを使用するのに便利な「富士通メニュー」が表示されます。

POINT

- ▶ 「富士通メニュー」はディスプレイの明るさの設定や、音量の設定などの各種設定を、簡単に行えるメニューです。
- ▶ 「富士通メニュー」は必要に応じてファイルやアプリケーションの起動を追加登録することができます。
 1. 「Fn」ボタンを2回押します。
「富士通メニュー」が表示されます。
 2. 「富士通メニューの設定」をタップします。
「富士通メニューの設定」ウィンドウが表示されます。

3. 「追加」ボタンをタップします。
「メニューアイテムの設定」ウィンドウが表示されます。
 4. 画面の指示に従い、「名前」と「ファイル」を入力して、「OK」をタップします。
 5. 「OK」をタップします。
 6. 「「富士通メニュー」の設定は保存されました。」と表示されたら、「OK」をタップします。
- ▶ ボタンパネルを無効にしている場合、「Fn」ボタンを2回押しても「富士通メニュー」は表示されません。この場合、通知領域の「富士通メニュー」アイコンをダブルクリックすることで表示させることができます。
- 通知領域に「富士通メニュー」アイコンが表示されない場合は、「C:\program files\fujiitsu\utils\fmjmenu.exe」を実行して「富士通メニュー」を表示させてください。

「Fn」ボタンを押したあと他のボタンを押すと、次のような機能で使うことができます。

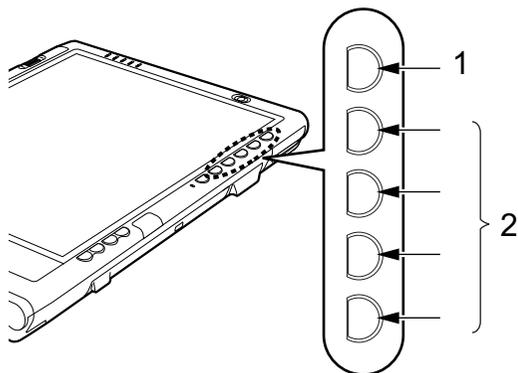
ボタン	機能
E-mail ボタン	ブラウザが起動します。
ローテーションボタン	外部ディスプレイ接続時に、画面の表示を切り替えます。
Esc ボタン	キーボードで【  】キーを押したときと同じ動作をします。
Enter ボタン	キーボードで【alt】キーを押したときと同じ動作をします。

POINT

- ▶ 「Fn」ボタンを押しながら、「Esc」ボタンまたは「Enter」ボタンを押したときに割り当てられている機能を変更できます。
1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をタップします。
「プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウが表示されます。
 3. 「タブレットとペンの設定」をタップします。
「タブレットとペンの設定」ウィンドウが表示されます。
 4. 「タブレットのボタン」タブをタップします。
「タブレットボタン」の一覧で、変更したいタブレットボタンの名前をタップします。
 5. 「変更」をタップしてタブレットボタンの設定を変更します。
- ▶ 変更したタブレットボタンの設定が有効になるのは、再起動した後です。
- ▶ すべてのタブレットボタンを変更できるわけではありません。
- ▶ コントロールパネルの「タブレットとペンの設定」ウィンドウは、通知領域にある「タブレットとペンの設定を変更します」をダブルタップしても表示できます。

4 セキュリティボタンについて

セキュリティボタンには、数字ボタンと Enter ボタンがあります。
各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 Enter ボタン

パスワードを設定するとき、または入力したパスワードを確定してセキュリティを解除するときを押します。

2 数字ボタン

パスワードを入力するときを押します。

POINT

▶ セキュリティボタンについては『セキュリティボタン取扱説明書』をご覧ください。

Memo

第2章

ハードウェア

2

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に	32
2 ポインティングデバイスについて	33
3 キーボードについて	44
4 バッテリーについて	51
5 CD / DVD について	57
6 ドッキングステーションについて	65
7 メモリについて	68
8 PC カードについて	73
9 メモリーカードについて	77
10 外部ディスプレイについて	82
11 ハードウェアのお手入れ	84

1 周辺機器を取り付ける前に

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付け後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらぬ機器もあります。周辺機器は、本書をよくご覧になり、正しく接続してください。

- **マニュアルをご覧ください**

ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

- **純正品をお使いください**

弊社純正の周辺機器については、FMV-STYLISTICの「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

- **ACPIに対応した周辺機器をお使いください**

本パソコンはACPIモードに設定されています。ACPIモードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。

お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。

- **周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください**

電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

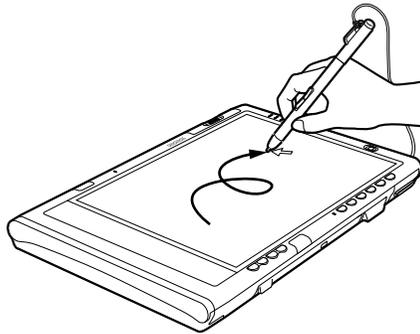
重要

- ▶ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ▶ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定をしてください。

2 ポインティングデバイスについて

タブレットについて

本パソコンは電磁誘導式です。ペンで画面を触れず近づけるだけで、マウスポインタを操作することができます。画面上を直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。



画面上でペンを使って操作します。

POINT

- ▶ ペンをお使いになる場合、力をいれて画面をなぞる必要はありません。画面に近づけて移動させるだけでマウスポインタを操作できます。
- ▶ 必ず添付のペンで操作してください。指先やボールペンなどでは操作できません。
- ▶ ペンの紛失を防ぐために、添付のペンひもをお使いください。
ペンひもで、ペンとパソコン本体のペンひも取り付け用穴を結び付けます。
- ▶ ペンを破損したり紛失したときは予備のペンをご購入ください。

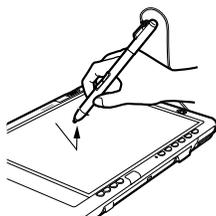
商品名：STYLISTIC スタイラスペン II

商品番号：0635193

STYLISTIC スタイラスペンは、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

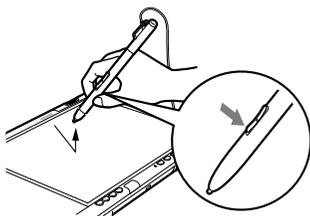
■ タブレットの使い方

● タップ



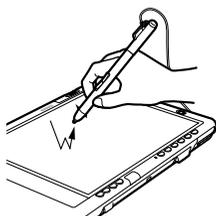
ペンで画面を1回押します。
マウスの左クリックと同様の操作です。

● 右タップ



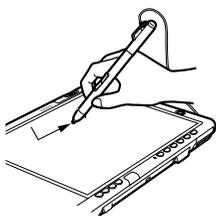
ペンボタン1 (→ P.35) を押しながら画面をタップし離します。また、ペンで画面を長押しして「マウス」アイコンが表示されてから、ペンを離しても右タップになります。
マウスの右クリックと同様の操作です。

● ダブルタップ



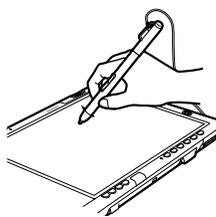
ペンで画面を素早く2回連続して押します。
マウスのダブルクリックと同様の操作です。

● ドラッグ



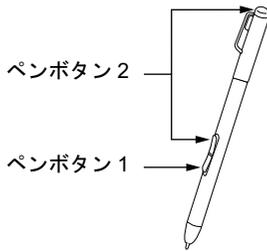
画面に軽く押し付けながらなぞります。

● ポイント



ペン先を画面に近づけたり、軽く触れます。

■ ペンボタンの機能について



ペンボタンの機能については、「ペンのオプション」ウィンドウをご覧ください。

「ペンのオプション」ウィンドウを表示するには、「コントロールパネル」ウィンドウの関連項目にある「コントロールパネルのその他のオプション」－「ペンのオプション」アイコンをタップしてください。

なお、ペンの側面にあるペンボタン 2 とペンボタン 1 は、押さえながらペン先で画面を操作することにより使用できます。

また、ペンボタン 2 の上部は、上部を画面に押し当てて操作することにより使用できます。このとき、上部が少し引込む程度の強さで押し当ててください。

ペンを使った文字入力について

「Tablet PC 入力パネル」とペンを使って、手書きで文字を入力できます。

「Tablet PC 入力パネル」には機能の異なる 3 つのボタンが用意されていますが、ここでは「文字パッド」ボタンを使った文字の入力方法を説明します（→ P.35）。

POINT

- ▶ 「Tablet PC 入力パネル」のその他の機能
 - ・「手書きパッド」ボタン
手書きで入力した文字を自動的に認識し、テキストに変換します。
 - ・「スクリーンキーボード」ボタン
キーボードと同様の操作ができます。
- ▶ 「文字パッド」ボタンの場合、「手書きパッド」ボタンとは異なり、書いた文字が 1 文字ずつ自動的に認識され、テキストに変換されます。
- ▶ ペンの詳しい操作方法については、「Tablet PC 入門」、「Tablet PC チュートリアル」をご覧ください。

■ 「Tablet PC 入力パネル」で手書き入力をする

□ 入力方法

- 1** 「メモ帳」を起動します。
- 2** 「メモ帳」ウィンドウで、文字を入力する位置をタップします。
「Tablet PC 入力パネル」アイコンが表示されます。

POINT

- ▶ 「Tablet PC 入力パネル」が表示されない場合は、タスクバーにある「Tablet PC 入力パネル」アイコンをタップして、「Tablet PC 入力パネル」を表示させることができます。

3 「Tablet PC 入力パネル」アイコンをタップします。

「Tablet PC 入力パネル」が表示されます。



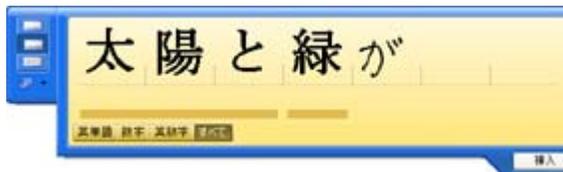
4 「文字パッド」ボタンをタップします。

POINT

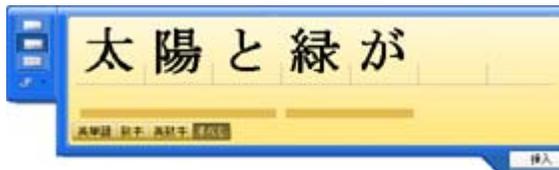
- ▶ 初めて「Tablet PC 入力パネル」を表示した場合は、「文字パッド」ボタンが選択されています。

5 手書き入力領域に、ペンで文字を書きます。

書いた文字は1文字ずつ自動的に認識されます。



しばらくすると、認識された文字が表示されます。



6 文字を間違えたり異なる文字に認識されたりした場合は、修正します。

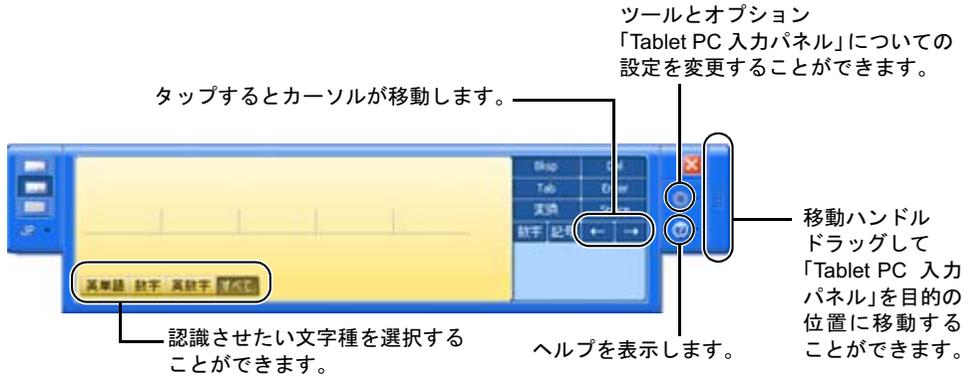
- ・間違った文字の真上に正しい文字を書き直すことができます。
- ・異なる文字に認識された場合は、修正したい文字をポイントして下向き矢印をタップすると、修正候補一覧が表示され、正しい文字を選択することができます。また、「クリア」を選択すると、文字を削除することができます。
- ・手書きで入力した文字を漢字に変換する場合は、認識された文字の下に表示される下線をタップし、一覧から変換したい漢字を選択します。

7 認識された文字をすべて「メモ帳」に入力する場合は、「挿入」または「メモ帳」ウィンドウをタップします。

「メモ帳」に文字が入力されます。

□ その他

● 「文字パッド」 ボタンのその他の機能

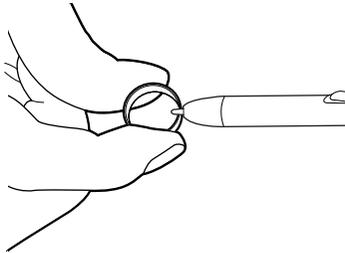


● 「手書き入力領域のサイズ」設定

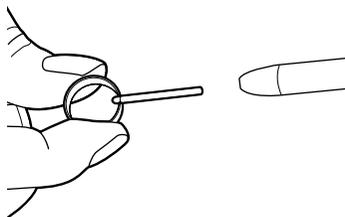
1. 「Tablet PC 入力パネル」で、「ツールとオプション」ボタン→「オプション」の順にタップします。
「オプション」ウィンドウが表示されます。
2. 「文字パッド」タブをタップし、「手書き入力領域のサイズ」のつまみを調節して、大きさを設定します。

ペン先の交換方法

1. ペン先をペン本体から引き抜きます。
添付のクリップでペン先をはさみます。



2. ペン先がペン本体から外れるまで、まっすぐ引き抜きます。



3. 新しいペン先をペン本体に差し込みます。
ペン先の向きを確かめて、ペン本体の穴にまっすぐ差し込みます。

フラットポイントについて

POINT

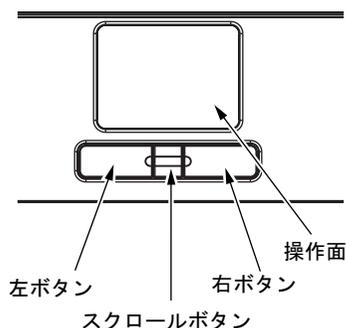
- ▶ お使いになる機種によっては、ワイヤレスキーボードが添付されています。

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインタ（画面上の矢印）を動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその手前にある 2 つのボタン、および中央のスクロールボタンで構成されています。

操作面は、マウスでいえばボールやセンサー部分の機能を持ち、操作面を上下左右に指先でなぞることにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたくことにより、クリックやダブルクリック、ドラッグなどの操作を行うこともできます。

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。

中央のスクロールボタンは、前後方向に押すことにより、簡単に画面を上下にスクロールできます。

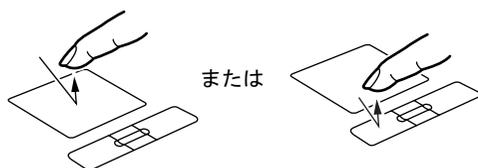


POINT

- ▶ フラットポイントは、その動作原理上、お使いになる方の指先の乾燥度などにより、ポインティング動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- ▶ フラットポイントは表面の結露、湿気などにより、誤動作することがあります。また濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合はマウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- ▶ お使いになるソフトウェアによっては、スクロールボタンのスクロール機能による画面のスクロールができない場合があります。

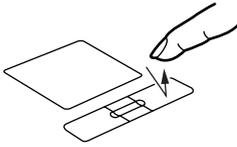
■ フラットポイントの使い方

- クリック



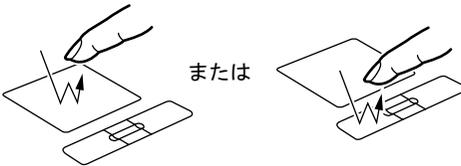
操作面を 1 回軽くたたくか、左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。

● 右クリック



右ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。

● ダブルクリック



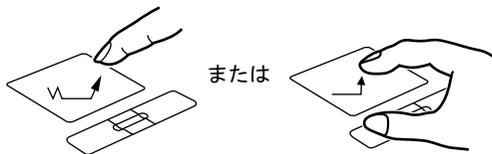
操作面を 2 回連続して軽くたたか、左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。

● ポイント



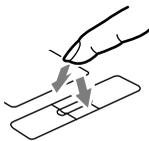
マウスポインタをメニューなどに合わせることで、マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ



マウスポインタを任意の位置に移動し、操作面を素早く 2 回軽くたたき、2 回目にたたいたときに指を操作面上から離さないで希望の位置までなぞり、指を離します。または、マウスポインタを任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。

● スクロール



戻る：向こうに押す
進む：手前に押す

ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてからスクロールボタンを前後方向に押し、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

POINT

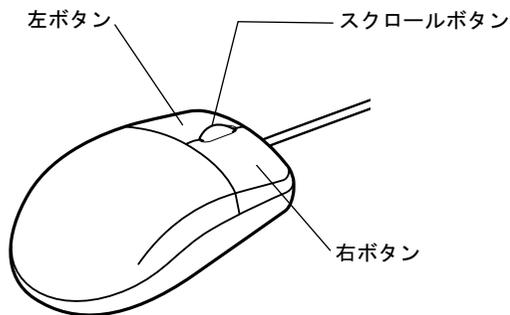
- ▶ 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで変更できます。
また、「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、マウスポインタやダブルクリック、スクロールの速度なども変更できます。
「マウスのプロパティ」ウィンドウを表示するには、「コントロールパネル」ウィンドウの「プリンタとその他のハードウェア」－「マウス」アイコンをクリックしてください。
- ▶ フラットポイントの操作面でクリックなどの操作を行う場合は、指先で軽く、素早く触れてください。力を入れて行う必要はありません。
- ▶ マウスポインタは、フラットポイントの操作面をなぞった方向に移動します。操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から離し、適当な場所に指を降ろしてからもう一度なぞってください。

マウスについて

重要

- ▶ お使いの機種によって USB マウス（光学式）は添付されていません。
お使いになる場合は、別売の USB マウス（光学式）をご購入ください。
特に断りがない場合は、USB マウス（光学式）を「USB マウス」と呼んでいます。

■ USB マウス（光学式）



POINT

- ▶ マウスは、定期的にクリーニングしてください（→ P.85）。
- ▶ お使いになるソフトウェアによってはスクロールボタンによる画面のスクロールができない場合があります。

□ USB マウス（光学式）について

USB マウス（光学式）は、底面からの赤い光により照らし出されている陰影をオプティカル（光学）センサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

重要

- ▶ オプティカル（光学）センサーについて

- ・ マウス底面から発せられている赤い光を直接見ると、眼に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- ・ センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- ・ 発光部分を他の用途に使用しないでください。

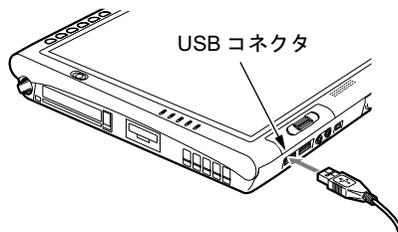
POINT

- ▶ USB マウス（光学式）は、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- ▶ マウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。
- ▶ USB マウス（光学式）は、非接触でマウスの動きを検知しているため、特にマウスパッドを必要としません。ただし、マウス本体は接触しているため、傷がつきやすい机やテーブルの上では、傷を防止するためにマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

マウスの接続のしかた

1 パソコン本体左側面の USB コネクタに、USB マウスを接続します。

USB コネクタと USB マウスのコネクタの内側の形状を確認し、形を互いに合わせて、まっすぐに差し込んでください。



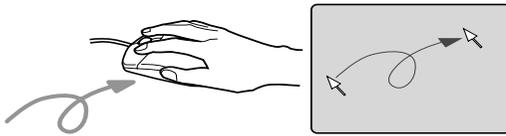
POINT

- ▶ USB マウスは、パソコンの電源が入った状態で取り付け、および取り外しができます。
- ▶ USB マウスによっては、ドライバのインストールが必要な場合があります。お使いになる USB マウスのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。
- ▶ Windows が起動していないときは、USB マウスはお使いになれません。

マウスの使い方

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、マウスポインタが同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



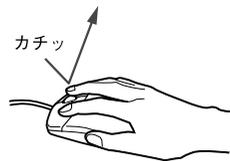
■ ボタンの操作

● クリック



マウスの左ボタンをカチッと1回押して、すぐ離すことです。

● 右クリック



マウスの右ボタンをカチッと1回押して、すぐ離すことです。

● ダブルクリック



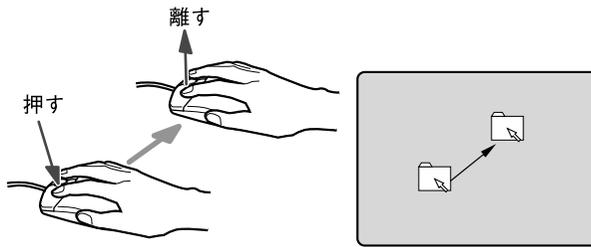
マウスの左ボタンをカチカチッと2回素早く押して、すぐ離すことです。

● ポイント



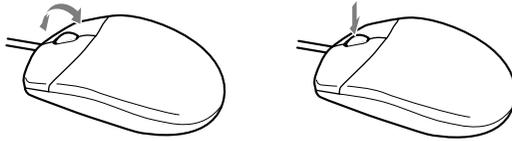
マウスポインタをメニューなどに合わせることです。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ



マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。

● スクロール



ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてからスクロールボタンを前後方向に回すと、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

また、第3のボタンとして押して使うこともできます。

POINT

- ▶ 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで変更できます。また、「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、マウスポインタやダブルクリック、スクロールの速度なども変更できます。「マウスのプロパティ」ウィンドウを表示するには、「コントロールパネル」ウィンドウの「プリンタとその他のハードウェア」－「マウス」アイコンをクリックしてください。

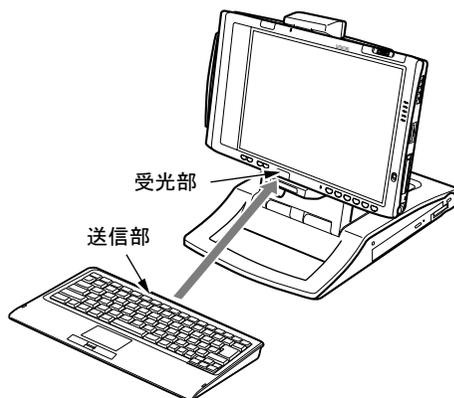
3 キーボードについて

ワイヤレスキーボードについて

重要

- ▶ お使いの機種によってはワイヤレスキーボードは添付されていません。お使いになる場合は、別売のワイヤレスキーボードをご購入ください。

ワイヤレスキーボードは、キーボードの操作を赤外線でパソコン本体に送信しています。ワイヤレスキーボードを使用する場合は、パソコン本体をドッキングステーション（→ P.65）に取り付けて固定し、キーボードの送信部をパソコン本体のワイヤレスキーボード受光部（→ P.12）に向けて操作してください。距離は 10 ～ 30cm の範囲での使用をお勧めします。



（イラストは機種により異なります）

重要

- ▶ ワイヤレスキーボードを使用する場合は、ドッキングステーションにパソコン本体をしっかり固定してください。不安定なまま使用すると、パソコン本体が倒れて、故障の原因となることがあります。

POINT

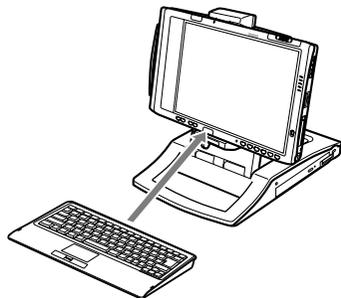
- ▶ 本パソコンでワイヤレスキーボードをお使いになる場合は、プラズマディスプレイやプラズマカラーテレビの側で使用しないでください。ワイヤレスキーボードが正常に動作しないことがあります。
- ▶ ワイヤレスキーボードを、パソコン本体の赤外線通信ポートに向けて操作しないでください。特に赤外線通信中は、ワイヤレスキーボードを使用しないでください。赤外線通信ポートが正常に動作しなくなります。
- ▶ 次の場合、うまく通信できないことがあります。
 - ・ ワイヤレスキーボードの送信部とパソコン本体が、真正面に向き合っていない場合
 - ・ ワイヤレスキーボードの送信部とパソコン本体の距離が離れすぎたり、間に遮断物がある場合
 - ・ テレビなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作している場合
 - ・ 直射日光や、蛍光灯・白熱灯などの強い光がワイヤレスキーボードの送信部やパソコン本体の受光部に当たっている場合

- ・ワイヤレスキーボードの送信部やパソコン本体の受光部が汚れている場合
- ▶ ワイヤレスキーボードのキーが押されたままになると、電池が短時間で消耗します。ワイヤレスキーボードの上に物を載せたり、ひっくり返して放置しないでください。

■ ID の設定について

複数のワイヤレスキーボードを隣接して使用する場合は、混信を防ぐため、各ワイヤレスキーボードに異なる ID を設定します。ID は、キーボードの【Fn】+左側の【Alt】+左側の【Shift】+【0】～【7】キーを押して設定します。

- 1** 【Fn】+左側の【Alt】+左側の【Shift】+【0】～【7】キーで任意の ID をキーボードに設定します。
- 2** ワイヤレスキーボードをパソコン本体に向けてキーを 2 回押し、パソコン本体に ID を認識させます。



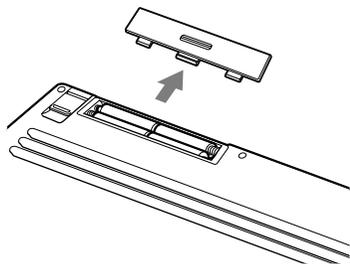
POINT

- ▶ ワイヤレスキーボードの工場出荷時の ID は“7”に設定されています。
- ▶ 次の場合はパソコン本体に設定した ID は解除されます。
 - ・パソコン本体から AC アダプタと内蔵バッテリーパックを取り外したとき
- ▶ 動作状態のパソコン本体の ID 設定（変更）は、パソコン本体とワイヤレスキーボードの ID が一致していないと行えません。
- ▶ ワイヤレスキーボードのキー入力が正常に行えなくなった場合は、いったん電池を取り出し、数回キーを押したあと、再度電池を入れてください。それでも正常に入力できない場合は、電池の寿命と考えられます。新しい電池と交換してください。

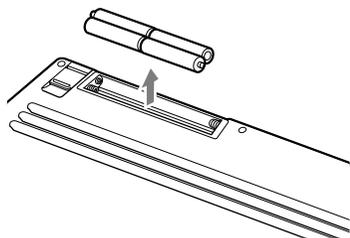
■ 電池交換について

ワイヤレスキーボードの電池は、単 4 電池を 4 本使用します。

- 1 電池カバーを矢印の方向にスライドし、取り外します。

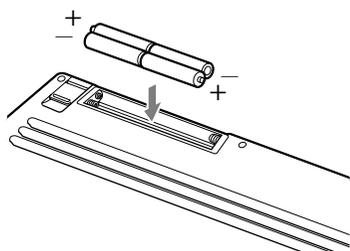


- 2 電池を取り出します。

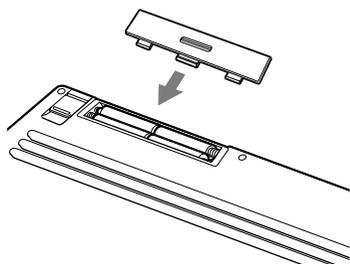


- 3 新しい電池を取り付けます。

電池のプラス (+) とマイナス (-) の向きを確認して正しく入れてください。



- 4 電池カバーを取り付けます。



重要

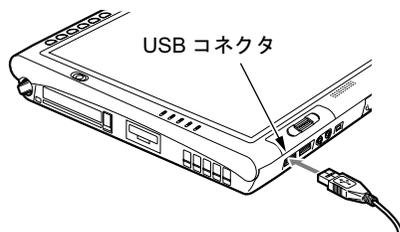
- ▶ ワイヤレスキーボードは、電池交換を行うと設定していた ID (→ P.45) が初期値 (7) に戻ります。電池交換後に任意の ID を再設定してください。

USB キーボードの接続について

重要

- ▶ お使いの機種には USB キーボードは添付されておりません。
お使いになる場合は、別売の USB キーボードをご購入ください。

USB キーボードのコネクタを、パソコン本体左側面の USB コネクタに接続します。このとき、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。



POINT

- ▶ ドッキングステーションに接続する場合
USB キーボードのコネクタをドッキングステーションの左側面の USB コネクタに、接続します。このとき、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- ▶ 本パソコンは、別売の USB マウス (FMV-MO203S)、FDD ユニット (USB) (FMV-NFD52S) を使用することもできます。USB 機器の使用については以下の点に留意してください。
 - ・ パソコン本体の電源が入った状態で取り付け/取り外しを行えます。
 - ・ 取り付け時はコネクタをまっすぐ接続してください。

OADG キーボード

キーボードのキーの役割を説明します。

キーは大きく分けると、制御キーと文字キーの2種類に分かれます。

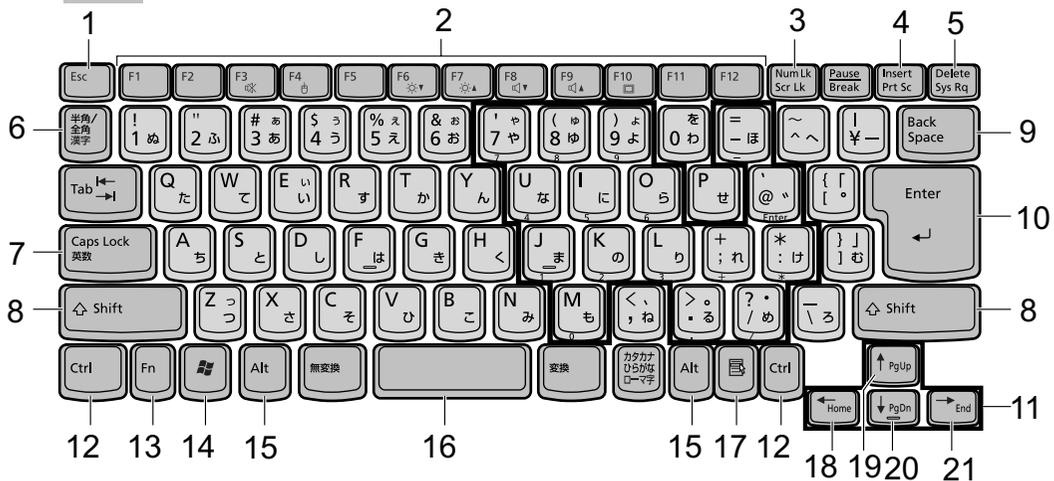
各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

POINT

- ▶ お使いになるソフトウェアにより、キーの役割が変わることがあります。
ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ▶ キーボードに青字で刻印されているキーは、【Fn】キーと一緒に押すとお使いになれます。

■ : 文字キー

■ : 制御キー



(イラストは機種により異なります)

■ 主なキーの名称と働き

1 【Esc】キー

アプリケーションの実行中の操作を取り消します。また、【Ctrl】+【Shift】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示され、ソフトウェアを強制終了できます。

2 【F1】～【F12】キー

ソフトウェアごとにいろいろな機能が割り当てられています。

3 【Num Lk】キー

テンキーモードに切り替えます。再度押すと、解除されます。
「テンキーモードについて」(→ P.50)

4 【Insert】キー／【Prt Sc】キー

【Insert】キー

文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

【Prt Sc】キー

【Fn】キーと一緒に押すと、画面のコピーをクリップボードに取り込みます。

また、【Alt】キーと一緒に押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

5 【Delete】 キー

カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。

また、【Ctrl】+【Alt】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」または「Windows のセキュリティ」が表示され、システムを強制終了できます。

6 【半角／全角】 キー

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

7 【Caps Lock】 キー

【Shift】キーと一緒に押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。Caps Lock を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力できます。

8 【Shift】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

9 【Back Space】 キー

カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

10 【Enter】 キー

入力した文字を確定したり、コマンドを実行したりします。
リターンキー、または改行キーとも呼ばれます。

11 【↑】【↓】【←】【→】 キー

カーソルを移動します。

12 【Ctrl】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

13 【Fn】 キー

本パソコン独自のキーです。
次のような働きがあります。

【Fn】 + 【Esc】	ワイヤレスキーボードのテンキーモードを切り替えます (→ P.50)。
【Fn】 + 【F3】	スピーカーやヘッドホンの ON/OFF を切り替えます。 「機能」 - 「キーボードで調節する」 (→ P.105)
【Fn】 + 【F4】	ワイヤレスキーボードにあるフラットポイントの有効と無効を切り替えます。
【Fn】 + 【F6】	液晶ディスプレイを暗くします。 「機能」 - 「液晶ディスプレイの明るさ設定」 (→ P.88)
【Fn】 + 【F7】	液晶ディスプレイを明るくします。 「機能」 - 「液晶ディスプレイの明るさ設定」 (→ P.88)
【Fn】 + 【F8】	音量を小さくします。 「機能」 - 「キーボードで調節する」 (→ P.105)
【Fn】 + 【F9】	音量を大きくします。 「機能」 - 「キーボードで調節する」 (→ P.105)
【Fn】 + 【F10】	外部ディスプレイ接続時に、液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。 「機能」 - 「表示装置の切り替え」 (→ P.97)

14 【Windows】 (Windows) キー

「スタート」メニューを表示します。

15 【Alt】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

16 【Space】 キー

空白を入力します（キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです）。

17 （アプリケーション） キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。
ペンの右タップと同じ役割をします。

18 【Home】 キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、次の画面に切り替えます。
また、【Ctrl】 キーと一緒に押すと、文章の最初に移動します。

19 【Pg Up】 キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、前の画面に切り替えます。

20 【Pg Dn】 キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、次の画面に切り替えます。

21 【End】 キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、カーソルを最後の行に移動します。
また、【Ctrl】 キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

POINT

- ▶ ワイヤレスキーボードで Caps Lock、Scroll Lock、Num Lock を切り替える場合は、必ずパソコン本体に向けて操作を行い、使用後は元の状態に戻してください。

■ テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー（数値入力を容易にするキー配列）として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【Num Lk】 キーで行い、上図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

POINT

- ▶ 別売のテンキーボードを接続している場合に【Num Lk】 キーを押してテンキーモードにすると、テンキーボードのテンキーが有効となります。

4 バッテリーについて

バッテリーを充電する

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続すると充電が始まります。

状態表示 LED のバッテリー充電ランプが点灯し、内蔵バッテリーパックの充電状態が表示されます。

2 バッテリー充電ランプがグリーン点灯に変わったことを確認し、AC アダプタを取り外します。

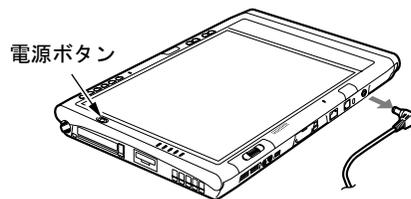
POINT

- ▶ 充電時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→P.188)をご覧ください。
- ▶ 本パソコンご購入時、または1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリーを充電してからお使いください。
- ▶ バッテリーの充電は、バッテリー充電ランプがグリーン点灯するまで十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- ▶ バッテリー残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力は低下します。
- ▶ バッテリー運用直後の充電などでは、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働いて充電が行われない場合があります(バッテリー充電ランプがオレンジ点滅します)。しばらくして、バッテリーの温度が低下すると充電が開始されます。

バッテリーで運用する

1 AC アダプタを取り外し、電源ボタンを押します。

電源ランプが点灯します。



POINT

- ▶ 周囲の温度が低いと、バッテリー稼働時間は短くなります。
- ▶ バッテリー稼働時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→P.188)をご覧ください。
- ▶ バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリー稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。
- ▶ バッテリーの温度が上昇すると、パソコンの動作が遅くなる場合があります。その場合は、ACアダプタを接続してください。

バッテリー残量を確認する

バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LED のバッテリー残量ランプで確認できます。

■ バッテリーの残量表示

緑色点灯／点滅 約 100%～約 51%のバッテリーレベルを示します。



オレンジ点灯／点滅 約 50%～約 13%のバッテリー残量を示します。



赤色点灯／点滅 LOW バッテリー状態（約 12%以下のバッテリーレベル）、または DEAD バッテリー状態（0%のバッテリーレベル）を示します。LOW バッテリー状態では、スピーカーが ON の場合は警告音が鳴ります。

POINT

- ▶ Windows の省電力機能で警告音がなるように設定できます。詳しくは、「機能」－「省電力の設定」（→ P.115）をご覧ください。
ただし、スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。【Fn】 + 【F3】 キーを押して、スピーカーの ON と OFF を切り替えてください。
- ▶ バッテリー残量表示は、バッテリー（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充放電回数など）により、実際のバッテリー残量とは異なる表示をする場合があります。
- ▶ バッテリー残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。

■ バッテリー温度アラーム（バッテリー充電ランプ）

バッテリー充電ランプのオレンジ点滅は、内蔵バッテリーパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったときに、バッテリーの保護機能が働いて充電を停止していることを表しています。しばらくして内蔵バッテリーパックの温度が平常に戻ると、オレンジ点灯になり充電を再開します。

■ バッテリーの異常表示（バッテリー残量ランプ）

バッテリー残量ランプの赤色点滅は、バッテリーが正しく充電できないことを示します。

POINT

- ▶ バッテリー残量ランプが赤色点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでもレッド点滅している場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。
「ハードウェア」－「内蔵バッテリーパックを交換する」（→ P.55）

■ LOW バッテリー状態

バッテリーが LOW バッテリー状態になると、状態表示 LED のバッテリー残量ランプが赤色点灯／点滅します。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリーを充電してください。また、携帯時など、AC アダプタを接続できない場合は、作業を終了させて電源を切ってください。その後、バッテリーパックを交換してください（→ P.55）。

 **POINT**

- ▶ Windows の省電力機能で警告音が鳴るように設定できます。詳しくは、「機能」－「省電力の設定」(→ P.115) をご覧ください。
ただし、「ボリュームコントロール」ウィンドウで「ミュート」にチェックをしていると、警告音が聞こえません。「ボリュームコントロール」ウィンドウでスピーカーの音量設定してください。
- ▶ Windows の起動前 (BIOS セットアップなど) では、警告音が鳴るように設定できません。
- ▶ LOW バッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のソフトウェアを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ▶ 本パソコンはバッテリー残量が約 1% になったら自動的に休止状態になるように設定されています。ただし、ハードディスクなどへデータを読み書きしている場合は、その処理が終了するまで休止状態になりません。設定を変更する場合は、次の項目のチェックを外してください。
 - ・「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリー切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」のチェックを外すと、バッテリーが切れた時点で電源が切断されます。
この場合、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。
- ▶ スタンバイ状態のときにバッテリー残量が約 1% になると、自動的にレジュームし、休止状態に移行する機能があります。この機能を使用する場合、次のように設定してください。
 - ・ BIOS セットアップ「詳細」メニューの「各種設定」－「自動 Save To Disk」(→ P.163) を「使用する」に設定してください。
ただし、この機能を使用する場合、次の設定は変更しないでください。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリー切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」
また、アラームの目盛りは 1% のまま、アラームの動作は「休止状態」のままにして変更しないでください。

取り扱い上の注意

⚠ 警告



- バッテリーの交換などで、バッテリーパックの取り付け／取り外しを行うときは、落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたバッテリーパックは使用しないでください。
感電や火災、バッテリーパックの破裂の原因となります。

- 分解しないでください。
バッテリーを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。
- 放電について
 - ・バッテリーは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
 - ・長期間（約1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
- 寿命について
 - ・パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。
 - ・高温環境に放置した場合、バッテリーの消耗、劣化が進みます。
 - ・バッテリーは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリーと交換してください。
 - ・バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリーの寿命です。
 - ・寿命になったバッテリーは、パソコン本体から取り外してください。取り付けたまま放置すると、感電や火災の原因となります。
- 廃棄・リサイクルについて
バッテリーを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外したバッテリーパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。
また、バッテリーパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
バッテリーパックのリサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。
- バッテリー稼働時間について
 - ・バッテリー稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します。詳しくは、「機能」－「省電力」（→ P.113）をご覧ください。
 - ・バッテリー稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリー稼働時間が短くなる場合があります。
- 次のような場合は AC アダプタを使用してください
 - ・ハードディスクや CDなどを頻繁に使用するとき
 - ・LAN やモデムを頻繁に使用するとき
 - ・本パソコンをご購入時の状態に戻すとき
 - ・PC カードや USB 機器を2つ以上同時に取り付ける場合
- 次のような場合は、バッテリー残量に注意してください
 - ・無線 LAN などのワイヤレス機器を使用するとき
 - ・BIOS セットアップを操作するとき

内蔵バッテリーパックを交換する

内蔵バッテリーパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。

警告

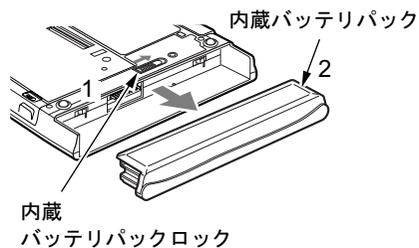


- バッテリーパックの交換を行う場合は、スタンバイや休止状態に移行するか、パソコン本体の電源を切って、AC アダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリーパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

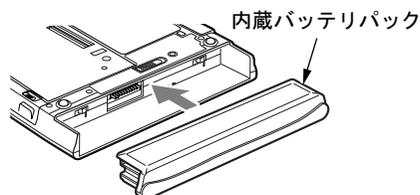
POINT

- ▶ 新しい内蔵バッテリーパックは、次の製品をお買い求めください。
 - 品名：内蔵バッテリーパック
 - 型名：FMV TBBP109
 - 品名：内蔵バッテリーパック (L)
 - 型名：FMV TBBP110
 - (ご購入元にお問い合わせください)

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します (→ 『取扱説明書』)。
- 2 パソコン本体を裏返します。
- 3 内蔵バッテリーパックを取り外します。
内蔵バッテリーパックロックをスライドさせ (1)、内蔵バッテリーパックを取り外します (2)。



- 4 新しい内蔵バッテリーパックを取り付けます。
内蔵バッテリーパックをパソコン本体と水平に差し込み、カチッと音がするまで押し込みます。バッテリーパックロックは自動的にロックされます。



重要

- ▶ 取り外したバッテリーパックは、ショート（短絡）防止のため、コネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外したバッテリーパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、リチウムイオン電池、ニッケル水素電池のバッテリーパックは、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。リサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

POINT

- ▶ 本パソコンは、バッテリー運用時でもパソコン本体がスタンバイ状態か休止状態であれば、内蔵バッテリーパックの交換が行えます。その際は次の点に注意し、充電済みの内蔵バッテリーパックと交換してください。
 - ・スタンバイする前にデータを保存してください。
 - ・内蔵バッテリーパックは、1分以内に交換してください。
 - ・内蔵バッテリーパックの交換中に電源ボタンを押さないでください。
 - ・内蔵バッテリーパックの交換後、パソコン本体をレジュームさせる場合は、内蔵バッテリーパックがロックされていることを確認してください。
 - ・内蔵バッテリーパックの交換後、バッテリー残量のチェックが終了するまで電源は入れられません。10秒程度待ってから電源を入れてください。なお、ご購入時および長時間本パソコンをご使用にならなかった場合は、内蔵バッテリーパックを交換する前に、ACアダプタでの通電を半日以上行ってください。また、パソコン本体のバッテリーパック接続端子には触れないでください。

5 CD / DVD について

重要

- ▶ ここでは、CD-ROMや音楽CDおよびCD-R/RWディスクをまとめてCD、DVD-ROMやDVD-VideoなどをまとめてDVDと呼んでいます。また、CDやDVDをまとめてディスクと呼びます。
- ▶ 「WinDVD」、「Easy Media Creator」については「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」(→P.138)をご覧ください。

取り扱い上の注意

■ ディスクご使用時の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側に向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- CD自動挿入機能(オートラン)が有効に設定されていると、正しく書き込みができないライティングソフトウェアがあります。ソフトウェアの指示に従ってCD自動挿入機能を設定してください。
- ディスクに書き込み中は、パソコン本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD取り出しボタンを押したりしないでください。また、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押す操作もしないでください。
- 書き込み中にディスクのディスク面に傷を検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- ディスクへの書き込みを行うときは、自動的にスタンバイまたは休止状態にならないように、省電力の設定を変更してください。
- ディスクへの書き込みには、多くの電力を使用します。パソコン本体にACアダプタを取り付けてお使いください。
- ディスクへの書き込み中は、他のソフトウェアを起動しないでください。他のソフトウェアを起動している場合は、そのソフトウェアを終了させてください。

■ DVD-Video ご使用時の注意事項

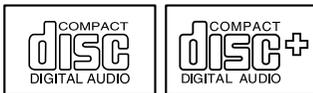
- 次の DVD-Video がお使いになれます。
 - ・ DVD-Video に記録されているリージョン（地域）コードに「2」が含まれているか、「ALL」と書かれているディスク
- ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付の再生ソフトをインストールした場合、「WinDVD」での再生は保証いたしません。また、ディスクに添付されている再生ソフトについても、弊社では保証いたしません。
- リージョン（地域）コードについて
 - ・ リージョン（地域）コードの変更は4回までです。
リージョン（地域）コードを4回変更すると、最後に設定したリージョン（地域）コードに固定され、その他のリージョン（地域）コードの DVD-Video は再生できなくなります。固定されたリージョン（地域）コードを変更する方法はありませんのでご注意ください。
 - ・ 前回再生した DVD-Video と、リージョン（地域）コードが異なる DVD-Video を再生しようとする、リージョン（地域）コード変更を確認するメッセージ画面が表示されます。このメッセージ画面で「OK」をタップすると、リージョン（地域）コードの設定が変更されます。
 - ・ ご購入時のリージョン（地域）コードは「2」です。
- DVD のディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。「WinDVD」では、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証（Authentication）機能が用意されています。著作権保護のされたデータなどをコピーし、再生しても、相互認証エラー（Authentication Error）となり、再生できません（This DVD can't be played in this Region. と表示されます）。

■ DVD ディスク再生時の注意事項

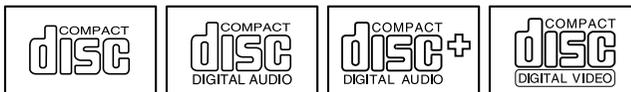
- 再生する DVD-Video によっては、コマ落ちをする場合があります。
- 「WinDVD」の設定を変更した直後は、DVD-Video の再生が不安定になる場合があります。
- キャプション表示とサブタイトル表示を、同時に表示することはできません。
- MPEG1 のデータによっては再生できないものがあります。
- 市販されているウイルス対策ソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。自動検索の機能を持つウイルス対策ソフトに関しては、「WinDVD」を起動する前に、一時的に起動しないようにしてください。なお、本パソコンに添付のアンチウイルスソフトは問題ありません。
- DVD-Video の再生中に他のソフトウェアを起動すると、コマ落ち／音飛びする場合があります。コマ落ち／音飛びを防ぐために、起動しているソフトウェアはすべて終了してください。
なお、定期的に自動起動して、ウイルスチェック、ディスクメンテナンス、データベース更新およびデータ送受信処理などを行うソフトウェアについても、その頻度により音や映像の再生に影響が出ますので、必要に応じて終了してください。
- DVDディスクおよびビデオCDによっては、再生される映像データが表示エリア全体に表示されないものがあります。この場合は、表示の一部が黒くなります。
- マウスカーソルのデザインによっては、DVD 再生画面の上に移動したときにマウスカーソルが点滅することがあります。このような時は、「マウスのプロパティ」ウィンドウの「ポインタ」タブで、「デザイン」の設定を「なし」に変更してください。
- 縦横比が16:9で録画されているDVD-Videoをフルスクリーン表示をさせた場合、ズーム機能が使用できないことがあります。

■ ドライブの注意事項

- 本パソコンは、円形のディスクのみお使いになれます。円形以外の異形ディスクは、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形ディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 「ディスク使用時の注意事項」が守られていないディスク、ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ~ 1.5mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うとレンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。
- コピーコントロールCDは、現状の音楽CDの規格に準拠していない特殊なディスクのため、本パソコンでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。
なお、正式な音楽 CD 規格に準拠した CD には、次のようなロゴが表示されています。



- 本パソコンでは、次図のマークがついた CD をお使いになれます。マークのない CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。
また、マークの種類によっては、ソフトウェアが必要になる場合があります。



POINT

- ▶ 次の点にご注意ください。
 - ・不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクやビデオ CD は、正常に再生できない場合があります。
 - ・本パソコンでは DVD-Audio など「使用できるディスク」(→ P.60)に記載されていないディスクの再生および動作保証はできません。
- ▶ 「WinDVD」では DVD-Video および DVD-VR/+VR フォーマットのデータのみ再生できます。その他の形式でフォーマットされたデータの再生および動作保証はできません。

使用できるディスク

ドッキングステーションには、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブが搭載されております。DVD-ROM&CD-R/RW ドライブでは次のディスクが使用できます。

		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
音楽 CD	 	○	×	×
ビデオ CD		○	×	×
CD-R		○	○注1	×
CD-RW	 	○	○注1注2	○注1注2
DVD-ROM		○	×	×
DVD-Video		○	×	×
DVD-R (for Authoring) (3.95GB/4.7GB)		○	×	×
DVD-R (for General) (4.7GB)		○	×	×
DVD-R DL (8.5GB)		×	×	×
DVD-RW		×	×	×

		読み込み	書き込み	書き換え
DVD+R (4.7GB)		×	×	×
DVD+R DL (8.5GB)		×	×	×
DVD+RW (4.7GB)		×	×	×
DVD-RAM (4.7GB / 9.4GB)		×	×	×
DVD-RAM2 ^{注3}		×	×	×

注1：CD-R や CD-RW へのデータの追記は「Easy Media Creator」で行います。

なお、データの追記を行うためには、「Easy Media Creator」を使ってディスクにデータの書き込みを行う際に、ディスクを追記可能な状態にしておく必要があります。詳しくは、「Easy Media Creator」のヘルプをご覧ください。

注2：CD-RW に書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータをすべて消去する必要があります。

注3：DVD-RAM2 は、5 倍速までの従来規格の DVD-RAM と異なり、6、8、12、16 倍速に対応した DVD-RAM です。

推奨ディスク

ドッキングステーションの DVD-ROM&CD-R/RW ドライブで書き込み、書き換えを行う場合は、次のディスクをお使いになることをお勧めします。

ディスク	メーカー	メーカー型名
CD-R	太陽誘電	CDR-74WPY、CDR-80WTY
CD-RW	富士通サプライ品	CD-RW74/0241410
	三菱化学メディア	SW74QU1、SW74EU1、SW80QU1、SW80EU1

富士通サプライ品は、富士通コワーコ株式会社の取り扱い品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

上記以外の記録型ディスクをお使いの場合は、書き込み、書き換え速度の低下や正常に書き込み、書き換えができない場合があります。

POINT

- ▶ 本パソコンで作成した CD-R/RW は、お使いになる CD プレーヤーによっては再生できない場合があります。

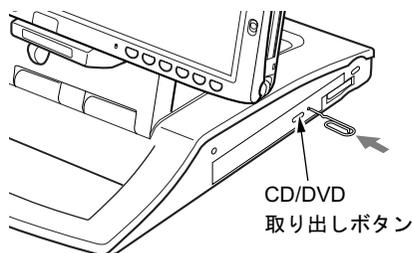
ディスクをセットする／取り出す

重要

- ▶ ディスクに頻繁にアクセスする場合などは、AC アダプタを取り付けることをお勧めします。バッテリーのみで運用すると、バッテリーの寿命が短くなる場合があります。
- ▶ ディスクをセットする場合は、トレイ中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチンと音がするようしっかりとめ込んでください。きちんとはめ込まないと、ディスクがドライブ内部で外れて、トレイやドライブ内部、およびディスクを破損する原因となることがあります。
- ▶ セットすると自動で始まるディスクを使用しているときにパソコン本体をスタンバイさせると、レジューム時にディスクが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、ディスクのソフトウェアを一度すべて終了し、ディスクをセットし直してください。
- ▶ ディスクはデータの読み出しなどのとき、高速で回転するため、使用時に振動や風切音することがあります。これは故障ではありません。

POINT

- ▶ ドッキングステーションのDVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニットは、電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。
- ▶ シールを貼ったディスクなど、重心の偏った媒体を使用すると、ユニットに振動が発生し、十分な性能が出ない場合があります。
- ▶ トレーを最後まで押し込めない場合は、カシャッという音がするまでトレイを引き出し、再度押し込んでください。
- ▶ パソコン本体の電源が切れた状態では、トレイが閉まらないことがあります。この場合は、再度電源を入れて、トレイを閉めてください。
- ▶ 何らかの原因で、CD/DVD 取り出しボタンを押してもトレイが出ない場合は、「マイコンピュータ」アイコンをダブルタップし、「マイコンピュータ」ウィンドウの CD/DVD ドライブを右タップして「取り出し」をタップしてください。それでも出ない場合は、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット前面の CD/DVD 取り出しボタンの横の穴にクリップの先などを差し込んで、トレイを引き出してください。

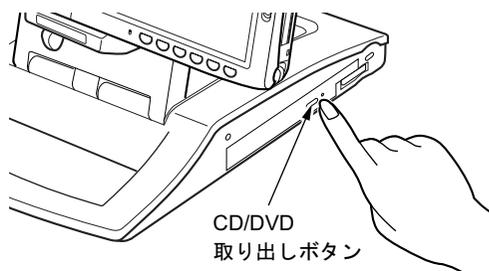


■ セットする

1 ドッキングステーションにパソコン本体を取り付けます (→ P.65)。

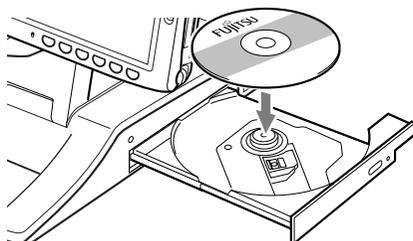
2 CD/DVD 取り出しボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。



3 トレーを静かに引き出し、ディスクをセットします。

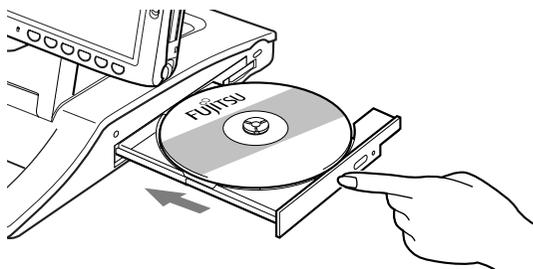
ディスクのレーベル面を上にして、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチンと音がするまでしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、再生できなかったり、ディスクが取り出せなくなったりすることがあります。



POINT

- ▶ ディスクをセットするときは、ディスクがドッキングステーションにぶつからないように、トレー中央の突起にディスクの穴をはめ込んでください。

4 トレーを静かに押し込みます。



POINT

- ▶ ディスクをセットした後、「この種類のファイルのディスクを挿入したり…」という画面が表示された場合は、「何もしない」をタップし、「OK」をタップしてください。
- ▶ ディスクをセットしてから使用可能となるまでしばらく時間がかかります。また、マルチセッションディスクの場合、通常のディスクをお使いになるときと比べ、セットしてから使用可能となるまで、多少時間がかかることがあります。

■ 取り出す

- 1** ディスクを利用しているソフトウェアを終了し、CD/DVD 取り出しボタンを押します。
トレイが少し飛び出します。
- 2** トレーを手で支えながらディスクを取り出します。
トレイ中央の突起を押さえながら、ディスクがパソコン本体にぶつからないように、ディスクのふちを持ち上げてください。
- 3** トレーを静かに押し込みます。

6 ドッキングステーションについて

重要

- ▶ お使いの機種によってはドッキングステーションは添付されておられません。お使いになる場合は、別売のドッキングステーションをご購入ください。

ドッキングステーションを取り付ける

注意



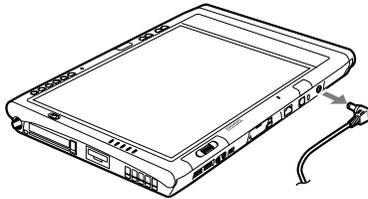
- パソコン本体にドッキングステーションを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。
けがの原因となることがあります。

重要

- ▶ パソコン本体に周辺機器を取り付けている場合は、周辺機器を取り外しておいてください。

1 パソコン本体から AC アダプタを取り外します。

LAN ケーブルやディスプレイケーブルを接続している場合は、取り外してください。



2 ドッキングステーションを固定します。

角度調節バーの角度調節バー固定／解除ボタンを押して、ドッキングステーションを固定します。

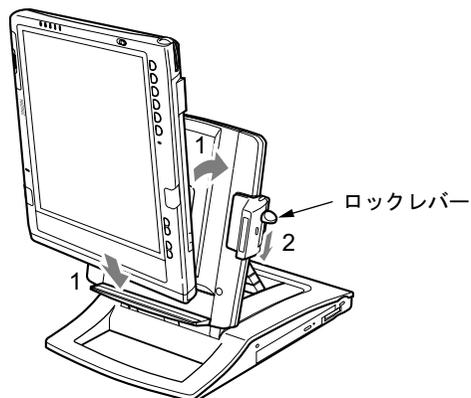


重要

- ▶ ドッキングステーションにパソコン本体を取り付ける場合は、角度調節バーでドッキングステーションをしっかりと固定してください。パソコン本体が倒れて故障の原因となります。

3 パソコン本体を取り付けます。

パソコン本体を取り付け (1)、ロックレバーを下にスライドしてロックします (2)。



POINT

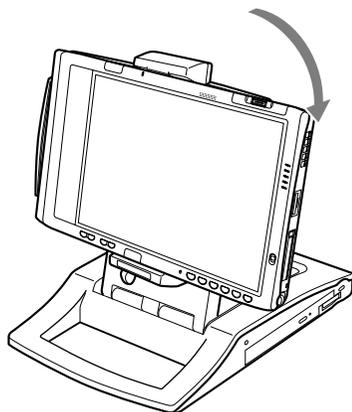
- ▶ バッテリーパック (L) を取り付けている場合、バッテリーガイドをカチッと音がするまで手前に引き、下にスライドさせてからパソコン本体をドッキングステーションに取り付けてください。

4 ACアダプタを接続します。

重要

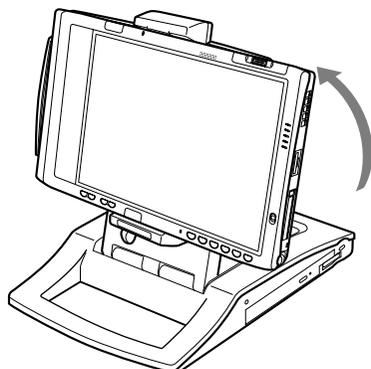
- ▶ ドッキングステーションにパソコン本体を取り付けて使う場合は、必ずACアダプタを接続してください。バッテリーではお使いになれません。

5 画面の向きを横にするには、パソコン本体部分を横向きにします。

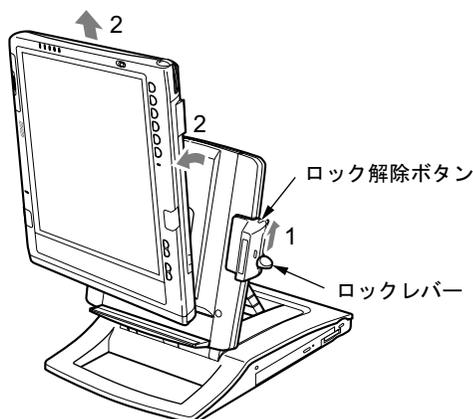


ドッキングステーションを取り外す

- 1 画面の向きが横になっているときは、パソコン本体を縦向きにします。



- 2 ロック解除ボタンを押しながらロックレバーを上スライドし (1)、ロックを解除して、パソコン本体を取り外します (2)。



POINT

- ▶ パソコン本体の電源が入っているときでも、取り付け、取り外しができます。通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルタップして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「内蔵 DVD/CD ドライブ」や「USB オプション」を「停止」にしてから取り外してください。

7 メモリについて

メモリを取り付ける／取り外す

警告



- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタや周辺機器を取り外してください。スタンバイや休止状態では、取り付け／取り外しを行わないでください。
感電の原因となります。また、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

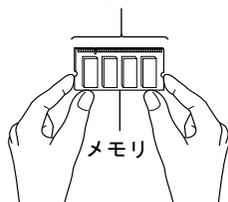


- 取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手が届かないところに置いてください。
誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

重要

- ▶ 本パソコンのネジを取り外すときは、ネジのサイズに合ったプラスのドライバー1番をお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。
- ▶ 取り付けるメモリは、本パソコンでサポートしているメモリをご使用ください。
FMVNM2GJ1 (2GB)、FMVNM1GJ1 (1GB)、FMVNM51J1 (512MB)、FMVNM25J1 (256MB) がお使いになれます。なお、PC2-4200 相当の性能で動作します。
- ▶ メモリは4GBまで搭載可能ですが、Windowsが利用可能な領域は約3.25GBになります。
- ▶ メモリは次図のように両手でふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

この部分には手を触れないでください



POINT

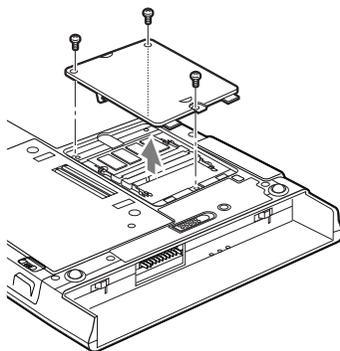
- ▶ 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。
- ▶ メモリを取り付け、メモリの容量を確認するには、BIOS セットアップの「情報」メニューの「メモリスロット」の項目を見ます (→ P.168)。「256MB DDR2 SDRAM」など取り付けしたメモリの容量が表示されます。取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、メモリが故障または不良です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ 本パソコンは、メインメモリの一部をビデオメモリで使用しています。そのため、起動時の自己診断 (POST) 時や Windows の画面に表示されるメモリの容量は、取り付けしたメモリの総容量より、8MB から 128MB 少なく表示されます。
また、お使いのシステム構成によっては、さらに 1MB 少なく表示される場合があります。
- ▶ メモリを増やすときは、あらかじめ取り付けられているメモリを取り外して交換する場合があります。

■ メモリを取り付ける**重要**

- ▶ メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 内蔵バッテリーパックを取り外します。

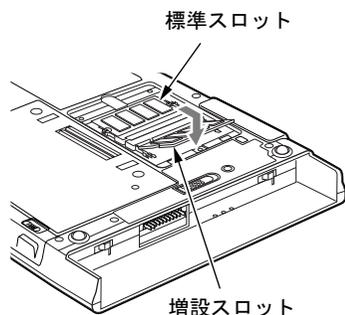
取り外す手順については、「内蔵バッテリーパックを交換する」(→ P.55) の手順 1～3 をご覧ください。

2 ネジ(3ヶ所)を取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。

3 メモリを取り付けます。

両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかり差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。

メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまったことを確認してください。

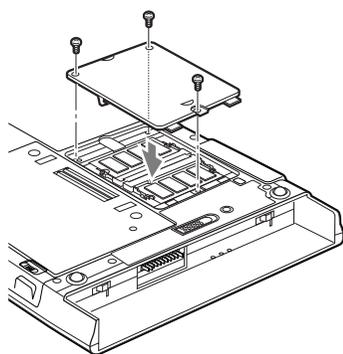


重要

- ▶ メモリの取り付けを行う場合は、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。
- ▶ メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取りつけ直してください。無理にメモリを取り付けようとすると、メモリやコネクタが破損する原因となります。

4 拡張RAM モジュールスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。

手順2で外した拡張RAM モジュールスロットカバーを取り付けます。拡張RAM モジュールスロットカバーのツメを本体のツメに合わせてください。



5 内蔵バッテリーパックを取り付けます。

取り付ける手順については、「内蔵バッテリーパックを交換する」(→ P.55) の手順4をご覧ください。

重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押しして本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。

■ メモリを取り外す

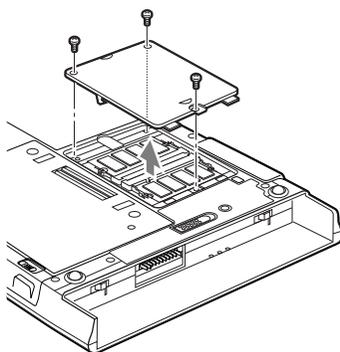
重要

- ▶ メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 内蔵バッテリーパックを取り外します。

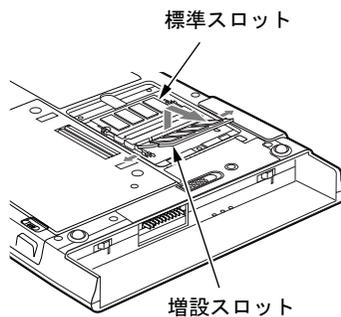
取り外す手順については、「内蔵バッテリーパックを交換する」(→ P.55) の手順 1～3 をご覧ください。

2 ネジ(3ヶ所)を取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。

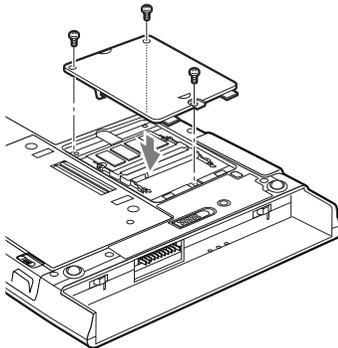


3 メモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。



- 4** 拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。
手順 2 で外した拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付けます。



- 5** 内蔵バッテリーパックを取り付けます。

取り付ける手順については、「内蔵バッテリーパックを交換する」(→ P.55) の手順 4 をご覧ください。

POINT

- ▶ メモリを交換する場合は、手順 3 の後メモリを取り付けてください。
メモリを交換する手順については、「メモリを取り付ける」(→ P.69) の手順 3 をご覧ください。

8 PC カードについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

POINT

- ▶ 本パソコンではスマートカードホルダーはお使いになれません。スマートカードをお使いの場合は、パソコン本体のスマートカードスロットをお使いください。
- ▶ 本パソコンでは LAN カードまたは、モデムカードが使えない場合があります。
- ▶ 本パソコンでは、3.3Vまたは5Vを使用するPCカードのみサポートしています。12Vを使用するPCカードはサポートしていません。

PC カードをセットする

注意



- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指を入れしないでください。けがの原因となることがあります。

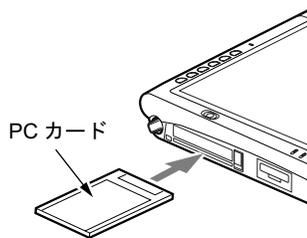
重要

- ▶ PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ▶ PC カードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになるPCカードのマニュアルで確認してください。
- ▶ PC カードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになるPCカードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。

- 1** パソコン本体上側面の PC カードスロットに、PC カードをセットします。
PC カードの製品名を上にして PC カードスロットにしっかり差し込みます。



重要

- ▶ PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。PC カード取り出しボタンが飛び出した状態で PC カードをセットすると、ボタンが中に入らなくなります。また、ボタンが破損する原因となります。
- ▶ コードやケーブルを接続して使う PC カードをお使いの場合、PC カードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物を載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ▶ 本パソコンには PC カードのロック機構がありません。コードやケーブルを接続して使う PC カードは、コードやケーブルを引っ張らないでください。PC カードが抜けるおそれがあります。
- ▶ PC カードの種類によっては、PC カードスロットから PC カードが飛び出した状態でセットされるものがあります。PC カードの飛び出した部分をぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ▶ うまくセットできない場合は、一度 PC カードを取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。
また、お使いになる PC カードのマニュアルもご覧ください。

POINT

- ▶ PC カードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、PC カードのマニュアルをご覧ください。

PC カードを取り出す

注意



- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっていることがあります。PC カードを取り出すときは、手順 3 の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となる場合があります。



- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となる場合があります。

重要

- ▶ PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ▶ コードやケーブルを接続して使う PC カードを取り出す場合、PC カードのコードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PC カードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PC カードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをタップします。**POINT**

- ▶ 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルタップして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をタップして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
- ▶ PC カードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、PC カードのマニュアルをご覧ください。

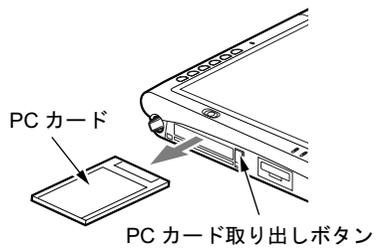
2 「[PC カード] を安全に取り外します」をタップします。**POINT**

- ▶ 「[PC カード]」には、お使いの PC カードの名称が表示されます。
- ▶ 「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をタップし、PC カードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。**4** PC カード取り出しボタンを押します。

PC カード取り出しボタン

- 5** 飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。



重要

- ▶ PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。PC カード取り出しボタンが飛び出した状態でお使いになるとボタンが破損する原因となります。

9 メモリーカードについて

POINT

- ▶ ここでは、SD メモリーカード、およびメモリースティックをまとめて、メモリーカードと呼んでいます。

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、メモリーカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

使用できるメモリーカード

本パソコンで使用できるメモリーカードは次のとおりです。

- SD メモリーカード
- miniSD メモリーカード
- メモリースティック
- メモリースティック（メモリーセレクト機能付）
- メモリースティック Duo
- マジックゲートメモリースティック
- マジックゲートメモリースティック Duo
- メモリースティック PRO
- メモリースティック PRO Duo

POINT

- ▶ SD メモリーカードとメモリースティックの同時使用はできません。
- ▶ すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- ▶ 著作権保護機能には対応していません。
- ▶ マルチメディアカード（MMC）、およびセキュアマルチメディアカードには対応していません。
- ▶ SDHC メモリーカードおよび SD IO カードには対応していません。
- ▶ メモリースティックについて
 - ・メモリースティックをお使いの場合、パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しています。

- ・メモリースティック Duo またはメモリースティック PRO Duo をお使いの場合は、アダプタが必要になります。メモリースティック Duo またはメモリースティック PRO Duo は、必ずアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、メモリースティックが取り出せなくなります。
またメモリースティックを取り出す場合は、必ずアダプタにセットしたまま取り出してください。アダプタだけをダイレクトメモリスロットに残すと、故障の原因となります。
- ・メモリースティック Duo アダプタは、塗装部分が剥がれた状態では使用しないでください。ダイレクトメモリスロット内部の端子が接触し、メモリースティック Duo またはメモリースティック PRO Duo を認識しなかったり、故障の原因となります。
また、剥がれた塗装部分などにテープなどを貼って使用することもしないでください。アダプタが取り出せなくなる場合があります。
- ▶ miniSD カードについて
 - ・miniSD カードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。miniSD カードは、必ずアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、miniSD カードが取り出せなくなります。
また miniSD カードを取り出す場合は、必ずアダプタにセットしたまま取り出してください。アダプタだけをダイレクトメモリスロットに残すと、故障の原因となります。
 - ・miniSD カードのアダプタには、裏面の中央部から端子が露出している製品がありますが、このタイプのアダプタは使用しないでください。ダイレクトメモリスロット内部の端子が接触し、故障の原因となる場合があります。
miniSD カードのアダプタは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。

メモリーカードをセットする

⚠ 注意



- メモリーカードをセットまたは取り出すときは、SDカード／メモリースティックスロットに指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。

👉 重要

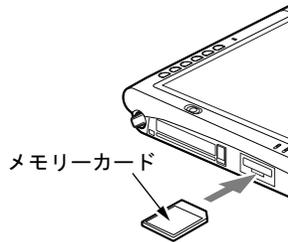
- ▶ メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

🔍 POINT

- ▶ メモリーカードや、記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合、Windows 上でフォーマットしないでください。フォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。
フォーマットしてしまった場合は、デジタルカメラなどで再度フォーマットしてからお使いください。フォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ メモリーカードによっては、通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧ください。

1 パソコン本体上側面の SD カード／メモリースティックスロットに、メモリーカードをセットします。

メモリーカードの製品名を上にして SD カード／メモリースティックスロットにしっかり差し込みます。



重要

- ▶ 書き込み禁止の状態のメモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、書き込みエラーメッセージ、または削除エラーメッセージの表示に時間がかかったり、メモリーカードの内容の一部が正しく表示されない場合があります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、もう一度セットし直してください。

POINT

- ▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されることがあります。「キャンセル」をタップしてください。
- ▶ メモリーカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧ください。

メモリーカードを取り出す

注意



- メモリーカードをセットまたは取り出すときは、SD カード／メモリースティックスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

重要

- ▶ メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ▶ メモリーカードや、記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをタップします。

POINT

- ▶ 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルタップして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をタップしてSDメモリーカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
- ▶ メモリーカードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧ください。

2 「[メモリーカード] を安全に取り外します」をタップします。

POINT

- ▶ 「[メモリーカード]」には、お使いのメモリーカードの名称が表示されます。
- ▶ 「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をタップし、メモリーカードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順1からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたら、メモリーカードを一度押します。

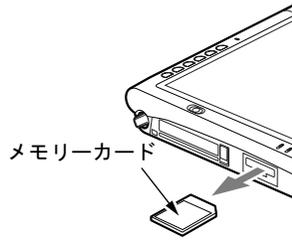
メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。



重要

- ▶ SDカード/メモリスティックスロットからメモリーカードを取り出す場合は、メモリーカードを強く押さないでください。指を離れたときメモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりする恐れがあります。
また、メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。
- ▶ メモリーカードを取り出す場合は、SDカード/メモリスティックスロットを人に向けて、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すと、けがの原因となることがあります。

4 メモリーカードを取り出します。



10 外部ディスプレイについて

接続について

本パソコンは、プロジェクタやアナログディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。

ここでは、パソコン本体左側面の外部ディスプレイコネクタに、アナログディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠ 警告



- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。

⚠ 注意



- ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となります。

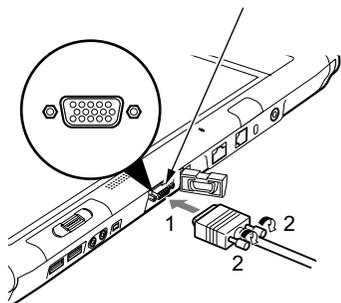
1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 パソコン本体左側面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。

コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み (1)、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します (2)。

外部ディスプレイコネクタ



POINT

- ▶ 外部ディスプレイは、ドッキングステーションの外部ディスプレイコネクタに接続することもできます。ただし、ドッキングステーション接続時には、パソコン本体の外部ディスプレイコネクタはお使いになれません。
- ▶ ドッキングステーション接続時には、必ずパソコン本体の外部ディスプレイコネクタからディスプレイケーブルを取り外してください。破損の原因となります。

- 3 アナログディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。
接続方法は、アナログディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4 アナログディスプレイの電源ケーブルを接続して、ディスプレイの電源を入れます。
- 5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、パソコン本体の電源を入れます。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される
この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。
 - ▶ 外部ディスプレイなど磁界を発生する機器と FDD ユニットは離して使用してください。
- 6 画面の表示を切り替えます。

Windows の「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えることができます。また、「Fn」ボタンを押した後、「ローテーション」ボタンを押すと、液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→同時表示→液晶ディスプレイ…の順で画面表示を切り替えることができます。ワイヤレスキーボードの場合は、【Fn】+【F10】キーを押すと、液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→同時表示→液晶ディスプレイ…の順で画面表示を切り替えることができます。

詳しくは、「機能」－「表示装置の切り替え」(→P.97) をご覧ください。

11 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

警告



- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、必ず次の事項を行うようにしてください。
 - ・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
 - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- ▶ 液晶部分を拭くときは、必ずから拭きしてください。水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、液晶ディスプレイのコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの

キーボードのお手入れ

重要

- ▶ お使いの機種により、ワイヤレスキーボードを添付しています。

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

キーボードのキーとキーの間ホコリなどを取る場合は、圧縮空気などを使ってゴミを吹き飛ばしてください。なお、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

重要

- ▶ OA用のエアースプレーを使うときは、お使いになるエアースプレーの注意書きなどをよくお読みください。誤った使い方をすると、パソコン本体に結露や静電気を発生させることがあり、故障の原因となる場合があります。

マウスのお手入れ

重要

- ▶ お使いの機種により、USB マウス（光学式）を添付しています。

マウスのお手入れの際は、マウスをパソコン本体から取り外してください。

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、マウス本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

Memo

第 3 章 機能

3

本パソコンでお使いになれる機能について説明しています。

1 ディスプレイ関連	88
2 音量の設定	105
3 通信	108
4 ドライブ関連	112
5 省電力	113

1 ディスプレイ関連

液晶ディスプレイの明るさ設定

液晶ディスプレイの明るさは、8段階に調節できます。暗くすると、消費電力が小さくなります。

重要

▶ 外部ディスプレイの明るさについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

■ 明るさを設定する

本パソコンでは、AC アダプタを使っているときと、バッテリーで使っているときの液晶ディスプレイの明るさを、それぞれ設定できます。

ご購入時には、AC アダプタで使っているときに明るく、バッテリーで使っているときには暗くなるように設定されています。お使いの環境に合わせて、明るさを変更してください。

- 1** 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「プリンタとその他のハードウェア」をタップし、「タブレットとペンの設定」をタップします。
「タブレットとペンの設定」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「画面」タブをタップします。
「画面の明るさ」の「明るさ」でつまみを左右にドラッグして、適切な明るさに調節します。
- 4** 「OK」をタップします。

■ 明るさを変更する

対象機種

TB/S (ワイヤレスキーボード (フラットポイント付) 添付)

キーボードを使用して、液晶ディスプレイの明るさを調節することができます。

【Fn】 + 【F6】 キーを押すと暗く、【Fn】 + 【F7】 キーを押すと明るくなります。

調節中は、画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。

POINT

- ▶ 次のような場合は、キーボードで明るさを変えられないことがあります。しばらくしてから変更してください。
 - ・本パソコンを再起動した直後
 - ・スタンバイまたは休止状態からレジュームした直後
 - ・ACアダプタを取り付け、取り外した直後

- ▶ 「IndicatorUtility」(→P.145)、または「Fujitsu Button Utilities」をアンインストールすると、明るさを示すインジケータが表示されません。
- ▶ 「IndicatorUtility」(→P.145)をインストールしている場合、Windowsの起動中にACアダプタの取り付けや取り外しを行うと、「画面の明るさが変更されました。」というメッセージが表示されます。ACアダプタ使用時、バッテリー使用時それぞれの状態で、前回設定していた明るさに戻ります。画面の指示に従い操作してください。

■ インテル® ディスプレイ省電テクノロジー

□ 対象機種

TB/S、TB/B

本パソコンには、インテル® ディスプレイ省電テクノロジーが搭載されています。インテル® ディスプレイ省電テクノロジーを有効にすると、バッテリー運用時、液晶ディスプレイの消費電力を節約することができます。

しかし、画面の明暗の変化に合わせて、液晶ディスプレイの明るさやコントラストを変更させるため、画面がちらついて見えたり、画質が変化しているように見えたりする場合があります。このような場合は、次の手順で設定を無効にしたり、変更したりすることで、これらの現象を抑えることができます。

POINT

- ▶ インテル® ディスプレイ省電テクノロジーは、本パソコンをバッテリーで使うときに液晶ディスプレイにのみ働く機能です。
ACアダプタで使うときや、外部ディスプレイに表示しているときは働きません。このようなときも、液晶ディスプレイの画面がちらついて見えたりする場合には、本機能以外の原因が考えられます。
- ▶ インテル® ディスプレイ省電テクノロジーが働いている状態で、液晶ディスプレイの明るさを変更しても、明るさの変化が少なくなる場合があります。

- 1** デスクトップで右タップし、「プロパティ」をタップします。
- 2** 「設定」タブをタップし、「詳細設定」をタップします。
- 3** 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをタップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4** 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をタップします。
- 5** 「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をタップして、チェックを付けます。
- 6** 左の一覧から「ディスプレイ設定」をタップします。
- 7** 「電源設定」をタップします。
「電源設定」ウィンドウが表示されます。

8 「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジー」の設定を変更します。**●有効にする場合**

「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジー」にチェックを付け、その下のつまみを左右にドラッグして、消費電力を調整します。

「画質最高」側にすると画面表示のクオリティが優先され、「バッテリー寿命最長」側にすると消費電力の節約が優先されます。

●無効にする場合

「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジー」のチェックを外します。

9 設定が完了したら、「OK」をタップします。**10 「OK」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。**

全画面表示と通常表示の切り替え

液晶ディスプレイを標準または規定の解像度よりも低い解像度に設定したときに、画面がディスプレイ中央に小さく表示または全画面表示されるようにするには、次の手順で設定を変更してください。

■ 注意事項

- 本パソコンでは、解像度を 800 × 600 以下に設定した場合、Windows の画面を通常表示、または全画面表示に変更できます。
- コマンドプロンプトの全画面表示は、プライマリのみに表示されます。

■ 「画面のプロパティ」ウィンドウを使用する場合

1 デスクトップで右タップし、「プロパティ」をタップします。

2 「設定」タブをタップし、「詳細設定」をタップします。

3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをタップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。

「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。

4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をタップします。

5 次の操作を行います。

●液晶ディスプレイ表示の場合

「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をタップして、チェックを付けます。

●外部ディスプレイ表示の場合

「シングルディスプレイ」の「PC モニタ」をタップして、チェックを付けます。

●同時表示の場合

「マルチディスプレイ」の「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」をタップして、チェックを付けます。

●マルチモニタ表示の場合

「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をタップして、チェックを付けます。

POINT

- ▶ 同時表示、またはマルチモニタ表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
 - ・プライマリ：ノートブック
 - ・セカンダリ：PC モニタ

- 6 左の一覧から「ディスプレイ設定」をタップします。
- 7 「ノートブック」または「PC モニタ」から全画面表示と通常表示を切り替えるディスプレイをタップします。
- 8 「ディスプレイの拡張」で、お使いになる設定を選択します。
 - 全画面表示（枠なし）
デスクトップが画面全体に拡張されます。
 - デスクトップの中央
デスクトップが通常表示になります。
 - アスペクト比を保持
デスクトップがアスペクト比（縦横比）を維持したまま最大拡張されます。

POINT

- ▶ 「デスクトップの中央」は、液晶ディスプレイの場合のみ選択できます。

- 9 「適用」をタップします。

POINT

- ▶ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をタップします。

- 10 「OK」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ デスクトップの解像度をご購入時の解像度よりも小さい値に設定した場合、2種類の画面拡張設定が選択できます。
 - ・画面全体に拡張
画面全体が縦長に表示されます。
 - ・アスペクト比を維持したまま拡張
縦長にはなりません、画面の上下に黒いスペースができます。

- 11 「富士通タブレットコントロール」で設定を保存します。
再起動時や、ドッキングステーションの取り付け／取り外し時、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などに、変更した設定を保持したい場合は、「富士通タブレットコントロール」で設定を保存する（→ P.92）をご覧ください。

■「富士通タブレットコントロール」で設定を保存する

再起動時や、ドッキングステーションの取り付け／取り外し時、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などには、自動的にプロファイルに保存されている設定に変更されます。設定を変更した場合は、必要に応じて、「富士通タブレットコントロール」で設定をプロファイルに保存してください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「プリンタとその他のハードウェア」をタップします。
- 3 「富士通タブレットコントロール」をタップします。
「富士通タブレットコントロール」ウィンドウが表示されます。
- 4 「ディスプレイ表示」タブの「表示プロファイル」で、ドッキングステーションの使用状態に合わせて項目にチェックを付けます。
 - ドッキングステーションを取り付けている場合
「横位置でポートリプリケータ取り付け時のプロファイルを有効にする」、「縦位置でポートリプリケータ取り付け時のプロファイルを有効にする」にチェックを付けます。
 - ドッキングステーションを取り外している場合
「縦位置でポートリプリケータ取り外し時のプロファイルを有効にする」にチェックを付けます。
- 5 「現在のプロファイルを保存する」をタップします。
- 6 「OK」をタップし、「富士通タブレットコントロール」ウィンドウを閉じます。

ローテーション機能

「ローテーション機能」を使うとデスクトップの画面の向きを 90 度単位で変更できます。

■ 注意事項

- ローテーション機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェア（スクリーンセーバーなどを含む）を終了してください。
- ローテーション機能を使用中に、ハードウェアアクセラレータの設定を変更しないでください。
- ローテーション機能を使用中は、ソフトウェア（スクリーンセーバーなどを含む）によっては正常に動作しなかったり、表示速度が遅くなる場合があります。
- Windows の起動中、終了中はローテーション機能が無効になります。
- 画面のプロパティにおいて、解像度をパソコンのパネル解像度よりも低い解像度に設定してローテーション機能をお使いになると、解像度と色数の設定は正しく表示されません。
- ローテーション機能をお使いの場合、USB マウスの動作は画面の回転に追従しません。
- ローテーション機能を使用中は、画面の解像度および色数を変更しないでください。解像度および色数を変更する場合は、画面を元の状態（標準（0 度））に戻してから変更してください。

- ローテーション機能を使用中に省電力機能を使用すると、壁紙が正しく表示されない場合があります。その場合は、「最新の情報に更新」を行いデスクトップ画面を再表示してください。
- ローテーション機能を使用中にDirect3DやOpenGLを使用したスクリーンセーバーをお使いになると、省電力機能が正常に動作しません。

■ ローテーションボタンで画面の向きを変更する

ローテーションボタンを押すと、簡単にデスクトップの画面の向きを変更できます。どのように変更するかは次の手順で設定できます。

- 1** 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
- 2** 「プリンタとその他のハードウェア」をタップし、「タブレットとペンの設定」をタップします。
- 3** 「画面」タブをタップし、「画面の向き」－「順序」の「変更」をタップします。
- 4** 1～4を選び、「OK」をタップします。

POINT

- ▶ ご購入時の設定は次のとおりです。「ローテーション」ボタンを1回押すごとに、縦画面表示と横画面表示を繰り返します。
 1. 横（プライマリ）（横画面で0度）
 2. 縦（プライマリ）（縦画面で270度回転した状態）
 3. なし
 4. なし設定例）1～4を次のように設定すると、「ローテーション」ボタンを1回押すごとに、90度ずつ回転して表示されます。
 1. 横（プライマリ）（横画面で0度）
 2. 縦（プライマリ）（縦画面で270度回転した状態）
 3. 横（セカンダリ）（横画面で180度回転した状態）
 4. 縦（セカンダリ）（縦画面で90度回転した状態）

- 5** 「適用」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 6** 「富士通タブレットコントロール」で設定を保存します。

再起動時や、ドッキングステーションの取り付け／取り外し時、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などに、変更した設定を保持したい場合は、「富士通タブレットコントロール」で設定を保存する」（→ P.92）をご覧ください。

■ コントロールパネルで画面の向きを変更する

- 1** 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
- 2** 「プリンタとその他のハードウェア」をタップします。
- 3** 「タブレットとペンの設定」をタップします。

- 4 「画面」タブをタップします。
- 5 「画面の向き」－「向き」のプルダウンメニューから向きを選び、「適用」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 6 「富士通タブレットコントロール」で設定を保存します。
再起動時や、ドッキングステーションの取り付け／取り外し時、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などに、変更した設定を保持したい場合は、「富士通タブレットコントロール」で設定を保存する（→ P.92）をご覧ください。

■「画面のプロパティ」で画面の向きを変更する

- 1 デスクトップで右タップし、「プロパティ」をタップします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをタップし、「詳細設定」をタップします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for mobile」タブをタップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイ設定」をタップします。
- 5 「回転を有効にする」をチェックします。
- 6 表示方法にあわせて、「0」、「90」、「180」、「270」のいずれかにチェックを付けます。
- 7 「適用」をタップします。

POINT

- ▶ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をタップしてください。

- 8 「OK」をタップして、すべてのウィンドウを閉じます。
- 9 「富士通タブレットコントロール」で設定を保存します。
再起動時や、ドッキングステーションの取り付け／取り外し時、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などに、変更した設定を保持したい場合は、「富士通タブレットコントロール」で設定を保存する（→ P.92）をご覧ください。

解像度と色数について

本パソコンでは、Windows の「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。色数は「中」が 6 万 5 千色、「最高」が 1677 万色です。
 なお、再起動時や、ドッキングステーションの取り付け／取り外し時、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などに、変更した設定を保持したい場合は、「富士通タブレットコントロール」で設定を保存する（→ P.92）をご覧ください。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイの接続方法については、「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」（→ P.82）をご覧ください。

■ 画面の向きが横の場合

解像度 (ピクセル)	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ ^{注1注2}	外部ディスプレイ ^{注1注2}
800 × 600	中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) ^{注5}		
1024 × 768			
1280 × 768 ^{注3注4}			
1280 × 1024 ^{注3注4}			
1400 × 1050 ^{注3注4}			
1600 × 1200 ^{注3注4}			

注 1： プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により決定されます。

注 2： 各解像度はお使いの外部モニターがサポートしている場合にご使用になれます。モニターがサポートしていない解像度は使用することができません。

注 3： この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をタップし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注 4： 液晶ディスプレイは仮想デスクトップになります。仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

注 5： 液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するデザイン機能を利用しています。

■ 画面の向きが縦の場合

解像度 (ピクセル)	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ注1注2	外部ディスプレイ注1注2
768 × 1024	中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) 注 5		
768 × 1280 ^{注3注4}			
1024 × 1280 ^{注3注4}			
1050 × 1400 ^{注3注4}			
1200 × 1600 ^{注3注4}			

注 1: プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により決定されます。

注 2: 各解像度はお使いの外部モニターがサポートしている場合にご使用になれます。モニターがサポートしていない解像度は使用することができません。

注 3: この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をタップし、表示されたウィンドウの「モニター」タブで「このモニターでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注 4: 液晶ディスプレイは仮想デスクトップになります。仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

注 5: 液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するデザイン機能を利用しています。

■ 注意事項

- 液晶ディスプレイの解像度を次の設定から変更すると、タブレットのポインタの位置がずれます。これは仕様ですので、ご了承ください。
 - ・画面の向きが横の場合は、1024 × 768
 - ・画面の向きが縦の場合は、768 × 1024
- 通常は 640 × 480 の解像度は選択できませんが、一部のゲームやソフトウェアでは使用されることもあります。
- 液晶ディスプレイの解像度以上に解像度を設定する場合、あらかじめ次のように操作してください。なお、画面は仮想デスクトップに表示されます。
 1. デスクトップで右タップし、「プロパティ」をタップします。
 2. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をタップします。
 3. 「モニター」タブで「このモニターでは表示できないモードを隠す」のチェックが外れていることを確認します。

POINT

▶ 「このモニターでは表示できないモードを隠す」の項目が選択できない場合は、この設定は必要ありません。

- 解像度を 800 × 600 に設定した場合、Windows の画面の通常表示と全画面表示を切り替えることができます。
- 解像度を切り替えるときに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 画面の解像度や色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず本パソコンを再起動してください。
- DirectX 診断ツールでは「Mobile Intel(R) 945GM Express Chipset Family」の「メモリ合計」は正しい数値を表示しません。

表示装置の切り替え

表示装置の切り替え方法は次のとおりです。なお、表示装置をあらかじめ取り付けてから切り替えてください。表示装置の取り付け方は、「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」（→P.82）をご覧ください。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイコネクタに接続した場合、「Fujitsu Display Manager」を起動して、表示するディスプレイを切り替えることもできます。使用方法については、インストール後、「Fujitsu Display Manager」のヘルプをご覧ください。「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「ヘルプ」の順にタップして表示します。

■ 注意事項

- 表示装置の切り替えの設定は次のようになります。
 - ・ Windows が起動するまでの間は、BIOS セットアップの設定が有効です。
 - ・ Windows 起動中は「画面のプロパティ」ウィンドウの設定が有効（Windows を再起動後も有効）です。
 - ・ Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態に戻ります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
 - ・ 外部ディスプレイを接続して、初めて電源を入れたときは、同時表示の状態に切り替わる場合があります。
 - ・ TB/Sでワイヤレスキーボード（フラットポイント付）をお使いの場合、【Fn】+【F10】キーで切り替えた表示装置の設定は、「画面のプロパティ」ウィンドウの設定に反映されます。ただし、「画面のプロパティ」ウィンドウを表示中に【Fn】+【F10】キーで表示装置を切り替えても、「画面のプロパティ」ウィンドウの表示には反映されません（一度ウィンドウを閉じ、再度表示させると反映されています）。
- 解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 外部ディスプレイまたは液晶プロジェクタによっては、液晶ディスプレイ+外部ディスプレイの同時表示時に、画面が正しく表示されないことがあります。
- 外部ディスプレイで液晶ディスプレイ以上の高解像度を利用するには、それらの解像度を表示可能な外部ディスプレイが必要です。
- 液晶プロジェクタを本パソコンの液晶ディスプレイと同時表示で使用する場合、VESA で標準化された DDC の規格を満たしていて、かつ本パソコンの液晶ディスプレイと同じ解像度を表示可能な液晶プロジェクタが必要です。本規格を正しく満たしているかどうかに関しては、それぞれの液晶プロジェクタのメーカーにご確認ください。これはプラグアンドプレイを実現するために外部ディスプレイの情報をパソコン本体に伝送できるようにするための規格であり、これを満たしていない液晶プロジェクタには表示することはできません。
- BIOSセットアップの画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。外部ディスプレイにも BIOS セットアップの画面を表示させる場合には、BIOS セットアップの「詳細」－「ディスプレイ設定」を「外部ディスプレイ」に設定してください。詳しくは、「BIOS」－「メニュー詳細」（→P.161）をご覧ください。

- 外部ディスプレイを接続した状態で、コマンドプロンプトをウィンドウ表示から全画面表示に切り替えると、表示デバイスが切り替わることがあります。
また、コマンドプロンプトを終了したときやウィンドウ表示に切り替えたときに、表示デバイスが切り替わることがあります。この現象はドライバおよび Windows での制限（仕様）です。あらかじめご了承ください。
- 液晶ディスプレイ+外部ディスプレイの同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- ビデオ CD や DVD-VIDEO などの動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えしないでください。いったん動画を再生しているソフトウェアを終了してから、表示するディスプレイを切り替えてください。
- プラグアンドプレイに対応していないディスプレイの場合、再起動を行うと液晶ディスプレイのみの表示になり、外部ディスプレイに画面が表示されなくなります。
- 画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ずパソコンを再起動してください。
- TB/S でワイヤレスキーボード（フラットポイント付）をお使いの場合、コマンドプロンプトを全画面表示にしているときは、【Fn】+【F10】キーでの表示装置の切り替えができません。この場合は、一度ウィンドウ表示にしてから表示装置を切り替えてください。
- 動画の再生中は、表示装置を変更することができません。一度、動画を再生しているソフトウェアを終了させてから、表示装置を変更してください。

■「画面のプロパティ」ウィンドウを使用する場合

- 1 デスクトップで右タップし、「プロパティ」をタップします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをタップし、「詳細設定」をタップします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをタップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をタップします。
- 5 次の操作を行います。
 - 1 台のディスプレイで表示する場合
「シングルディスプレイ」の一覧から、表示するディスプレイをタップして、チェックを付けます。
 - 同時表示の場合
「マルチディスプレイ」の「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」をタップして、チェックを付けます。

POINT

- ▶ 2 台のディスプレイで同時に表示する場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
 - ・プライマリ：ノートブック
 - ・セカンダリ：PC モニタ

- ▶ 「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をタップして表示される設定項目から変更することができます。

6 「適用」をタップします。

ディスプレイが切り替わります。

7 「OK」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。

8 「富士通タブレットコントロール」で設定を保存します。

再起動時や、ドッキングステーションの取り付け／取り外し時、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などに、変更した設定を保持したい場合は、「富士通タブレットコントロール」で設定を保存する（→ P.92）をご覧ください。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されない、または正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行うようにしてください。
 - ・何も表示されない場合

何も操作しないでお待ちください。15秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、Fn ボタンを押しながらローテーションボタンを押して、表示先を切り替えてください。

TB/S でワイヤレスキーボード（フラットポイント付）をお使いの場合、【Fn】キーを押しながら【F10】キーを押して、表示先を切り替えてください。
 - ・正常に表示されない場合

外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、次の方法で設定を変更してください。

 1. デスクトップで右タップし、「プロパティ」をタップします。
 2. 「設定」タブをタップし、「詳細設定」をタップします。
 3. 「モニタ」タブをタップします。
 4. 「モニタの設定」のリフレッシュレートを外部ディスプレイでサポートする走査周波数に設定します。
 5. 「OK」をタップします。
- ▶ 別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、パソコンの電源を切った後、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更したときに、画面が表示できなくなる場合があります。

■ タブレットボタンを使用する場合

表示装置を切り替えるには、Fn ボタンを押しながらローテーションボタンを押します。詳しくは、「各部名称」－「タブレットボタンについて」（→ P.27）をご覧ください。表示装置は次の順に切り替わります（このときローテーションボタンを、間隔を空けて押してください）。

液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→液晶ディスプレイ+外部ディスプレイ（同時表示）
→液晶ディスプレイ…

なお、再起動時や、ドッキングステーションの取り付け／取り外し時、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などに、変更した設定を保持したい場合は、「富士通タブレットコントロール」で設定を保存する（→ P.92）をご覧ください。

■ キーボードを使用する場合

□ 対象機種

TB/S (ワイヤレスキーボード (フラットポイント付) 添付)

表示装置を切り替えるには、**【Fn】 + 【F10】** キーを押します。表示装置は次の順に切り替わります。このとき **【F10】** キーを、間隔を空けて押してください。

液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ (同時表示)
→液晶ディスプレイ…

なお、再起動時や、ドッキングステーションの取り付け/取り外し時、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などに、変更した設定を保持したい場合は、「富士通タブレットコントローラ」で設定を保存する (→ P.92) をご覧になり、設定をプロファイルに保存してください。

POINT

- ▶ キーを押しても表示装置が切り替わらない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください。
- ▶ コマンドプロンプトを全画面表示にしている場合は、**【Fn】 + 【F10】** キーを使用して表示デバイスを切り換えることができません。一度、ウィンドウ表示に切り換えてから表示デバイスを切り替えてください。

マルチモニタ機能

本パソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここではプライマリアダプタ (メイン画面) として液晶ディスプレイを、セカンダリアダプタ (サブ画面) として外部ディスプレイを使用する場合の手順を説明します。

重要

- ▶ マルチモニタ機能をお使いになる前に、必ず外部ディスプレイを接続してください。
- ▶ プラグアンドプレイに対応していないディスプレイの場合、再起動を行うと液晶ディスプレイのみの表示になり、外部ディスプレイに画面が表示されなくなります。
- ▶ マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- ▶ マルチモニタ機能をお使いになるときは液晶ディスプレイを「プライマリ」、外部ディスプレイを「セカンダリ」に設定してください。
- ▶ マルチモニタ機能の注意
 - ・ 2 台のディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
 - ・ セカンダリアダプタのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよび Windows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
 - ・ 次の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
 - 液晶ディスプレイの全画面表示
 - コマンドプロンプトのフルスクリーン表示
 - 一部のスクリーンセーバー
 - 動画再生画面のフルスクリーン表示
 - アクセラレータ機能を使用時の動画再生画面
- ▶ 色数についての注意
 - ・ プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の色数を設定しないでください。
 - ・ 色数は「中」、または「最高」に設定してください。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイではペンは使用できません。あらかじめマウスを接続して操作してください。

■ マルチモニタの設定

- 1** デスクトップで右タップし、「プロパティ」をタップします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをタップし、「詳細設定」をタップします。
- 3** 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをタップし、「グラフィックプロパティ」をタップします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4** 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をタップします。
- 5** 「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をタップして、チェックを付けます。
- 6** 「プライマリデバイス」を「ノートブック」に、「セカンダリデバイス」を「PC モニタ」に設定します。

POINT

- ▶ 「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をタップして表示される設定項目から変更することができます。

- 7** 「適用」をタップします。

POINT

- ▶ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をタップしてください。

- 8** 「OK」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。

この後は、「アダプタの表示位置を変更する」(→ P.101) をご覧になり、設定してください。

■ アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1** デスクトップで右タップし、「プロパティ」をタップします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをタップします。
- 3** モニタアイコンを、表示する位置にドラッグします。

4 「OK」をタップします。

5 「富士通タブレットコントロール」で設定を保存します。

再起動時や、ドッキングステーションの取り付け/取り外し時、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などに、変更した設定を保持したい場合は、「富士通タブレットコントロール」で設定を保存する(→ P.92)をご覧ください。

■ 表示できる色数と解像度

次の表の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

色数	画面の向き	プライマリの解像度	セカンダリの解像度 ^{注1注2}					
			800×600	1024×768	1280×768	1280×1024	1400×1050	1600×1200
中 (16ビット) 最高 (32ビット) ^{注3}	横	800×600	○	○	○	○	○	○
		1024×768	○	○	○	○	○	○
		1280×768 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○
		1280×1024 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○
		1400×1050 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○
		1600×1200 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○
	縦	768×1024	○	○	○	○	○	○
		768×1280 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○
		1024×1280 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○
		1050×1400 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○
		1200×1600 ^{注4注5}	○	○	○	○	○	○

注1: プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により決定されます。

注2: 各解像度はお使いの外部モニターがサポートしている場合にご使用になれます。モニターがサポートしていない解像度は使用することができません。

注3: 液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注4: この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をタップし、表示されたウィンドウの「モニター」タブで「このモニターでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注5: 液晶ディスプレイは仮想デスクトップになります。液晶ディスプレイにはディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

■ 注意事項

- プラグアンドプレイ対応の表示装置を使用の場合、最大解像度は液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- プラグアンドプレイ非対応の表示装置を使用の場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は外部ディスプレイの最大解像度になります。
- マルチモニター機能使用時には、DVD-VIDEOを再生しないでください。
- マルチモニター機能使用時に本パソコンを再起動した場合、使用している外部ディスプレイによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このような場合には、外部ディスプレイの周波数を85Hz以下に設定してください。
- TB/Sでワイヤレスキーボード(フラットポイント付)をお使いの場合、マルチモニター機能使用時に【Fn】+【F10】キーを使用しても、表示装置を切り替えることはできません。

外部ディスプレイの走査周波数について

ディスプレイドライバにより次の走査周波数を選択することができます。

選択できる走査周波数は、外部ディスプレイ表示のみの場合も同時表示の場合も同じです。

ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

解像度	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
800 × 600	37.9	60
	48.1	72
	46.9	75
	53.7	85
1024 × 768	48.4	60
	56.5	70
	60	75
	68.7	85
1280 × 768	47.8	60
	60.3	75
	68.6	85
1280 × 1024	64	60
	80	75
	91.1	85
1400 × 1050	65.3	60
	82.3	75
	85	85
1600 × 1200	75	60
	87.5	70
	93.8	75
	106.3	85

POINT

- ▶ お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。
「リフレッシュレート」とは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位は Hz）で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります（お使いの外部ディスプレイによって値の上限は決まっています）。
- ▶ リフレッシュレートの変更は、次のように設定してください。
 1. デスクトップで右タップし、「プロパティ」をタップします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「設定」タブをタップし、「詳細設定」をタップします。

3. 「モニタ」タブにある「モニタの種類」から、リフレッシュレートを変更するモニタを選択します。
4. 「画面のリフレッシュレート」に表示される一覧から、設定したいリフレッシュレートを選択し、「OK」をタップします。
5. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をタップします。

2 音量の設定

スピーカーやヘッドホンの音量は、キーボード（TB/S の場合）、または画面の音量つまみで調節します。

また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

POINT

- ▶ スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がはずまない範囲に設定や調整をしてください。

キーボードで調節する

□ 対象機種

TB/S（ワイヤレスキーボード（フラットポイント付）添付）

キーボードで音量を調節するには、【Fn】 + 【F8】 キーまたは【F9】 キーを押します。

【Fn】 + 【F8】 キーを押すと音量が小さく、【Fn】 + 【F9】 キーを押すと音量が大きくなります。音量の調節中、画面下部に音量を示すインジケータが表示されます。

音量を消したい場合は、【Fn】 + 【F3】 キーを押します。

「Mute」と表示され、画面右下の通知領域のアイコンが変わります。

もう一度【Fn】 + 【F3】 キーを押すと、画面下部に現在の音量を示すインジケータが表示され、音が出るようになります。

画面上の音量つまみで設定する

1 画面右下の通知領域の「音量」アイコンをタップします。

音量を調節する画面が表示されます。

POINT

- ▶ 通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
 2. 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をタップします。
 3. 「サウンドとオーディオデバイス」をタップします。
「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」が表示されます。
 4. 「音量」タブをタップします。
 5. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
 6. 「OK」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。

2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。

ミュートをチェックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。

- 3 デスクトップの何もないところをタップします。
音量を調節する画面が消えます。
消えなかった場合は、いったん音量つまみをタップしてから、デスクトップの何もないところをタップしてください。

再生時／録音時の音量設定について

「ボリュームコントロール」ウィンドウで再生時や録音時の音量設定ができます。

■ 再生時の音量設定方法

- 1 画面右下の通知領域の「音量」アイコンをダブルタップします。
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。
- 2 バランスや音量などを調節します。
- 3 ウィンドウの右上にある「閉じる」をタップし、ウィンドウを閉じます。

■ 録音時の音量設定方法

- 1 画面右下の通知領域の「音量」アイコンをダブルタップします。
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。
- 2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にタップします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「録音」をタップし、録音音量を設定したい項目を、「表示するコントロール」からチェックし、「OK」をタップします。
- 4 バランスや音量などを調節します。
- 5 ウィンドウの右上にある「閉じる」をタップし、ウィンドウを閉じます。

■ ご購入時の音量設定

POINT

- ▶ 表示されていない項目を表示させる場合は、次のように設定します。
 1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にタップします。
 2. 「表示するコントロール」で、項目をタップしてチェックします。
項目が表示されるようになります。
- ▶ バランスや音量を設定しても、再生時／録音時の音量が小さい、または大きい場合は、次の手順で「マイク」の設定を変更してください。「マイク」に「トーン」が表示されていない場合は「オプション」メニュー→「トーン調整」の順にクリックし、「トーン」を表示します。
 1. 「マイク」の「トーン」をタップします。
 2. 「そのほかの調整」で「マイクブースト」のチェックを確認してください。
音量を大きくしたい場合はチェックを付けます。
音量を小さくしたい場合はチェックを外します。

□ 再生時の音量設定

ー：ご購入時の設定はミュートではありません

項目	ご購入時の表示状態	ご購入時の設定	設定する音量
ボリュームコントロール	表示	ー	内蔵スピーカー、ヘッドホン端子の再生音量（ヘッドホン設定時）
WAVE	表示	ー	Wave 音源の再生音量
SW シンセサイザ	表示	ー	本パソコン内蔵のソフトウェアMIDIの再生音量
CD プレーヤー	表示	ー	音楽 CD の再生音量
PC Beep ^{注1}	表示	ー	BEEP 音の再生音量

注1：スタンバイや休止状態に移行するときのビーブ音は設定できません。BIOS セットアップの設定が有効となります。

音量を変更する場合は、BIOS セットアップの「詳細」－「各種設定」－「音量設定」で設定してください。詳しくは、「BIOS」－「BIOS セットアップの操作のしかた」（→ P.155）をご覧ください。

なお、PC Beep の音量は 4 段階の調節のみになります

□ 録音時の音量設定

項目	ご購入時の表示の状態	設定する音量
マイク	表示	マイクの録音音量

3 通信

重要

- ▶ 通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスからパソコンを守るため、セキュリティ対策を実行してください (→ P.121)。

LAN について

LAN の設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ LAN を接続する

本パソコンには、下記に対応した LAN が内蔵されています。

- 10BASE-T (IEEE 802.3 準拠)
- 100BASE-TX (IEEE 802.3u 準拠)
- 1000BASE-T (IEEE 802.3ab 準拠)

本パソコンには、通信環境を簡単に切り替えられるソフトウェアまたは「Plugfree NETWORK」(→ P.146) が添付されています。あわせてご利用ください。

警告



- 雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。また、雷が鳴り出しそうなときは、AC アダプタやケーブル類を取り外し、雷が止むまで取り付けしないでください。
感電・火災の原因となります。またパソコンが故障するおそれがあります。

注意



- LAN コネクタに指などを入れしないでください。
感電の原因となることがあります。



- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると故障の原因となることがあります。

POINT

- ▶ 1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したネットワーク機器とエンハンスカテゴリ 5 (カテゴリ 5E) 以上の LAN ケーブルを使用してください。

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します (→ 『取扱説明書』)。

POINT

- ▶ ドッキングステーションをお使いになる場合は、ドッキングステーションをパソコン本体に取り付けます。取り付け方法については、「ハードウェア」- 「ドッキングステーションについて」(→ P.65) をご覧ください。
- ▶ お使いの機種によっては、ドッキングステーションは添付されておりません。別売のドッキングステーションをご購入ください。

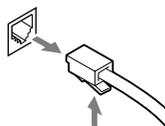
- 2** パソコン本体の LAN コネクタとネットワークを、LAN ケーブルで接続します。コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。LAN コネクタについては、「各部名称」－「各部の名称と働き」(→ P.12) をご覧ください。

重要

- ▶ ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします (→ P.115)。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。また、お使いになるソフトウェアによっては、不具合が発生する場合があります。
- ▶ ネットワークに接続する場合は、AC アダプタを接続した上でのご使用をお勧めします。

POINT

- ▶ LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。



- LAN コネクタにプラグを接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- ▶ ドッキングステーション取り付け時は、本体の LAN コネクタは使用できません。

無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について

無線LANを使うと、LANケーブルを使わずにネットワークに接続することができます。本パソコンに内蔵されている無線LANは、IEEE 802.11a (J52/W52/W53)、IEEE 802.11bおよびIEEE 802.11gに準拠しており、IEEE 802.11a (J52/W52/W53)、IEEE 802.11bおよびIEEE 802.11gに準拠した無線LAN機器と接続することができます。

無線LANについては、『IEEE 802.11a/g準拠 内蔵無線LANをお使いになる方へ』をご覧ください。設定する場合は、ネットワーク管理者に確認のうえ、実行してください。

また、本パソコンには、通信環境を簡単に切り替えられるソフトウェア「Plugfree NETWORK」(→P.146) が添付されています。あわせてご利用ください。

■ 通信を行うための注意

本パソコンの無線LANを使って通信するときの注意事項について説明します。

- 本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53) の無線 LAN は、電波法の定めにより屋外では使用できません。本パソコンを屋外でご使用になる場合は、5GHz 帯の電波を停止してください。
- 最大で 54Mbps 無線 LAN に対応しています。
表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53) (5GHz 帯) では見通し半径 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠 (2.4GHz 帯) では見通し半径 25m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造や材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、または電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もあります。
- 本パソコンの使用時、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。内蔵無線 LAN アンテナについては、「各部名称」－「各部の名称と働き」(→ P.12) をご覧ください。
また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体(電気を通しやすいもの)でできている場所を避けてください。通信性能が低下することがあります。
- 本パソコンに内蔵されている無線 LAN は、無線 LAN 製品の相互接続性を検証する「Wi-Fi Alliance」が定義する、無線 LAN 標準の「Wi-Fi[®]」に準拠しています。
- 本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠の無線 LAN は、Bluetooth[®] ワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯 (2.4GHz) を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth[®] ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。この場合、次のように対策してください。
 - ・ Bluetooth[®] ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する
 - ・ 10m 以内で使用する場合は、パソコン本体または Bluetooth[®] ワイヤレステクノロジー機器の一方の電源を切る
- LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われなかった場合があります。
なお、本パソコンを使用していない場合は、電源を切ってください。
- 有線 LAN と無線 LAN で、TCP/IP の設定などが競合しないように注意してください。
- 本パソコンをバッテリーで運用中に無線 LAN を使用する場合は、バッテリー残量に注意してください。

内蔵モデムについて

■ モデムを接続する

本パソコンには、V.92 対応のモデムが内蔵されています。MNP Class 4/5 および ITU-T V.42/V.42bis/V.44 によるエラーフリー/データ圧縮の通信が快適に行えます。また、モデムとしての機能に加え、T.30(G3)FAX の機能を持ち、FAX の送受信を行えます。

警告



- モジュラーケーブルを接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。



- 雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。また、雷が鳴り出しそうときは、AC アダプタやケーブル類を取り外し、雷が止むまで取り付けしないでください。
感電・火災の原因となります。またパソコンが故障するおそれがあります。

⚠ 注意



- モデムコネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- モジュラーケーブルを接続する場合は、必ずモデムコネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると故障の原因となることがあります。

- 1 パソコン本体のモデムコネクタと電話回線を、モジュラーケーブルで接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。モデムコネクタについては、「各部名称」－「各部の名称と働き」(→ P.12)をご覧ください。

👉 重要

- ▶ モデムによる接続を行う場合は、事前に現在の所在地情報を設定する必要があります。
設定方法などについては、『内蔵モデムをお使いになる方へ』をご覧ください。

赤外線通信

ここでは、赤外線通信について説明しています。赤外線通信を行う前にお読みください。

■ 赤外線通信の概要

赤外線通信(ワイヤレスリンク)とは、本パソコンの赤外線通信ポート(IrDA インターフェース)を使用して、赤外線通信機能(IrDA インターフェース)を持った他のパソコンと、ケーブルを接続することなく通信できる機能です。

赤外線通信を行う場合は、互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能に設定し、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。距離は 20 ~ 50cm の範囲内での使用をお勧めします。

□ 注意事項

- 赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートに AC アダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。誤動作の原因になります。
- 互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。
- データ転送中は、互いのパソコンを動かさないでください。データ転送が切断される場合があります。
- 次の場合、正常に通信できないことがあります。
 - ・ワイヤレスキーボードを赤外線通信ポートに向けて操作した場合
 - ・互いの赤外線通信ポートが、真正面に向き合っていない場合
 - ・互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎていたり、間に遮断物がある場合
 - ・テレビ、ラジオなどのリモコン、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作している場合
 - ・直射日光や、蛍光灯・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートに当たっている場合
 - ・赤外線通信ポートが汚れている場合

4 ドライブ関連

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	全容量の約 50%	
D	全容量の約 50%	
E	DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ	ドッキングステーション接続時

POINT

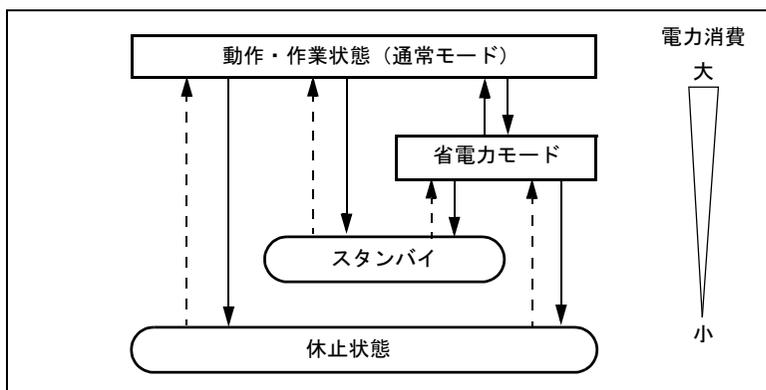
- ▶ ファイルシステムを NTFS から FAT32 に変換することはできません。
- ▶ FDD ユニット (USB) をお使いになる場合は、使用環境によって、FDD ユニット (USB) に割り当てられるドライブが変わります。また、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブのドライブが変わることがあります。

5 省電力

ご購入時には、一定時間パソコン本体を操作しないと自動的にディスプレイの表示を消したり、スタンバイするよう設定されています。

スタンバイと休止状態

スタンバイまたは休止状態を使用すると、Windows を終了しないで節電できます。



上の図にある - - - - - ➔ はレジュームを表します。

- スタンバイ

メモリ内のプログラムやデータを、システム RAM (メモリ) に保持してパソコンの動作を中断させます。スタンバイ中は、状態表示 LED の電源ランプが点滅します。休止状態よりも短い時間で、中断やレジュームを行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は、AC アダプタを接続している場合は AC 電源から、接続していない場合はバッテリーから供給されます。

- 休止状態

メモリ内のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、パソコン本体の電源を切ります。そのため、スタンバイよりも中断/レジュームにかかる時間が長くなります。

- 省電力モード

Windows が起動しているときに、「省電力ユーティリティ」を使った省電力モードにすることができます。省電力モードは、スタンバイや休止状態とは異なり、パソコン本体の動作を中断させません。そのため、パソコンの消費電力はスタンバイや休止状態ほどは節約できません。

注意事項

■ 共通の注意事項

- ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします（→ P.115）。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。
- パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- レジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
- 次の場合は、スタンバイや休止状態にしないでください。
 - ・ Windows の起動処理中または終了直後
 - ・ パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ハードディスク、またはフロッピーディスクにアクセス中
 - ・ オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
 - ・ ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・ CD や DVD に書き込みまたは書き換え中
 - ・ ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
 - ・ モデムやネットワークで通信中
 - ・ 赤外線通信を使用中
- 周辺機器の取り付け／取り外しをする前に、パソコン本体の電源を切ってください。省電力に移行した状態では行わないでください。また、周辺機器によっては、パソコン本体の電源を切らなくても接続できるものもあります。
「ハードウェア」（→ P.31）、または周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- 本パソコンは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合は、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。
- 別売の LAN カードをお使いになる場合は、AC アダプタを接続し、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで「電源設定」タブの各項目を「なし」に設定してください。
- CD や DVD を読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、タブレットボタンの Enter ボタンを押してください。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム（Wake up on LAN）を設定すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウを表示します（→ P.115）。
 3. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」を「20 分後」以上に設定します。

4. 「OK」をタップして、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ 設定値が20分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20分以上の値に設定してください。

■ スタンバイ時の注意事項

- バッテリーを使っているときのスタンバイ可能な時間は、新品のバッテリーを満充電した状態で、約3日です。
- スタンバイ時にはシステム RAM(メモリ)でのデータ保持のために電力を消費します。バッテリー運用の場合は、バッテリー残量に留意してください。スタンバイ中にバッテリーが切れると、作業中のデータがすべて失われてしまいます。長時間お使いにならない場合は、データを保存してから Windows を終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。
- モデム着信によるレジューム後は画面が表示されません。画面上でペンを操作すると画面が表示されます。この操作をしても画面が表示されない場合は、状態表示 LED の電源ランプが点滅していないか確認してください。点滅している場合はスタンバイになっています。電源ボタンを押して、レジュームしてください。
- お使いになる PC カードによっては、バッテリー運用時のスタンバイ可能な時間が短くなる場合があります。
- パソコンを持ち運んでいるときにレジュームすると、ハードディスクが故障する可能性があります。モデム着信によって自動的にレジュームさせている場合は、持ち運ぶ前に設定を変更してください。

■ 休止状態の注意事項

- PC カードやプリンタなどの周辺装置を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺装置の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- 休止状態では、モデム着信によるレジュームは使用できません。
- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。

省電力の設定

■ 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの表示

本パソコンの電源を管理することができます。

- 1** 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の順にタップします。
- 2** 「電源オプション」をタップします。
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。

この後は、「設定を変更する」(→P.116)をご覧ください。
設定を変更した後は、「OK」をタップして、すべてのウィンドウを閉じます。

■ 設定を変更する

お使用の状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をタップしてください。

重要

- ▶ ネットワークをお使いになるときは、次の設定を行い、省電力機能が働かないようにすることをお勧めします。
省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。
・「電源設定」タブの「システムスタンバイ」、「システム休止状態」を「なし」にします。

□「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、節電機能が働くまでの時間を設定できます。「ポータブル/ラップトップの電源設定」の次の項目を変更してください。
「モニタの電源を切る」：モニタの電源が切れるまでの時間を設定できます。
「ハードディスクの電源を切る」：ハードディスクの電源が切れるまでの時間を設定できます。
「システムスタンバイ」：スタンバイするまでの時間を設定できます。
「システム休止状態」：休止状態にするまでの時間を設定できます。この項目は「休止状態」タブで「休止状態を有効にする」をチェックした場合のみ表示されます。
出荷時の設定は、「ポータブル/ラップトップ」です。出荷時設定のままでのご使用をお勧めします。

□「アラーム」タブ

バッテリーの残量が少なくなったときに Windows が出す警告に関する設定をします。
音で知らせる場合は、「アラームの動作」をタップし、「通知方法」の「音で知らせる」をチェックします。

POINT

- ▶ 「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」のチェックを外すと、バッテリーが切れた時点で電源が切断されます。この場合は、作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。
- ▶ バッテリーの残量が約 12% 以下の状態を、「LOW バッテリー状態」といいます。この状態になると、「アラーム」タブでの設定に関わりなく、状態表示 LED のバッテリー残量表示ランプが赤色に点灯します。

□「詳細設定」タブ

電源ボタンを押したときの、パソコン本体の動作状態を設定します（ご購入時には、スタンバイするように設定されています）。
次のように設定できます。

- 「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
：電源ボタンを押したときの動作を設定できます。

□「休止状態」タブ

本パソコンを終了する前にメモリの内容をすべてハードディスクに保存するかを設定します。
「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」をチェックする（ご購入時にはチェックされています）と、「詳細設定」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」が選択できるようになります。

スタンバイまたは休止状態にする

各項目での動作は「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定によります。スタンバイ/休止状態にするには、次の方法があります。

■「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使う

- 1 状態表示 LED のハードディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にタップします。
「コンピュータの電源を切る」ウィンドウが表示されます。
- 2 「スタンバイ」または「休止状態」をタップします
しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

■ 電源ボタンを使う

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブでの設定により、電源ボタンを押したときにスタンバイまたは休止状態になります。詳しくは、「省電力の設定」(→ P.115)をご覧ください。

- 1 状態表示 LED のハードディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、電源ボタンを押します。
しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

POINT

- ▶ 電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

スタンバイまたは休止状態からのレジューム

レジューム後、しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。レジュームには、次の方法があります。

■ 電源ボタンを押す

スタンバイからレジュームする場合は状態表示 LED の電源ランプが点滅していることを確認してください。

■ モデム着信によるレジューム（スタンバイ時のみ有効）

本パソコンでは、モデム着信によってもレジュームすることができます。モデム着信によってレジュームさせたい場合には、次のように設定してください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プリンタとその他のハードウェア」の順にタップします。
- 2 「電話とモデムのオプション」をタップします。

- 3 「モデム」タブをタップします。
- 4 「Agere Systems HDA Modem」が選択されていることを確認し、「プロパティ」をタップします。
- 5 「電源の管理」タブをタップします。
- 6 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」をチェックします。
- 7 「OK」をタップします。
- 8 「電話とモデムのオプション」ウィンドウで「OK」をタップします。
- 9 ハイパーターミナルなどの通信系アプリケーションを起動し、本パソコンをスタンバイにします。

この状態でモデムに着信があったときにパソコンがレジュームするようになります。
なお、モデム着信によるレジューム後は画面が表示されません。
また、休止状態では、モデム着信によるレジュームは使用できません。

■ LAN 着信によるレジューム (Wakeup on LAN)

他のコンピュータから本パソコンにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。無線 LAN をお使いの場合、Wakeup on LAN 機能はお使いになれません。

ネットワーク環境下で Wakeup on LAN 機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタンをタップし、「マイコンピュータ」を右タップし、「プロパティ」をタップします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ハードウェア」タブをタップし、「デバイスマネージャ」をタップします。
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルタップします。
- 5 次のデバイスを右タップし、「プロパティ」をタップします。
Marvell Yukon 88E8055 PCI-E Gigabit Ethernet Controller
- 6 「電源の管理」タブをタップします。
- 7 次の2つの項目をチェックし、「OK」をタップします。
 - ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする
- 8 「OK」をタップして、すべての画面を閉じます。

省電力モードの設定

Windows が起動しているときに「省電力ユーティリティ」を起動すると、省電力モードになり消費電力を節約することができます。

省電力モードでは、次の機能により消費電力が節約されます。

- CD/DVD ドライブの電源を切り、使用できなくする
- PC カードスロットを使用できなくする
- IEEE1394 (DV) 端子を使用できなくする
- 有線 LAN を使用できなくする
- 内蔵モデムを使用できなくする
- 画面の明るさを暗くする
- 「電源オプションのプロパティ」にある「ハードディスクの電源を切る」の時間を調整する

POINT

- ▶ 「省電力ユーティリティ」はインストールされていません。お使いになる場合は、添付の「ドライバズディスク」からインストールしてください。インストール方法は「ソフトウェア」 - 「ソフトウェア一覧」(→ P.138) をご覧ください。

■ 省電力モードの設定

- 1 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンを右タップし、表示されたメニューから「モードの切り替え」をタップします。
「省電力モードへの切り替え - [省電力ユーティリティ]」ウィンドウが表示されます。
- 2 「OK」をタップします。
本パソコンが省電力モードになります。

重要

- ▶ 省電力モードから通常モードに設定を戻す手順は次のとおりです。
 1. 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンを右タップし、表示されたメニューから「モードの切り替え」をタップします。
「通常モードへの切り替え - [省電力ユーティリティ]」ウィンドウが表示されます。
 2. 「OK」をタップします。
本パソコンが通常モードになります。

■ 省電力モードの設定を変更する

省電力モードの設定を変更することができます。お使いの状況に合わせて、設定を変更し、「OK」をタップしてください。

POINT

- ▶ 設定内容については、「省電力ユーティリティ」のヘルプをご覧ください。「省電力ユーティリティ」のヘルプは、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「省電力ユーティリティ」→「ヘルプ」の順にタップして表示します。
- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 2** 「パフォーマンスとメンテナンス」をタップします。
- 3** 「電源オプション」をタップします。
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。
- 4** 「省電力ユーティリティ」タブをタップします。
- 5** 「設定を変更」をタップします。
「省電力ユーティリティ設定画面 - [省電力ユーティリティ]」が表示されます。

第4章

セキュリティ

4

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1 セキュリティについて	122
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	124
3 不正使用からのセキュリティ	130
4 パソコンの盗難防止	134
5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	135

1 セキュリティについて

パソコンの使用増加に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本パソコンではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、説明しています。

重要

- ▶ 弊社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。セキュリティ対策は、本パソコンを使用している方が責任をもって行うようにしてください。
- ▶ セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。パソコンを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておくことが必要です。

■ コンピュータウイルス

パソコンにトラブルを引き起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染することにより、パソコンのシステムやデータの破壊、情報の漏えいといった被害を与えます。

■ 情報の漏えい

ネットワークなどを通してパソコンに不正に侵入され、重要なデータを流出されたり破壊されたりすることがあります。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したパソコンから不正に情報が抜き出されることもあります。

POINT

- ▶ 記録メディアを廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。CD、DVDなどはディスクの読み取り部に傷をつけたり、USBメモリなどはデータを完全に消去したりすることをお勧めします。

■ 不正使用

使用する権限のないパソコンを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

■ 盗難

不正にパソコンが持ち出され、保存しているデータが不正に使用されることがあります。

■ トラブルに備えて

パソコンのセキュリティには、これで完全というものはありません。日ごろからデータのバックアップをとったり、ソフトウェアを最新のものにアップデートしたりするなどの対策をおけば、被害を少なくすることができます。

詳しくは、「トラブルシューティング」－「トラブルに備えて」(→ P.194)、および「セキュリティ」－「Windows やソフトウェアのアップデート」(→ P.126)をご覧ください。

2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどの普及に伴い、コンピュータウイルスへの感染やパソコン内の情報が漏えいする危険性が高まっています。

ここでは、ネットワークに接続しているパソコンを守るためのセキュリティ機能について紹介します。

コンピュータウイルス対策

重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染したことにより本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になることがあります。ウイルスの感染を防ぐために、「Norton AntiVirus」(→ P.124) を使用したり、「Windows Update」(→ P.126) を実行したり対策を取ってください。

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染し、データを破壊したりパソコンを起動できなくしたりします。また、ウイルスに感染したパソコンを使用することにより、メールソフトに登録されているアドレスや保持しているデータに記録されているアドレス宛てに勝手にウイルスが配信され、ウイルスを広めてしまうこともあります。

本パソコンには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「Norton AntiVirus」が添付されています。「Norton AntiVirus」は、ウイルス定義ファイルを使用して、ウイルスの侵入と感染をチェックすることができます。

■ Norton AntiVirus

「Norton AntiVirus」は「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」(→ P.138) をご覧になり、必要に応じてインストールしてください。また、「Norton AntiVirus」を使用する場合は、ウイルス定義ファイルの更新をお勧めします。

更新方法については、「ウイルス定義ファイルを更新する (LiveUpdate)」(→ P.125) をご覧ください。

使用方法や設定については、ヘルプをご覧ください。

□ 注意事項

- 「Norton AntiVirus」を起動していると、ソフトウェアが正常にインストールされなかったり、ご使用のソフトウェアによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「Norton AntiVirus」を一時的に使用不可にしてください。ただしインストールが終了した後は、使用可に戻すのを忘れないでください。
 - ・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」の順にタップします。
 - ・「Norton AntiVirus」ウィンドウで「オプション」→「Norton AntiVirus」の順にタップし、「Auto-Protect をオンにする」のチェックを外して、「OK」をタップします。
 - ・「Norton AntiVirus」のアイコンが通知領域に表示されている場合は、そのアイコンを右タップし、「Auto-Protect を無効にする」をタップします。

- 「Norton AntiVirus」でコンピュータウイルス検査を実行しているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。
- 「Norton AntiVirus」は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイルと、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。定期的に更新してください。スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の「Norton AntiVirus」をご購入ください。
- 電子メールに添付されたファイルや入手したフロッピーディスクなどは、コンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてからお使いください。また、パソコンのハードディスクは定期的にウイルスチェックを実行してください。

□ ウイルス定義ファイルを更新する（LiveUpdate）

POINT

- ▶ 「LiveUpdate」はシステム管理者の指示に従って実行してください。
 - ▶ 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから実行してください。
 - ▶ 「Norton AntiVirus」の自動LiveUpdateを「オン」に設定しておく、インターネットに接続したときに最新のウイルス定義ファイルに自動更新することができます。
- 手動で更新する
 1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」の順にタップし、画面左上の「LiveUpdate」ボタンをタップします。
 2. 「次へ」ボタンをタップします。
更新ファイルがあるかどうか検索されます。
更新ファイルがない場合は、「完了」をタップしてウィンドウを閉じます。
 3. 「次へ」ボタンをタップします。
更新ファイルのダウンロードとインストールが始まります。
 4. 「完了」をタップします。

POINT

- ▶ 更新を有効にするために再起動が必要な場合は、Windowsを再起動してください。
- 自動で更新する
自動でウイルス定義ファイルを更新するには、「Norton AntiVirus」の自動LiveUpdateを「オン」に設定する必要があります。
 1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」をタップします。
「Norton AntiVirus」が起動します。
 2. 「Norton AntiVirus」ウィンドウで「オプション」→「Norton AntiVirus」の順にタップします。
「Norton AntiVirus オプション」ウィンドウが表示されます。
 3. 「インターネット」の「LiveUpdate」をタップします。
 4. 「自動LiveUpdateをオンにする」にチェックを付けて、「OK」をタップします。
自動LiveUpdateのオンとオフが切り替わります。

□ コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 952 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

Windows やソフトウェアのアップデート

お使いの Windows やソフトウェアに脆弱性（セキュリティホール）と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピュータウイルスなどの悪意あるプログラムが作られる可能性があります。脆弱性をそのまま放置しておく、お使いのパソコンに悪意あるプログラムが侵入する危険性があります。

その対策として、システムやソフトウェアを提供している各社が修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認の上、お使いのパソコンに適用してください。

Windows では、「Windows Update」で Windows を最新の状態に更新できます。最新の状態にすることにより、ウイルスが侵入したり、不正アクセスされたりするセキュリティホールをなくするための対策もされます。

■ Windows Update

POINT

- ▶ 「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから、実行してください。
- ▶ インターネットに接続しただけで感染するウイルスなどもあります。ご購入時の設定は「Windows ファイアウォール」が有効になっています。「Windows ファイアウォール」は、有効にして使用することをお勧めします。
- ▶ 「Windows Update」はシステム管理者の指示に従って実行してください。システム管理者は、次の点にご注意ください。
 - ・「優先度の高い更新プログラム」については、適用されることをお勧めします。
 - ・ハードウェア用の更新プログラムは適用しないでください。ただし、お客さまが追加されたデバイスについてはお客様の判断で適用してください。
 - ・自動更新機能を使うと、「Windows Update」を自動的に行うように設定をすることができます。設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。ご購入時の設定では、インターネットに接続しているときに、「優先度の高い更新プログラム」を自動更新するように設定されています。必要に応じて設定を変更してください。
- ▶ 「Windows Update」は、マイクロソフト社が提供するサポート機能です。「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のパソコンの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。
- ▶ 「Windows Update」のバージョンがアップされている場合は、「Windows Update」のホームページの案内に従って、実行してください。

1 「スタート」ボタン → 「すべてのプログラム」 → 「Windows Update」の順にタップします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

POINT

- ▶ Windowsなどのマイクロソフト社が提供するソフトウェアの更新プログラムを1度に入手できる「Microsoft Update」を利用することもできます。「Microsoft Update」を利用するには、マイクロソフト社のホームページから専用のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「Windows Update」のホームページにあるリンクをタップし、「Microsoft Update」のホームページをご覧ください。

2 「カスタム」をタップします。

パソコンの状態を診断し、更新情報を取得します。
更新情報のリストが表示されます。

3 内容を確認し、更新したくない項目がある場合はその項目のチェックを外します。

通常は、「優先度の高い更新プログラム」についてはすべての項目を更新することをお勧めします。

4 「更新プログラムの確認とインストール」をタップします。**POINT**

- ▶ インターネットへ情報を送信するにあたっての注意が表示されたら、「はい」をタップします。

5 「更新プログラムのインストール」をタップします。

この後は、表示される画面に従って操作してください。

セキュリティセンター

「セキュリティセンター」を使うと、Windowsのセキュリティの状態を監視したり、関連する機能や設定画面を呼び出したりすることができます。

■ セキュリティセンターの機能

□ セキュリティの状態を監視して危険を知らせる

セキュリティセンターは、セキュリティ対策上で重要な次の3つのポイントをいつもチェックしています。

- パソコンがファイアウォールで守られている
- 「Windows Update」の「優先度の高い更新プログラム」が自動的に適用されるように設定されている
- 最新のウイルス対策ソフトを実行している

例えば、ウイルス対策ソフトを導入していなかったり、ウイルス定義ファイルが古いままで最新のコンピュータウイルスに対応できない状態だったりした場合など何か問題があるときに、画面右下の通知領域にあるアイコンの色が変わり、注意を喚起するメッセージを表示してお知らせします。常に最新のセキュリティ対策を取るように心がけてください。

□セキュリティの設定／確認を手軽に行う

セキュリティセンターでは、次の設定を行うことができます。

- インターネットオプション
「Internet Explorer」のセキュリティ設定を変更できます。ホームページ閲覧中に突然表示される広告（ポップアップウィンドウ）を遮断することもできます。
- 「Windows Update」の自動更新
インターネット利用中に「Windows Update」の「優先度の高い更新プログラム」があるかどうかを定期的に確認し、お使いのパソコンに自動的にインストールします。
- Windows ファイアウォール
ネットワーク経由で悪意のある第三者や不正なプログラムが侵入するのを防ぎます。

ファイアウォール

パソコンを外部のネットワークに接続している場合、外部のネットワークから不正にアクセスして情報を改ざんされることがあります。そのため、外部のネットワークと内部のネットワークの間にファイアウォールと呼ばれる壁を作って、外部からのアクセスをコントロールすることができます。

Windows XP Tablet PC Edition 2005 では、「Windows ファイアウォール」が標準で搭載されています。

「Windows ファイアウォール」については、Windows のヘルプをご覧ください。

通信データの暗号化

ネットワーク経由してデータをやり取りしている場合、ネットワーク上で情報の漏えいを招くことがあります。重要なデータは、あらかじめ暗号化するなどして保護することが大切です。Windows XP Tablet PC Edition 2005 には、データを暗号化するための機能が標準で搭載されています。暗号化機能の1つとして、「IPSec (Internet Protocol Security)」があります。

TCP/IP プロトコルで通信をしている場合に「IPSec」を有効にすると、ソフトウェアに依存せずにデータを暗号化させてネットワークを経由させることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

無線 LAN 使用時の通信データの暗号化

無線LANを使ってネットワークに接続すると、無線が届く範囲内にある他の無線LAN搭載機器から通信内容を他人に読み取られてしまう危険性があるので、データを暗号化することが必要です。

本パソコンには、無線LANのデータを暗号化するための機能が搭載されています。

詳しくは、『IEEE 802.11a/g準拠 内蔵無線LANをお使いになる方へ』をご覧ください。

なお、無線LANアクセスポイント経由でネットワークに接続している場合は、無線LANアクセスポイントのマニュアルもご覧ください。

3 不正使用からのセキュリティ

パソコンを使用する権限のない人が不正にパソコンを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からパソコンを守ることが必要になってきています。

ここでは、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、パソコンの安全性も高まります。

重要

- ▶ パソコンの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ▶ パスワードを何かに書き留める際は、第三者に知られないように安全な場所に保管してください。
また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

Windows のパスワード

Windows の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで1台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザーアカウント

Windows では、管理者権限を持ったユーザーアカウントを作成できます。管理者は、他のユーザーアカウントのセットアップや管理などを行うことができます。パソコンを使用するユーザーアカウントと管理者権限を持ったアカウントを分ければ、ファイルのアクセス権を管理したり、不正なプログラムのインストールや起動を制限できるため、パソコンの安全性も高まります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windows XP では、ファイルシステムとして「NTFS」を使用しています。NTFS では、フォルダやファイルにアクセス権を設定できます。また、Windows XP Tablet PC Edition 2005 では、フォルダやファイルを暗号化することができます。

- フォルダやファイルへのアクセス権の設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定して、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。
- フォルダやファイルの暗号化
暗号化を設定しておけば、不慮の事故や盗難等でハードディスクを紛失しても、データの内容を簡単には読み出せないように保護することができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

BIOS のパスワード

パソコンの起動時やレジューム時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、パソコンの設定が変更できなくなるなどの制限が付きまます。

また、パソコンのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておくと、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

詳しくは、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.170) をご覧ください。

セキュリティチップ

セキュリティチップはパソコンの状態を確認すると共に、ユーザーごとの鍵を生成し保護管理する機能を持ちます。この機能を使うことで、より強固なファイル暗号化やユーザー認証を行うことができます。

詳しくは『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

セキュリティボタン

重要

- ▶ 添付の「セキュリティボタン」をインストールすることにより、パスワードを設定できます。詳しくは、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」(→ P.138) をご覧ください。

パソコン本体の起動時やレジューム時のパスワードを設定できます。パスワードは、4つのボタンの組み合わせと、ボタンを押す回数で設定します。

パソコンを使用する場合は、状態表示 LED のセキュリティ表示ランプが点灯したときにパスワードを入力します。

詳しくは、『セキュリティボタン取扱説明書』をご覧ください。

スマートカードリーダー/ライタ

重要

- ▶ PC カードスロットにスマートカードホルダーをセットすることにより使用できます。詳しくは、「ハードウェア」－「PC カードをセットする」(→P.73)をご覧ください。
- ▶ パソコン本体の電源を入れる前に、スマートカードホルダーをパソコン本体にセットしてください。また、パソコンの使用中は、スマートカードホルダーを絶対に取り出さないでください。

パソコンやWindowsの起動時、ソフトウェアのログオン時にスマートカード認証によるセキュリティを設定できます。スマートカードにはIDやパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。1枚のスマートカードに管理者用とユーザー用のパスワードを、1つずつ設定できます。パソコンを使用する場合は、パソコン本体にスマートカードをセットし、PIN (個人認証番号)を入力します。スマートカードをセットしないとセキュリティが解除できないため、従来のパスワード認証によりも安全に使用できます。

詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。

指紋センサー

重要

- ▶ 指紋センサーをひっかいたり、先のとがったもので押したり、濡らしたりしないでください。指紋センサーに傷がつき、故障の原因となることがあります。
- ▶ パソコン本体の使用時、指紋センサー表面が温かくなることがありますが、故障ではありません。
- ▶ 指紋センサーが汚れた場合は、除電用金具に触れてから、乾いた柔らかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。

パソコンやWindowsの起動時、ソフトウェアのログオン時に指紋認証によるセキュリティを設定できます。従来のパスワード認証に変わり、指紋による個人認証を行います。

パソコンを使用する場合は、指紋センサー部で指をスライドします。パスワードを覚える必要がなく、個々の指紋を記憶できるので、簡単に安全に使用できます。

詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。

Portshutter

POINT

- ▶ 無効に設定したポートは、機器を接続してもお使いになれません。
- ▶ PC カードを無効にした場合、スマートカードはお使いになれません。

USB ポートや CD-ROM ドライブなどの接続ポートの使用を制限できます。「Portshutter」を使うことにより、パソコンからの情報漏洩やパソコンへの不正なプログラムの導入を防止することができます。

USB ポートを無効にする場合、USB 機器ごとに有効・無効の設定が可能です。詳しくは、添付の「ドライバズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

本パソコンの CPU は、エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能に対応しています。エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能するバッファ・オーバーフロー脆弱性を防止する機能です。

4 パソコンの盗難防止

パソコンの盗難という危険性があります。パソコンを鍵のかかる場所に設置または保管するなどの対策をとることもできますが、パソコン自体にも盗難防止用の機能が備えられています。本パソコンの盗難防止用ロック取り付け穴に盗難防止用ケーブルを取り付けることで、パソコン本体の盗難の危険性が減少します。

盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「各部名称」－「各部の名称と働き」(→ P.12)をご覧ください。

5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去することが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ・ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ・ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを読み出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

パソコンの廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（Windows、ソフトウェアなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

本パソコンには、パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

「ハードディスクデータ消去」の使い方については、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」（→P.138）をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ完全消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	専用ソフトウェアを使って、ハードディスクに対して2回上書き（ランダムデータ+0データ）する事により残存するデータを完全に消去します。DoDやNSAなど海外の各種消去規格にも対応可能です。
ハード消去	消磁装置を使用してハードディスクを磁氣的に破壊します。（最大磁力：13000 ガウス）

消去証明として富士通が消去証明書を発行し消去済ナンバリングシールを対象ディスクに貼付して、納品物とします。

詳しくは、「データ消去サービス」(http://segroup.fujitsu.com/fs/services/h_elimination/)をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先メールアドレス：fbprj@support.fujitsu.com

第 5 章

ソフトウェア

ソフトウェアのインストールについて説明しています。

1 ソフトウェア一覧.....	138
2 ドライバ.....	151

1 ソフトウェア一覧

ご購入された時にソフトウェアが提供されている状態の一覧表です。
 プレインストールで添付がされている場合を「◎」、添付のみされている場合を「△」で示しています。

POINT

- ▶ 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- ▶ 添付されているソフトウェアは「ドライバズディスク」、「リカバリディスク」などに格納されています。各ソフトウェアの紹介を参照してインストールしてください。

	名称	提供形態		
		TB/S	TB/B	TB/R
OS	Windows XP Tablet PC Edition 2005 (→ P.139)	◎	◎	◎
セキュリティ	Norton AntiVirus (→ P.140)	△	△	△
	Portshutter (→ P.140)	△	△	△
	SMARTACCESS/Basic (→ P.140)	△	△	△
	セキュリティボタン (→ P.140)	△	△	△
	ハードディスクデータ消去 (→ P.141)	△	△	△
サポート	FM Advisor (→ P.143)	◎	◎	◎
	FMV 診断 (→ P.143)	◎	◎	◎
	PC 乗換ガイド (→ P.143)	△	△	△
	UpdateAdvisor (本体装置) (→ P.144)	◎	◎	◎
ユーティリティ	Easy Backup (→ P.144)	△	△	△
	IndicatorUtility (→ P.145)	◎	◎	◎
	FM-Menu (→ P.145)	△	△	△
	FM 拡大ツール (→ P.146)	△	△	△
	FM キーガード (→ P.146)	△	△	△
	Plugfree NETWORK (→ P.146)	△	△	△
	省電力ユーティリティ (→ P.147)	△	△	△
	富士通拡張機能ユーティリティ (→ P.147)	◎	◎	◎
ビューア	Adobe Reader (→ P.148)	◎	◎	◎
CD/DVD	Easy Media Creator (→ P.148) 注1	◎	—	—
	WinDVD (→ P.149) 注1	△	—	—

一部の添付ソフトウェアについては、機能別のマニュアルをご覧ください。
 プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください。

注1：TB/B、およびTB/Rで別売のドッキングステーションをご購入の場合は、ドッキングステーションに添付されません。

各ソフトウェアの紹介

POINT

- ▶ インストールには CD/DVD ドライブが必要です。お使いの機種によっては、ドッキングステーションは添付されておりません。別売のドッキングステーションをご購入ください。また、ポータブル CD/DVD ドライブもお使いになれます。ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM51)」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット (FMV-NCB52)」をお勧めします。
- ▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をタップしてください。

■ Windows XP Tablet PC Edition 2005

□ 概要

Windows XP Tablet PC Edition 2005 には次のソフトウェアが含まれています。

- Internet Explorer 6.0 SP2 (World Wide Web ブラウザ)
- Microsoft IME スタンダード 2002 (日本語入力ユーティリティ)
- DirectX9.0c (対応ソフトウェアの高速表示／高品位音声再生を実現)
- OS 追加プログラム (Windows XP Tablet PC Edition 2005 のリリース以降に提供されたセキュリティの問題を解決する修正プログラム)

重要

- ▶ 「プログラムの追加と削除」で、「更新プログラムの表示」にチェックを付けたときに表示されるモジュールを削除しないでください。
- ▶ 本パソコンには、Windows XP Tablet PC Edition 2005 がインストールされています。Windows XP Tablet PC Edition 2005 には、SP2 に関するすべての修正が含まれていますので、SP2 をインストールする必要はありません。
本パソコンにSP2をインストールした場合は、正常にSP2のインストールが完了しません。そのままお使いになると予期せぬトラブルが発生する可能性がありますので、ご購入時の状態に戻すことをお勧めします。ご購入時の状態に戻す方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

POINT

- ▶ 本パソコンをご購入された時期によっては、「OS 追加プログラム」よりも新しい修正プログラムが配布されている場合があります。「Windows Update」を利用して Windows を最新の状態にすることをお勧めします。「Windows Update」については、「セキュリティ」—「Windows やソフトウェアのアップデート」をご覧ください。
操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプ、および Windows 内の『Tablet PC 入門』や『Tablet PC チュートリアル』をご覧ください。
- ▶ Windows XP のバージョン情報は、次の操作で見ることができます。
 1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にタップします。
 2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にタップします。

操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプをご覧ください。

■ Norton AntiVirus

□ 概要

コンピュータウイルスを検出・駆除します。詳しくは、「セキュリティ」－「コンピュータウイルス対策」(→ P.124) をご覧ください。

ユーザー登録をすると「シマンテックテクニカルサポートセンター」をご利用になります。詳細については「トラブルシューティング」－「お問い合わせ先」(→ P.221) をご覧ください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。

[CD/DVDドライブ]:¥app¥nav¥navsetup.exe

この後は、メッセージに従って操作してください。

■ Portshutter

□ 概要

USB ポートや CD/DVD ドライブなどの接続ポートを無効にするソフトウェアです。不要な機器を接続させないことにより、情報漏洩を防止できます。

□ インストール方法

インストール手順については、「ドライバーズディスク」内の「¥app¥portshut¥manual¥操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

■ SMARTACCESS/Basic

□ 概要

「SMARTACCESS/Basic」には、Windows やソフトウェアへの不正なログオンの防止、機器監査機能があります。

詳しくは『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。

□ インストール方法

インストール方法については『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。なお、リカバリを実行した場合、「SMARTACCESS/Basic」を手動でインストールする必要があります。

■ セキュリティボタン

□ 概要

セキュリティボタンのパスワードを設定します。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。なお、リカバリを実行した場合、「セキュリティボタン」を手動でインストールする必要があります。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
 - 管理者用
[CD/DVDドライブ]:¥app¥security¥supervisor¥setups.exe
 - ユーザー用
[CD/DVDドライブ]:¥app¥security¥user¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

使用方法については、『セキュリティボタン取扱説明書』をご覧ください。

■ ハードディスクデータ消去

□ 概要

ハードディスク内のデータを消去します。詳しくは「セキュリティ」－「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」(→ P.135)をご覧ください。

□ 注意事項

- 本ツールでは、本パソコンに内蔵されているハードディスクのみを対象としています。このため、外付けのハードディスクのデータを消去することはできません。
- 1回の操作でデータを消去できるハードディスクは1つです。複数のハードディスクを消去する場合は、システムを再起動してからハードディスクデータ消去を実行する必要があります。
- 「リカバリディスク」を起動してから24時間経つと、本パソコンが自動的に再起動されます。そのため、「リカバリディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してからハードディスクデータ消去を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- 「ハードディスクデータ消去」を実行する場合は、ACアダプタを接続してください。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中にリカバリディスクを取り出さないでください。処理が継続できなくなる場合があります。

□ データ消去法

「リカバリディスク」を用意してください。

- USB マウス
- ドッキングステーション、またはポータブル CD/DVD ドライブ (USB)

POINT

- ▶ お使いの機種によっては、ドッキングステーション、USB マウスは添付されていません。別売のドッキングステーション、USB マウスをご購入ください。また、ポータブル CD/DVD ドライブもお使いになれます。ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM51)」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット (FMV-NCB52)」をお勧めします。

- 1** ドッキングステーション、またはポータブル CD/DVD を接続し、本パソコンの電源を入れます。
- 2** 「リカバリディスク」をセットします。
- 3** 本パソコンを再起動します。
- 4** 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、画面の適当な場所をタップします。ポップアップメニューが表示されます。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を使用する設定にした場合、パスワードを入力後（指紋を登録した場合は指紋認証後）、認証画面が消えた後、すぐにタップしてください。

- 5** 「起動メニュー」をタップします。「起動メニュー」が表示されます。

POINT

- ▶ メニューが表示されない場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本パソコンを再起動してください。

- 6** 「CD/DVD Drive」を選択し、【Enter】キーを押します。「使用許諾」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「使用許諾」をよく読み、「同意します」をタップします。「リカバリメニュー」ウィンドウが表示されます。
- 8** 「メニュー」から「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をタップします。「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。
- 9** 注意事項をよく読み、「同意します」をタップし、「次へ」をタップします。「データを消去するハードディスクを1台選択してください。」と表示されます。
- 10** データを消去するハードディスクにチェックを付け、「次へ」をタップします。「データを消去する方式を選択してください。」と表示されます。
- 11** 消去する方法を選択し、「次へ」をタップします。「以下の説明をお読みになり、エラー発生時の処理を選択してください。」と表示されず。

- 12** エラー発生時の処理方法を選択し、「次へ」をタップします。
「以下の条件で、データの消去を開始します。よろしいですか?」と表示されます。
- 13** 「開始」をタップします。
「ハードディスクデータ消去を実行します。よろしいですか?」と表示されます。
- 14** 「OK」をタップします。
しばらくすると、「電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ってください。」と表示されます。
- 15** 電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。

■ FM Advisor

□ 概要

本パソコンの使用環境を調査します。また、動作環境取得ツールとしても使用できます。

□ インストール方法

「UpdateAdvisor (本体装置)」(→ P.144) をインストールしてください。「FM Advisor」も同時にインストールされます。

■ FMV 診断

□ 概要

ハードウェアの故障箇所を的確に診断します。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1** 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。

[CD/DVDドライブ]:¥app¥shindan¥fmv1910¥disk1¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

POINT

- ▶ インストール後、「スタート」メニューに「FMV 診断」が登録されない場合があります。この場合は、「C:¥fjuty¥fmvdiag¥fmvdiag.exe」を直接起動するか、ショートカットを作成してください。

■ PC 乗換ガイド

□ 概要

今までお使いになっていたパソコンから、現在お使いのパソコンへ必要なデータを移行するためのソフトウェアです。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥pcmigra¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作してください。

■ UpdateAdvisor (本体装置)

□ 概要

適用すべき修正データをダウンロードして適用することができます。

POINT

- ▶ 「UpdateAdvisor (本体装置)」を利用するには、Azby Enterpriseの会員ID、またはSupportDesk サービス契約ユーザーなどのユーザー IDが必要です。
Azby Enterprise および SupportDesk については、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/fmv/>) をご覧ください。
- ▶ 「UpdateAdvisor (本体装置)」を利用するには、インターネットに接続し、「UpdateAdvisor (本体装置)」を最新バージョンにアップデートする必要があります。起動時に、「インターネットに接続し、インストールされている「UpdateAdvisor (本体装置)」が最新バージョンであるか確認を行いますか?」というメッセージが表示されるので、「はい」をタップしてください。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥advisor¥xp¥setup.exe
(「FM Advisor」が同時にインストールされます。)

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Easy Backup

□ 概要

お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできるソフトウェアです。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥easybup¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。
使用方法については、ヘルプまたはソフトウェア説明書をご覧ください。

■ IndicatorUtility

□ 概要

キーボード操作による画面の明るさや、音声ボリュームなどの変更が行われた場合に、パソコンの画面上にインジケータを表示するユーティリティです。

また、電源の状態（電源に接続、またはバッテリー使用）ごとに、画面の明るさを自動的に記憶する機能を持ちます。この機能を利用すると、携帯時に画面の明るさを自動的に暗くすることにより、バッテリー節約に役立てることができます。

□ インストール方法

POINT

- ▶ 「IndicatorUtility」をインストールする前に、「FUJ02B1 デバイスドライバ」がインストールされていることを確認してください。インストール方法については、「ドライバーズディスク」内の「¥app¥indiuty¥fuj02b1.txt」をご覧ください。

インストールする前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥indiuty¥setup.exe

- 4 「次へ」をタップします。

この後は、メッセージに従って操作します。

■ FM-Menu

□ 概要

ボタン式メニューから簡単にソフトウェアを起動できます。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバースディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥fmmenu¥xp¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ FM 拡大ツール

□ 概要

画面に表示される文字やアイコン、マウスポインタなどの大きさを拡大します。

□ インストール方法

- 1 「ドライバースディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥elook¥setup.exe

このあとはメッセージに従って操作します。

■ FM キーガード

□ 概要

特定のキー入力を抑止する機能と、プログラムメニューに表示するメニューの抑止機能を追加するソフトウェアです。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバースディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥fmguard¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Plugfree NETWORK

□ 概要

通信環境判別／切り替えソフトです。

□ インストール方法

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥plugfree¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ 省電力ユーティリティ

□ 概要

Windows の稼働中に省電力モードを利用するためのソフトウェアです。省電力モードの設定方法については「省電力」－「省電力モードの設定」をご覧ください。

□ インストール方法

インストールする前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
[CD/DVDドライブ]:¥app¥pwrspptl¥setup.exe

- 4 「次へ」をタップします。

この後は、メッセージに従って操作します。

■ 富士通拡張機能ユーティリティ

□ 概要

FMV シリーズのハードウェア拡張機能をサポートするためのソフトウェアです。

□ インストール方法

POINT

- ▶ 富士通拡張機能ユーティリティをインストールする前に、FUJ02E3 デバイスドライバがインストールされていることを確認してください。インストール方法については、「ドライバーズディスク」内の「¥app¥fjextuty¥fuj02e3.txt」をご覧ください。

インストールする前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。

[CD/DVDドライブ]:¥app¥fjextuty¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Adobe Reader

□ 概要

PDF（Portable Document Format）ファイルを表示、閲覧、印刷できます。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

POINT

- ▶ セットアップ中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をタップして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

1 「ドライバーズディスク」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にタップします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。

[CD/DVDドライブ]:¥app¥adobe¥adberdr708_ja_jp.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Easy Media Creator

□ 概要

パソコンのデータや音楽、映像データをCDやDVDに保存するためのソフトウェアです。使用方法については、ソフトウェア内のヘルプをご覧ください。

POINT

- ▶ DVD+R DLにデータ書き込みを行う場合、DVD-ROMとの互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」(約512MB)が書き込まれます。このため、最大書き込み容量は約7.99GBとなります。

□ 対象機種

ドッキングステーションを使用している機種

□ インストール方法

TB/Sは「Easy Media Creator」がプレインストールされています。

TB/Sでリカバリを行った場合や、TB/BまたはTB/Rで別売のドッキングステーションをご購入の場合は、「Easy Media Creator」を手動でインストールする必要があります。

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「Roxio Easy Media Creator」 CD-ROM をセットします。
- 2 「スタート」 ボタン→「ファイルを指定して実行」の順にタップします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をタップします。
[CD/DVDドライブ]:¥roxio¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ WinDVD

□ 概要

映画や音楽などの DVD を再生するソフトウェアです。

□ 対象機種

ドッキングステーションを使用している機種

□ インストール方法

インストール方法については、添付の「WinDVD」CD-ROM内の「¥dvd¥dvdreadme.txt」をご覧ください。なお、リカバリを実行した場合、「WinDVD」を手動でインストールする必要があります。

アンインストール方法

■ 注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「この DLL は複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

この DLL ファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

■ アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。

- 「プログラムの追加と削除」機能を使用する

「コントロールパネル」ウィンドウの「プログラムの追加と削除」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳細は各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

2 ドライバ

重要

- ▶ 添付の「ドライバズディスク」をセットすると「ドライバズディスク検索」ツールが起動します。「ドライバズディスク検索」ツールでお使いの OS を選択すると、使用できるドライバの一覧が表示されます。機種名が選択できる場合は、お使いの機種名も選択してください。
誤ったソフトウェアをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ず OS や機種名を選択し、正しいソフトウェアを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバについては、特に問題がない限りインストールしないでください。

リカバリ後はお使いの機器および選択したカスタムメイドオプションにより、ドライバのインストールが必要です。

- インストールが必要なドライバ
 - ・セキュリティチップ
 - ・スマートカードホルダー
 - ・スマートカードリーダー/ライター
 - ・指紋センサー

その他のドライバをインストールする必要はありません。ただし、ドライバを誤って削除したり、またなんらかの理由により破損した場合、ドライバのインストールが必要になります。インストールについては、『SMARTACCESS フェーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』、または各ドライバのフォルダ内にある「Install.txt」または「Readme.txt」をご覧ください。

□ 注意事項

- 各ドライバの最新版は富士通製品情報ページ（http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/index_support.html）に掲載されています。

Memo

第 6 章

BIOS

6

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。

1	BIOS セットアップとは	154
2	BIOS セットアップの操作のしかた	155
3	メニュー詳細	161
4	BIOS のパスワード機能を使う	170
5	認証デバイスのセキュリティ機能を使う	176
6	BIOS が表示するメッセージ一覧	182

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断 (POST) で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.156）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリーによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断中は不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ▶ 起動時の自己診断 (POST)
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」(POST: Power On Self Test) といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 状態表示 LED のハードディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
- 3 「FUJITSU」ロゴが表示され、画面の下に「画面をタップするか、< Enter >を押してください。」と表示されている間に、画面の適当な場所をタップします。ポップアップメニューが表示されます。



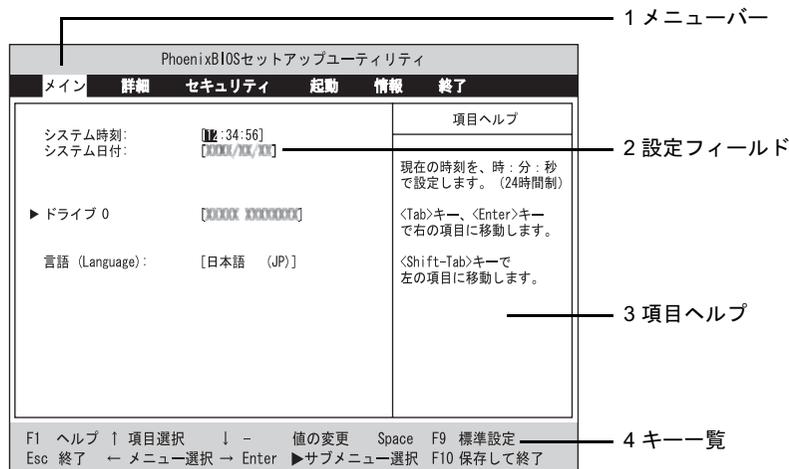
POINT

- ▶ BIOSセットアップの画面ではなくWindowsが起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順2からやり直してください。
- ▶ 「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」(→ P.164)を使用する設定にした場合、パスワードを入力後(TB/S、TB/Bで指紋を登録した場合は指紋認証後)、認証画面が消えた後、すぐに画面の適当な場所をタップしてください。

4 「BIOS セットアップ」をタップします。

BIOS セットアップの操作のしかたが表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



(画面は機種やモデルにより異なります)

1. メニューバー
メニューの名称が表示されます。
2. 設定フィールド
各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。
3. 項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。
4. キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

POINT

- ▶ 手順4で「起動メニュー」を選択すると、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。



- ▶ 手順4で「診断プログラム」を選択すると、「診断プログラム」が起動します。お問い合わせのときに、担当者の指示に従ってご使用ください。

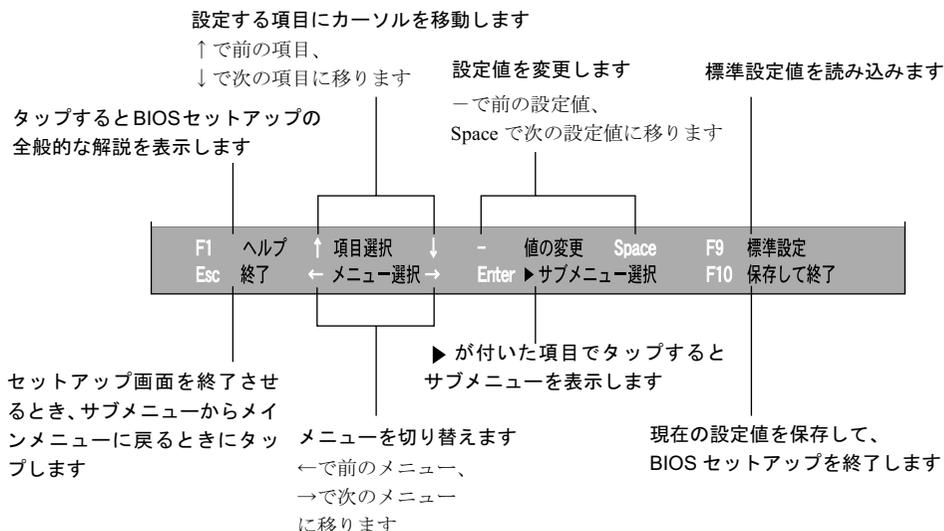
設定を変更する

BIOS セットアップの各設定は、ペンまたはキーボードで行います。ここでは一般的な操作方法を説明します。

■ ペンで設定する場合

ペンで設定する場合は、設定したい項目を直接タップするか、セットアップ画面の下端に表示されている設定バーをタップします。

- 項目を直接操作する場合
変更したい項目の設定値をタップすると、設定値が反転表示されます。再度タップすると、次の設定値が表示されます。希望の設定値が表示されるまでタップしてください。
- 設定バーで操作する場合
次のように割り当てられています。各項目をタップして、設定値を変更します。



POINT

- ▶ サブメニューを表示しているときはメニューバーの「サブメニュー終了」をタップしても、1つ上のメニュー画面に戻ります。

■ キーボードで設定する場合

- 1 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
- 3 【Space】キーまたは【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。

終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.160) をご覧ください。

重要

- ▶ BIOS セットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- ▶ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「終了メニュー」(→ P.168) をご覧ください。
- ▶ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(→ 『取扱説明書』) をご覧ください。
- ▶ 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
サブメニューが表示しているときは、メニューバーの「サブメニューの終了」をタップしても元のメニュー画面に戻ります。

各キーの役割

ワイヤレスキーボードの場合、設定時に使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【←】キー、【→】キー	メニュー画面を切り替えます。
【Pg Up】キー、【Pg Dn】キー	【Fn】キーと同時に押すことで、メニュー画面が複数ページにわたる場合は、前ページ、または次ページに移動します。
【Home】キー、【End】キー	【Fn】キーと同時に押すことで、メニュー画面の最初の項目、または最後の項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【X】キー	「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で、起動デバイスリストからデバイスを除外したり、追加したりします。
【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。
【Alt】 + 【H】キー	
【F5】キー	各項目の設定を1つ前の設定値に変更します。
【-】キー	
【F6】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【Space】キー	
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOSセットアップを終了します。
【Esc】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1つ上のメニュー画面に戻ります。
【Alt】 + 【X】キー	

POINT

▶ ここでいう【-】キーは  のことです。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行い、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 「終了」をタップします。

「終了」メニューが表示されます。

2 「変更を保存して終了する」をタップします。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ

3 「はい」をタップします。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、「サブメニュー終了」をタップしてください。
- ▶ 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください（→ P.168）。
- ▶ いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください（→ P.168）。
 1. 「終了」メニューの「変更を保存する」をタップします。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 2. 「はい」をタップします。

3 メニュー詳細

重要

- ▶ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

- システム時刻
- システム日付
- ドライブ 0

POINT

- ▶ 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(→ P.168) を実行した直後は、「ドライブ 0」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

- タイプ

POINT

- ▶ 通常は「自動」に設定してください。

・ LBA フォーマット

- 合計セクタ
- 最大容量

POINT

- ▶ 「合計セクタ」、「最大容量」は「タイプ」が「自動」で、ハードディスクと認識されている場合のみ表示されます。
- ▶ 「タイプ」以外の項目は、表示のみで設定できません。

- 言語 (Language)

POINT

- ▶ 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

赤外線通信ポート

- ・モード

POINT

- ▶ 「FIR」に設定する場合は、高速モードに対応した赤外線通信用ソフトが必要です。また、FIR用の「I/O アドレス」と「DMA チャンネル」も設定してください。

- ・ I/O アドレス
- ・ 割り込み番号
- ・ I/O アドレス
- ・ DMA チャンネル

POINT

- ▶ 「DMA チャンネル」は、「モード」の項目を「FIR」に設定しているときに表示されます。

キーボード設定

- 起動時の Numlock 設定

ディスプレイ設定

- ディスプレイ

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」ウィンドウで画面表示を切り替えることができます。詳しくは、「機能」－「表示装置の切り替え」(→ P.97)をご覧ください。

その他の内蔵デバイス設定

- シリアル ATA コントローラ
 - ・ AHCI 設定
- 内蔵 LAN デバイス
- 無線 LAN デバイス
- IEEE1394 コントローラ

CPU 設定

- SpeedStep (R) テクノロジー
 - ・ バッテリ運用時
 - ・ AC 運用時
- XD ビット機能
- Virtualization Technology

USB 設定

- レガシー USB サポート

- ・ SCSI サブクラスサポート

重要

- ▶ 「SCSI サブクラスサポート」を使用して、パソコンが起動しなくなった場合、デバイスを取り外して再起動してください。

□ 各種設定

- 電源ボタン
- LAN によるウェイクアップ
 - ・ 強制 LAN ブート
- 自動 Save To Disk
- 音量設定
- UMA ビデオメモリサイズ
- ハードウェア省電力機能

□ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

POINT

- ▶ イベントログメッセージで、「POST エラー : nnnnnnnn nnnnnnnn」というメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
 - ・ システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

管理者用パスワード

ユーザー用パスワード

管理者用パスワード設定

POINT

- ▶ 次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
 - ・ ユーザー用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード文字数
 - ・ 起動時のパスワード
 - 自動ウェイクアップ時
 - ・ 取外し可能なディスクからの起動
 - ・ BIOS フラッシュメモリへの書き込み
 - ・ スマートカードによるロック
 - ・ ハードディスクセキュリティ
 - ・ 所有者情報
 - ・ セキュリティチップ設定

ユーザー用パスワード設定

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

ユーザー用パスワード文字数

POINT

- ▶ 「ユーザー用パスワード文字数」はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

起動時のパスワード

- 自動ウェイクアップ時

□ 取外し可能なディスクからの起動

□ BIOS フラッシュメモリへの書き込み

□ スマートカードによるロック

 **重要**

- ▶ スマートカードの作成や、BIOS ロック用パスワードを設定せずに「スマートカードによるロック」を「使用する」に設定した場合、BIOS セットアップの起動、または OS の起動ができなくなります。スマートカードの作成や、BIOS ロック用パスワードを設定せずに「スマートカードによるロック」を「使用する」に設定してしまった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元までご連絡ください。

 **POINT**

- ▶ スマートカードを使用する場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』と「認証デバイスのセキュリティ機能を使う」（→ P.176）をご覧ください。
- ▶ 「スマートカードによるロック」を「使用する」に設定すると、次の項目が設定できなくなります。
 - ・ 管理者用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード文字数

□ ハードディスクセキュリティ

 **重要**

- ▶ 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要となります。

- ドライブ 0
 - ・ マスターパスワード設定
 - ・ ユーザーパスワード設定
- 起動時のパスワード入力

 **POINT**

- ▶ パスワード設定後、パスワード入力を求めるウィンドウを表示させたくない場合には、「使用しない」に設定してください。

□ 所有者情報

 **POINT**

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されませんが、選択できません。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

□ セキュリティチップ設定

POINT

- ▶ セキュリティチップを使用する場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』と「認証デバイスのセキュリティ機能を使う」（→ P.176）をご覧ください。

● セキュリティチップ

POINT

- ▶ セキュリティチップの設定を有効にするには、BIOS セットアップ終了後に「変更を保存して終了する」を選択し、本パソコンを再起動してください。「変更を保存して電源を切る」を選択してパソコン本体の電源を切ったり、「変更を保存する」を選択した後で電源を切ってしまうと、設定が正しく行われません。その場合は、次回起動時にエラーメッセージが表示されます。

● セキュリティチップのクリア

POINT

- ▶ 「セキュリティチップのクリア」は、管理者用パスワードが設定されている場合のみ選択できます。「セキュリティチップ」を「使用しない」から「使用する」に変更した場合、本パソコンを再起動して設定が有効になるまで、「セキュリティチップのクリア」は選択できません。

● セキュリティチップの状態

□ レジューム時のセキュリティボタン

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

- 高速起動
- 起動時の自己診断画面
- 起動メニュー

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「起動メニュー」は表示されますが、選択できません。

ネットワークサーバからの起動

起動デバイスの優先順位

- 起動デバイスリスト
 - 1: Floppy Disk Drive
 - 2: Drive0: nnnnn
 - 3: CD/DVD Drive
 - 4: NETWORK: nnnnn
 - 5:
 - 6:
 - 7:
 - 8:
- 除外された起動デバイス
 - : USB MEMORY: None
 - : USB HDD: None

POINT

- ▶ 起動デバイスリスト内の nnnnn にはお使いのデバイス名が表示されます。
- ▶ 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。検索順序を変更したり、起動デバイスリストから除外したり、除外された起動デバイスを起動デバイスリストに戻すことができます。
- ▶ 「1: Floppy Disk Drive」はポータブルの FDD ユニット (USB) も含まれます。
- ▶ 「3: CD/DVD Drive」はポータブル CD/DVD ドライブ (USB) も含まれます。
- ▶ 「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合、「4: NETWORK: nnnnn」と表示され起動デバイスとして検索されます。「使用しない」に設定されている場合は、「4: NETWORK: None」と表示され検索の対象外になります。
- ▶ CD から起動するには起動可能な OS の入った CD が必要となります。再起動前に本パソコンに CD をセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

BIOS 版数

BIOS 日付

BIOS 領域

CPU タイプ

CPU 速度

L1 キャッシュ

L2 キャッシュ

全メモリ容量

- メモリスロット 1 (標準スロット)
- メモリスロット 2 (増設スロット)

POINT

- ▶ メモリを取り付けていないときは、「未使用」と表示されます。
- ▶ 「メモリスロット 1」、「メモリスロット 2」の合計が 3GB を超える場合、「全メモリ容量」の表示は「メモリスロット 1」、「メモリスロット 2」の合計にならない場合があります。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

変更を保存する

変更した内容を CMOS RAM に保存します。

□ 変更を保存して電源を切る

変更した内容を CMOS RAM に保存して、電源を切ります。

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の3つです。

- 管理者用パスワード
本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード
本パソコンのハードディスクを他のユーザーや他のパソコンで使用できないようにするためのパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

- 1** BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.155) をご覧ください。
- 2** 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」(→ P.164)、または「ユーザー用パスワード設定」(→ P.164) を選択して「Enter」をタップします。
パスワード入力用のウインドウが表示されます。
- 3** 8桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」(→ P.164) で設定することができます。

- 4** パスワードを入力したら【Enter】キーをタップします。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 5** 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーをタップします。
「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。
- 6** 「継続」をタップします。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。「継続」をタップして、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーをタップしてください。
- 7** BIOS セットアップを終了します。
終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.160) をご覧ください。

■ ハードディスク用パスワードを設定する

重要

- ▶ Windowsを再起動してBIOSセットアップを起動したときには、ハードディスクパスワードを設定できません。
ハードディスクパスワードを設定する場合は、「終了メニュー」の「変更を保存して電源を切る」(→ P.169) を実行してください。次回起動時にハードディスクパスワードを設定することができます。

- 1** BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.155) をご覧ください。
- 2** 「セキュリティ」メニュー (→ P.164) で「ハードディスクセキュリティ」→「ドライブ0」の「ユーザー用パスワード設定」(→ P.164) を選択して【Enter】キーをタップします。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3** 8桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
- 4** パスワードを入力したら【Enter】キーをタップします。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが映りパスワードの再入力を求められます。
- 5** 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーをタップします。
「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。
- 6** 「継続」をタップします。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。「継続」をタップして、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーをタップしてください。

7 BIOS セットアップを終了します。

終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.160) をご覧ください。

POINT

- ▶ ハードディスク用のマスターパスワードは、ハードディスク用のユーザーパスワードを設定した後、設定できます。
 - ・手順 2 で「ドライブ 0」の「マスターパスワード設定」(→ P.165) を選択してください。
 - ・ハードディスク用のユーザーパスワードを設定した後、一度電源を切った場合は、手順 3 でハードディスク用のユーザーパスワードの入力が必要です。
- ▶ 「マスターパスワード設定」を行うと、ハードディスク用のユーザーパスワードを忘れてしまった場合に、ハードディスク用のマスターパスワードを削除することにより、ハードディスク用のユーザーパスワードをクリアすることが可能になります。管理者用パスワード(→ P.164) を削除してもハードディスク用のパスワードはクリアされません。

パスワードを設定した後は

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき、休止状態からレジュームするとき

POINT

- ▶ 管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードとハードディスク用パスワードが異なる場合は、それぞれのパスワードの入力が必要になります。

■ BIOS セットアップやパソコンの起動時、休止状態からのレジューム時のパスワード入力

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーをタップしてください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードが一切反応しなくなるので、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10 秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで、スタンバイや休止状態からの回復時にパスワードを入力するように設定した場合は、レジューム時のパスワードを設定できます。ただし、この場合は Windows のパスワードを入力してください。
- ▶ TB/S、TB/B の場合、パソコンの起動時の認証を、パスワードではなく指紋で行うことができます。詳しくは『SMARTACCESS ファーストステップガイド (認証デバイスをお使いになる方へ)』をご覧ください。

■ ハードディスク用のパスワード

ハードディスク用のユーザーパスワードを設定すると、パソコンを起動するときにハードディスク用のユーザーパスワードの入力が必要になります。

POINT

- ▶ パソコンを起動するときに、ハードディスク用のマスターパスワードでハードディスクのロックを解除することはできません。
 - ▶ パスワード設定後、パスワード入力を求めるウィンドウを表示させたくない場合には、起動時のパスワード入力を「使用しない」に設定してください。
- 「ハードディスクセキュリティ」(→P.165) でパスワードを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスク用のユーザーパスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。
 - 設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用のユーザーパスワードの入力が必要になります。
ただし、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用のユーザーパスワードが同じ場合は、パスワードの入力は1回になります。

パスワードを忘れてしまったら

管理者用、またはハードディスク用のユーザーパスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用、またはハードディスク用のユーザーパスワードを忘れてしまった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。保証期間にかかわらず修理は有償となります。

ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、パスワードを忘れてしまうと、修理をしても、パスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。

パスワードの管理には充分注意してください。

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードを忘れた場合
ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。
- ▶ ハードディスク用のユーザーパスワードを忘れた場合
ハードディスク用のマスターパスワードを設定している場合は、ハードディスク用のユーザーパスワードを忘れた場合でも修理の必要はありません。パソコンの管理者にハードディスク用のマスターパスワードをいったん削除してもらった後、ハードディスク用のユーザーパスワード、ハードディスク用のマスターパスワードの順にパスワードを設定し直してください(→P.171)。

パスワードを変更／削除する

重要

- ▶ Windowsを再起動してBIOSセットアップを起動したときには、ハードディスクパスワードを設定できません。
ハードディスクパスワードを設定する場合は、「終了メニュー」の「変更を保存して電源を切る」(→ P.169)を実行してください。次回起動時にハードディスクパスワードを設定することができます。

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の手順で変更してください。

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.155)をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニュー (→ P.164) で設定したいパスワードを選択して【Enter】キーをタップします。

- ・管理者用パスワード設定
- ・ユーザー用パスワード設定
- ・ハードディスクセキュリティ
 - ・ドライブ 0
 - ・マスターパスワード設定
 - ・ユーザーパスワード設定

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーをタップします。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

4 8桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーをタップします。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

5 手順4で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーをタップします。

「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

6 「継続」をタップします。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。「継続」をタップして、手順4からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーをタップしてください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードが一切反応しなくなるので、電源ボタンを4秒以上押し続けてパソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

7 BIOS セットアップを終了します。

終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.160) をご覧ください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 4～5 で何も入力せずに、【Enter】キーをタップしてください。

POINT

- ▶ ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う

ここでは、セキュリティチップやスマートカードなどの認証デバイスをお使いになるために必要な BIOS セットアップの設定について説明しています。

セキュリティチップ

重要

- ▶ セキュリティチップをお使いになる場合は、BIOS セットアップの設定を変更する前に、必ず『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』では、セキュリティチップをお使いになるうえでの注意事項および操作の手順について記載しています。

■ BIOS の設定を変更する

セキュリティチップをお使いになる場合、ドライバやソフトウェアをインストールする前に、BIOS セットアップの設定を変更する必要があります。
次の手順に従って BIOS セットアップの設定を変更してください。

- 1** BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については「BIOS セットアップを起動する」（→ P.155）をご覧ください。
- 2** 管理者用パスワードを設定していない場合は、管理者用パスワードを設定します。
管理者用パスワードの設定については、「管理者用パスワード/ユーザー用パスワードを設定する」（→ P.170）をご覧ください。
- 3** 「セキュリティ」メニューで「セキュリティチップ設定」（→ P.166）を選択して【Enter】キーをタップします。
「セキュリティチップ設定」が表示されます。

POINT

- ▶ 「セキュリティチップ設定」（→ P.166）の「セキュリティチップの状態」に、現在のセキュリティチップの動作状況が表示されます。セキュリティチップが使用可能な場合は、「有効、使用可」と表示されます。
- 4** 【-】キーまたは【Space】キーをタップして、「セキュリティチップ」の項目を「使用する」に設定します。
 - 5** 【Esc】キーを2回タップします。
「終了」メニューが表示されます。
 - 6** 「変更を保存して終了する」を選択し、BIOS セットアップを終了します。

重要

- ▶ 設定を有効にするには、BIOS セットアップ終了後に「変更を保存して終了する」を選択し、本パソコンを再起動してください。「変更を保存して電源を切る」を選択してパソコン本体の電源を切ったり、「変更を保存する」を選択した後で電源を切ったりすると、設定が正しく行われません。その場合は、次回起動時にエラーメッセージが表示されます。

■ セキュリティチップの鍵を消去する

本パソコンを廃棄する場合などは、パソコンに残っているデータなどが復元されないようにセキュリティチップの鍵を消去してください。

重要

- ▶ セキュリティチップの鍵を消去すると、セキュリティチップで暗号化したファイルや証明書が利用できなくなります。操作を始める前に、本当に消去してよいかよくご確認ください。

- 1** BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.155) をご覧ください。
- 2** 「セキュリティ」メニューで「セキュリティチップ設定」(→ P.166) の「セキュリティチップのクリア」を選択し、【Enter】キーをタップします。
クリアの続行を確認するメッセージが表示されます。
- 3** 「はい」を選択し、【Enter】キーをタップします。
- 4** 「セキュリティチップ」を選択します。
- 5** 【Space】キーまたは【-】キーをタップして、「使用しない」を選択します。
- 6** 【Esc】キーを2回タップします。
「終了」メニューが表示されます。
- 7** 「変更を保存して終了する」を選択し、BIOS セットアップを終了します。

重要

- ▶ 設定を有効にするには、BIOS セットアップ終了後に「変更を保存して終了する」を選択し、本パソコンを再起動してください。「変更を保存して電源を切る」を選択してパソコン本体の電源を切ったり、「変更を保存する」を選択した後で電源を切ったりすると、設定が正しく行われません。その場合は、次回起動時にエラーメッセージが表示されます。

スマートカード

重要

- ▶ スマートカードをお使いになる場合は、BIOS セットアップの設定を変更する前に、必ず『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』では、スマートカードをお使いになるうえでの注意事項および操作の手順について記載しています。

スマートカードによる BIOS ロック機能をお使いになる場合は、スマートカードを作成したときに登録したパスワードを、本パソコンに登録する必要があります。

「BIOS の設定を変更する」(→ P.176) の手順に従って BIOS セットアップの設定を変更し、パスワードを登録してください。

なお、スマートカードに登録したパスワードを変更する場合は、前もって本パソコンに登録したパスワードを変更する必要があります。「パスワードを変更する」(→ P.179) をご覧になり、手順に従ってパスワードを変更してください。

■ BIOS の設定を変更する

スマートカードに登録したパスワードは、次の手順に従って本パソコンに登録してください。

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.155) をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」を選択し、あらかじめ管理者用スマートカードに登録した BIOS ロック用パスワードと同じパスワードを設定します。

管理者用パスワードの設定については、「管理者用パスワード/ユーザー用パスワードを設定する」(→ P.170) をご覧ください。

重要

- ▶ 必ず、スマートカードを作成したときに設定した BIOS ロック用パスワードと同じパスワードであることを確認してください。管理者用パスワードの設定に失敗すると、本パソコンが起動できなくなります。

3 「セキュリティ」メニューで「ユーザー用パスワード設定」を選択し、あらかじめユーザー用スマートカードに登録した BIOS ロック用パスワードと同じパスワードを設定します。

ユーザー用パスワードの設定については、「管理者用パスワード/ユーザー用パスワードを設定する」(→ P.170) をご覧ください。

4 「セキュリティ」メニューで、「スマートカードによるロック」(→ P.165) を選択します。

5 【Space】キーまたは【-】キーをタップして、「使用する」に設定します。

 **POINT**

▶ 必要に応じて、「セキュリティ」メニューで、「起動時のパスワード」の設定をしてください。

- 6** 【Esc】キーをタップします。
「終了」メニューが表示されます。
- 7** 「変更を保存して終了する」を選択し、BIOS セットアップを終了します。

■ パスワードを変更する

スマートカードに登録したパスワードを変更する場合は、次の手順に従ってください。

- 1** 管理者用スマートカードをセットします。
セットする手順については、『SMARTACEESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- 2** BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」（→ P.155）をご覧ください。
- 3** 「セキュリティ」メニューで「スマートカードによるロック」（→ P.165）を選択します。
- 4** 【Space】キーまたは【-】キーをタップして、「使用しない」に設定します。
- 5** 【Esc】キーをタップします。
「終了」メニューが表示されます。
- 6** 「変更を保存して終了する」を選択し、BIOS セットアップを終了します。
- 7** Windows にログオンして、管理者用スマートカードまたはユーザー用スマートカードの BIOS ロック用パスワードを変更します。
変更方法については、『SMARTACEESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

この後は、「BIOS の設定を変更する」（→ P.176）に従って、本パソコンに登録したパスワードを変更してください。

■ スマートカード使用時のエラーメッセージ

スマートカードが挿入されていません。
スマートカードを挿入してください。 [継続]

スマートカードがセットされていないときに表示されます。

入力された PIN は間違っています。
あと nn 回 PIN を間違えるとスマートカードがロックされます。 [継続]

PIN の入力を間違えたときに、PIN を入力できる残り回数を表示します。

入力された PIN は間違っています。
再度 PIN を間違えるとスマートカードがロックされます。 [継続]

PIN を入力できる残り回数が 1 回のときに表示されます。

スマートカードに接続できませんでした。
もう一度やり直して下さい。 [継続]

スマートカードスロットやスマートカードに異常がある場合に表示されます。この場合、スマートカードが正常にセットされているか、カードに損傷がないか確認してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

このスマートカードは使用できません。
正しいスマートカードを挿入してもう一度やり直してください。 [継続]

読み取りに必要な情報がないときに表示されます。この場合、『SMARTACCESS フェーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧になり、正常なカードをお使いになるか、ログオン情報を登録してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

システムは使用できません。

読み取りに必要な情報がないスマートカードをセットし、PIN を 3 回以上入力したときに表示されます。また、スマートカードに登録されている BIOS ロック用パスワードが、BIOS セットアップで設定した管理者用パスワード・ユーザー用パスワードのどちらとも一致しない場合に表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

このスマートカードはロックされました。

スマートカードがロックされたときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

このスマートカードはロックされています。

スマートカードがすでにロックされているときや、読み取りに必要な情報がロックされているとき、アクセス権がないときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

POINT

- ▶ 本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

6 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください（→『取扱説明書』）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1 つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常自己診断（POST）（→ P.154）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ▶ BIOS のメッセージを表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」（→ P.167）の項目を「使用する」に設定してください。
- ▶ メッセージ中の「n」には数字が表示されます。

■ 正常時のメッセージ

- Please Wait.../ お待ちください ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- nnnnM システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- nnnnnK メモリキャッシュテスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、使えるようになったことを示しています。

POINT

- ▶ 「起動時の自己診断画面」（→ P.167）の項目を「使用しない」に設定している場合、正常時のメッセージは表示されません。

■ エラーメッセージ

- 拡張メモリエラー。アドレス行 : nn
拡張メモリのテスト中に、アドレス nn でエラーが発見されたことを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- キーボード接続エラーです。
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- キーボードエラーです。
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ディスクエラーです。: ハードディスク n
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「ドライブ n」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **システムタイマーのエラーです。**
システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。**
リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。**
CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
「【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Del】」ボタンを押すか、【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだ後、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。**
前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
起動途中で電源を切ってしまうたり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーまたは【Esc】キーを押してください。この場合、最低限の設定になるため、動作が遅くなりますのでお勧めしません。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は、「【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Del】」ボタンを押すか、【F2】キーを押してください。
- **<F1>キーまたは<Esc>キーを押すと継続、<F2>キーを押すと BIOS セットアップを起動します。**
起動時の自己診断でエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーまたは【Esc】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始します。「【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Del】」ボタンを押すか、または【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **日付と時刻の設定を確認してください。**
日付と時刻の設定値が正しくありません。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティボタン異常**
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。**
温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **ファンエラー。システムの電源が切れます。**
冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。**
前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動中にファンエラーが発生しました。**
前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティチップ初期化エラーです。**
セキュリティチップの初期化でエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティチップ MPD ファンクションエラーです。**
セキュリティチップ使用時にエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティチップ MPD ファンクション実行エラーです。**
セキュリティチップ使用時にエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティチップ設定エラーです。 - 前回設定値に戻されました。**
BIOSセットアップによるセキュリティチップの設定変更でエラーが発生したことを示しています。セキュリティチップの設定は、前回の設定値に戻されます。
正しい手順で設定をしても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティチップが見つかりません。**
セキュリティチップが見つからなかったことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Invalid system disk**
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、「ローテーション」ボタンなどを押してください。
- **Non-System disk or disk error**
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、「ローテーション」ボタンなどを押してください。
- **NTLDR is missing**
Press any key to restart
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、「ローテーション」ボタンなどを押してください。

- Remove disks or other media.

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、「ローテーション」ボタンなどを押してください。

- Operating system not found

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

- PXE-E61:Media test failure, Check cable

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

- PXE-E53:No boot filename received

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要な IP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

- PXE-E78:Could not locate boot server

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

- PXE-E89:Could not download boot image

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

- PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

POINT

- ▶ 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ キーボードをお使いでない場合は、【F1】キー、【Esc】キーの代わりに「Esc」ボタンを、【F2】キーの代わりに「【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Del】」ボタンをお使いになれます。

第7章

技術情報

7

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	188
2 コネクタのピン配列と信号名	192

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		FMV-STYLISTIC TB13/S	FMV-STYLISTIC TB13/B	FMV-STYLISTIC TB13/R
CPU 注1		インテル® Core™ Solo プロセッサ 超低電圧版 U1400 注2		
		1.20GHz		
キャッシュメモリ		1次 64KB + 2次 2MB (CPU 内蔵)		
チップセット		インテル® 945GM Express チップセット		
システムバスクロック		533MHz		
メインメモリ		標準 256MB (PC2-4200 DDR2 SDRAM DIMM) ECC なし 最大 4GB 注3		
拡張メモリスロット		× 2 (空きスロット × 1)		
表示 機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵		
	ビデオメモリ	最大 64MB / 最大 128MB (標準) / 最大 224MB (メインメモリと共用) 注4		
	液晶ディスプレイ 注5	12.1 型 TFT カラー 1024 × 768 ドット	10.4 型 TFT カラー 1024 × 768 ドット	
	解像度/発色数	液晶ディスプレイ表示: 1024 × 768 ドット / 1677 万色 注6 外部ディスプレイ表示: 最大 1600 × 1200 ドット / 最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示: 1024 × 768 ドット / 1677 万色 注6		
フロッピーディスクドライブ		FDD ユニット (USB) (別売) 注7		
ハードディスクドライブ 注8		40GB (シリアル ATA/150、5400rpm)		
オーディオ 機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 + High Definition Audio コーデック		
	PCM 録音再生機能	サンプリング 周波数最大 196kHz、24 ビットステレオ、同時録音再生対応		
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート		
	スピーカー	モノラルスピーカー内蔵		
ポインティングデバイス		電磁誘導方式		
タブレットボタン		× 6 (プログラマブル × 2)		
通信 機能	モデム	データ: 最大 56kbps (V.92 規格準拠) 注9 / FAX: 最大 14.4kbps		
	LAN	1000BASE-T 注10 / 100BASE-TX / 10BASE-T 準拠		
	無線 LAN 注11	規格	IEEE 802.11a (J52/W52/W53) 準拠、IEEE 802.11b 準拠、 IEEE 802.11g 準拠 (Wi-Fi® 準拠) 注12	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式	

製品名称		FMV-STYLISTIC TB13/S	FMV-STYLISTIC TB13/B	FMV-STYLISTIC TB13/R
セキュリティ機能	セキュリティボタン ^{注13}	数字ボタン×4 + Enter ボタン		
	指紋センサー	あり		—
	スマートカード	あり×1 (専用スロット)		
	セキュリティチップ	TCG Ver1.2 準拠 ^{注14}		
	盗難防止用ロック	あり		
インターフェース	本体	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II ×1 スロット (CardBus 対応)	
		SD カード/メモリースティック ^{注15}	1 スロット	
		スマートカード	1 スロット	
		外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン×1	
		USB ^{注16}	USB2.0 準拠 ×2	
		IEEE1394	4 ピン×1 (S400)	
		モデム ^{注17}	RJ-11 ×1	
		LAN	RJ-45 ×1	
		赤外線	IrDA1.1 準拠 (最大 4Mbps) ×1 キーボード×2 (ワイヤレスキーボード専用)	
		オーディオ	マイク: φ3.5mm ミニジャック (入力: 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 10kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、ヘッドホン: φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力: 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)	
		ドッキングステーション	専用コネクタ 100 ピン×1	
	状態表示	LED		
	ドッキングステーション	^{注18} 外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン×1	
		USB ^{注16}	USB2.0 準拠 ×3	
		IEEE1394	4 ピン×1 (S400)	
		LAN	RJ-45 ×1	
		オーディオ	ラインアウト: φ3.5mm ステレオ・ミニジャック	
		CD/DVD ドライブ	CD-RW/DVD-ROM ドライブ (マルチベイ接続) CD-ROM 読出: 最大 24 倍速、CD-R 書込: 最大 24 倍速、 CD-RW 書込/書換: 最大 10 倍速、DVD-ROM 読出: 最大 8 倍速	
	電源供給方式	AC アダプタ	入力 AC100V ~ 240V、出力 DC16V (3.75A)	
バッテリー		内蔵バッテリーパック: リチウムイオン 10.8V/5200mAh、 内蔵バッテリーパック (L) (9セル): リチウムイオン 10.8V/7200mAh		
バッテリー稼働時間	約 6.3 時間 (内蔵バッテリーパック (6セル))、 約 10.0 時間 (内蔵バッテリーパック (L) (9セル)) ^{注19}	約 7.1 時間 (内蔵バッテリーパック (6セル))、 約 10.8 時間 (内蔵バッテリーパック (L) (9セル)) ^{注19}		
バッテリー充電時間 ^{注20}	約 4.5 時間 (内蔵バッテリーパック (6セル)) 約 6.0 時間 (内蔵バッテリーパック (L) (9セル))			
消費電力 ^{注21}	約 16W / 約 60W			
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 ^{注22}	1 区分 0.0013 (AA) ^{注23}			

製品名称	FMV-STYLISTIC TB13/S	FMV-STYLISTIC TB13/B	FMV-STYLISTIC TB13/R
外形寸法（突起部含まず）	W324.4 × D220 × H20.9 ~ 23.8mm		W324.4 × D220 × H23.2 ~ 25.7mm
質量	約 1.60kg		約 1.54kg
温湿度条件	温度 5 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH（動作時）、 温度 - 10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）		
プレインストール OS 注24	Windows XP Tablet PC Edition 2005（DirectX 9.0c 対応）		

（本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。）

注について

注 1： ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なる場合があります。

注 2： エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能に対応しています。

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windows XP モデルで、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載（以降、Windows XP SP2）をインストールした場合のみお使いになれます。Windows XP SP2 をインストールしていない場合の動作保証はいたしません。また、Windows XP 以外の OS ではエグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能はサポートしていません。なお、Windows XP モデルには、あらかじめ Windows XP SP2 がインストールされています。

注 3： 2GB のメモリ容量にするには、搭載済のメモリをすべて取り外し、拡張 RAM モジュール -1GB を 2 枚取り付ける必要があります。

注 4： 使用するビデオメモリ容量の最大値は BIOS セットアップで変更できます。

Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、パソコンの動作状態によってビデオメモリ容量が BIOS セットアップで設定した最大値まで変化します。

注 5： 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・ 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで行えます。詳しくは、「機能」-「省電力の設定」（→P.115）をご覧ください。また、スクリーンセーバーの設定については、Windows のヘルプをご覧ください。
- ・ 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがありますが故障ではありません。

注 6： 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、1677 万色で表示されます。

注 7： ・ フロッピーディスクは、フォーマットした環境（メーカー、機種、ソフトウェア）によっては、データを読み書きできない場合があります。対応メディアは、2HD（1.44MB、1.2MB）と 2DD（720KB）です。

・ Windows XP では、1.44MB 以外のフォーマットはできません。

注 8： 容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算値です。

注 9： 56000bps は V.92 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。V.92 の 33600bps を超える通信速度は受信時のみで、送信時は 33600bps が最高速度となります。また、日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。

注 10： ・ 1000Mbps は 1000BASE-T の理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。

・ 1000Mbps の通信を行うためには、1000BASE-T に対応した HUB が必要となります。また、LAN ケーブルには、1000BASE-T に対応したエンハンスドカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。

・ 1000Mbps のネットワーク速度しかサポートしていない HUB では、Wake up on LAN 機能はご使用になれません。

注 11： Super AG™ に対応しています。Super AG™ は Super AG™ に対応した無線 LAN アクセスポイントとの通信を行うときのみ利用できます。

注 12： Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示しています。

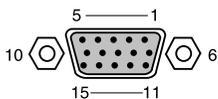
注 13： 添付のソフトウェア「ワンタッチボタン設定」をインストールすると、OS の動作中はソフトウェア起動用のワンタッチボタンとして使用できます。

注 14： ご購入時のセキュリティチップの設定は、無効になっています。

- 注 15:
- ・ SD メモリーカードとメモリースティックの同時使用はできません。
 - ・ すべての SD メモリーカード／メモリースティックの動作を保証するものではありません。
 - ・ 著作権保護機能には対応していません。
 - ・ マルチメディアカード (MMC) やセキュアマルチメディアカードには対応していません。
 - ・ miniSD メモリーカードやメモリースティック Duo /メモリースティック PRO Duo をお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ず miniSD メモリーカードを miniSD メモリーカードアダプタに、メモリースティック Duo /メモリースティック PRO Duo をメモリースティック Duo アダプタにセットしてからお使いください。
- 注 16:
- ・ すべての USB 規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
 - ・ 外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。
- 注 17:
- 本パソコンは、電気通信事業法による技術基準適合認定を取得しています。
回線認定番号 : A05-0413001
- 注 18:
- お使いの機種によっては添付されていません。
- 注 19:
- 満充電、フロントライト OFF 時の稼働時間になります。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。
- 注 20:
- 電源 OFF またはスタンバイ時。装置の動作状況により、充電時間が長くなることがあります。
- 注 21:
- ・ 動作時の最小消費電力 (Windows 起動直後の消費電力) /最大消費電力です。
また、AC アダプタ運用時の消費電力です。
 - ・ 電源 OFF 時の消費電力は、約 1W 以下 (満充電時) です。
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注 22:
- エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 注 23:
- ・ 2007 年度基準で表示しています。
 - ・ カッコ内のアルファベットは「A は 100%以上 200%未満、AA は 200%以上 500%未満、AAA は 500%以上」の省エネルギー基準達成率であることを示します。
- 注 24:
- ブレインストール OS のみサポートします。

2 コネクタのピン配列と信号名

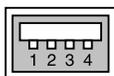
■ 外部ディスプレイコネクタ（ミニ D-SUB15 ピン、メス）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5～8	GND	—	グラウンド
9	+5V	—	電源 ^注
10	GND	—	グラウンド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

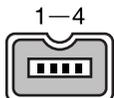
注：MAX 300mA

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	— DATA	入出力	—データ信号
3	+ DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

■ IEEE1394 端子



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TPB —	入出力	—データ信号
2	TPB +	入出力	+データ信号
3	TPA —	入出力	—データ信号
4	TPA +	入出力	+データ信号

第 8 章

8

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1	トラブルに備えて	194
2	トラブル発生時の基本操作	196
3	起動・終了時のトラブル	202
4	Windows・ソフトウェア関連のトラブル	205
5	ハードウェア関連のトラブル	208
6	それでも解決できないときは	221

1 トラブルに備えて

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じてても、本パソコンの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点に注意してください。

■ 本パソコンの注意事項

- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本パソコンの AC アダプタは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

■ テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを、本パソコンから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。
- プラズマディスプレイやプラズマカラーテレビを使用している場合、ワイヤレスキーボードが正常に動作しないことがあります。
その場合は、プラズマディスプレイやプラズマカラーテレビを、本パソコンから遠ざけて設置してください。

本パソコンや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Windows のセットアップ後の操作

Windows のセットアップが終了したら、バックアップをしたり、セキュリティホール対策のための修正プログラムを適用したりすることをお勧めします。

詳しくは、「セキュリティ」－「コンピュータウイルス対策」（→ P.124）または「セキュリティ」－「Windows やソフトウェアのアップデート」（→ P.126）をご覧ください。また、『取扱説明書』もあわせてご覧ください。

修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本パソコンに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前には「Readme.txt」などを必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。

なお、弊社の富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

また、「UpdateAdvisor」を利用すると、本パソコンに関連したソフトウェアを自動的にダウンロードすることができます。

Windows については、「Windows Update」で最新の修正プログラムを入手できます。

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われることがあります。必要なデータはフロッピーディスクや CD などの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

自動車内での使用について

パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールを行う前に、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ハードウェア/ソフトウェア要件
使用したい周辺機器やソフトウェアが本パソコンのハードウェア構成や Windows で使用できるか確認します。
- 取り付け時やインストール時に注意すべき点
特に「Readme.txt」や「Install.txt」などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報
- 問題が解決されたドライバやソフトウェアの修正モジュール

弊社の富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

本パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本パソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？ またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物をのせていませんか？
キーが押され、本パソコンが正常に動作しないことがあります。（キーボードをお使いの場合）

この他、「起動・終了時のトラブル」（→ P.202）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、Web 上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください（→ P.195）。

発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

■ 前回起動時の構成に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外したにもかかわらず Windows が起動しない場合は、前回起動時の構成に戻してみてください。

なお、あらかじめ、キーボードを準備する必要があります。

POINT

- ▶ お使いの機種によっては、キーボードは添付されておられません。別売のキーボードをご購入ください。

- 1** 本パソコンの電源を入れます。
- 2** 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
- 3** 「前回正常起動時の構成（正しく動作した最新の設定）」を選択し、【Enter】キーを押します。
画面の指示に従って操作します。

セーフモードで起動する

Windows が起動しない場合、セーフモードで起動できるか確認してください。
起動方法は、次のとおりです。
なお、あらかじめ、キーボードを準備する必要があります。

POINT

- ▶ お使いの機種によっては、キーボードは添付されておられません。別売のキーボードをご購入ください。

- 1** 本パソコンの電源を入れます。
- 2** 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
- 3** 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
- 4** 「Microsoft Windows XP」が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。
- 5** 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
「Administrator パスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
- 6** 「はい」をタップします。
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→ P.151）をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

ハードウェアの競合を確認する

周辺機器を正しく取り付けたにもかかわらず動作しない場合、ハードウェア（IRQ）の競合が起こっていないか確認してください。

確認方法は次のとおりです。

- 1 「スタート」ボタンをタップし、「マイコンピュータ」を右タップして「プロパティ」をタップします。**
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ハードウェア」タブをタップし、「デバイスマネージャ」をタップします。**
- 3 競合しているデバイスを確認します。**
競合しているデバイス名にはエクスクラメーションマーク (!) が表示されています。または、×印が表示されている場合もあります。
- 4 競合しているデバイスがある場合は、IRQ を変更します。**
変更方法については、「スタート」メニューに登録されているヘルプで調べることができます。
また、デバイスに添付されているマニュアルもあわせてご覧ください。

バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本パソコンの動作が不安定になった場合は、必要なデータをただちにバックアップしてください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当する障害を検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

診断／修正プログラムを使用する

本パソコンでは、次のパソコン診断／修正プログラムを用意しています。

- 「UpdateAdvisor（本体装置）」（→ P.198）
- 「FM Advisor」（→ P.199）
- 「FMV 診断」（→ P.199）
- 「QT-PC/U」（→ P.199）

■ UpdateAdvisor（本体装置）

適用すべき修正データをダウンロードして適用することができます。

POINT

- ▶ 「UpdateAdvisor (本体装置)」を利用するには、Azby Enterprise の会員 ID、または SupportDesk サービス契約ユーザーなどのユーザー ID が必要です。
Azby Enterprise および SupportDesk については、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/fmv/>) をご覧ください。
- ▶ 「UpdateAdvisor (本体装置)」を利用するには、インターネットに接続し、「UpdateAdvisor (本体装置)」を最新バージョンにアップデートする必要があります。起動時に、「インターネットに接続し、インストールされている「UpdateAdvisor (本体装置)」が最新バージョンであるか確認を行いますか?」というメッセージが表示されるので、「はい」をタップしてください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「UpdateAdvisor」→「UpdateAdvisor (本体装置)」の順にタップします。
調査結果が表示されます。

この後は、調査結果に従って操作します。

■ FM Advisor

「FM Advisor」で使用環境を調査すると、問題解決のヒントを得ることができます。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にタップします。
調査結果が表示されます。

■ FMV 診断

「FMV 診断」でハードウェアの障害箇所を診断できます。

POINT

- ▶ 起動中のソフトウェアや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ▶ スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- ▶ DVD-ROM&CD-R/RW ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。
- ▶ ネットワーク機能の診断を行う場合は、あらかじめ固定 IP を設定しておいてください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV 診断」の順にタップします。

この後はメッセージに従って操作します。

■ QT-PC/U

Windows が起動しないために「FMV 診断」が使用できない場合、「ドライバズディスク」から起動できる「QT-PC/U」を使用することで、ハードウェアの障害箇所を診断できます。診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお問い合わせの際にお知らせください。診断時間は通常 5 ～ 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

次のものを用意してください。

- ドライバズディスク

- ドッキングステーション、またはポータブル CD/DVD ドライブ (USB)
- キーボード

POINT

- ▶ お使いの機種によっては、ドッキングステーション、キーボードは添付されておりません。別売のドッキングステーション、キーボードをご購入ください。また、ポータブル CD/DVD ドライブもお使いになれます。ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM51)」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット (FMV-NCB52)」をお勧めします。

- 1** AC アダプタを接続します。
- 2** ドッキングステーション、またはポータブル CD/DVD ドライブを接続し、本パソコンの電源を入れます。
- 3** 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 4** 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。
- 5** 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されている間に画面の適当な場所をタップします。
ポップアップメニューが表示されます。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を使用する設定にした場合、パスワードを入力後（指紋を登録した場合は指紋認証後）、認証画面が消えた後、すぐにタップしてください。

- 6** 「起動メニュー」をタップします。
「起動メニュー」が表示されます。

POINT

- ▶ ポップアップメニューの「診断プログラム」からも「QT-PC/U」が起動できます。ただし、一部の機能がお使いになれません。すべての機能を使用する場合は、ドライバーズディスクから起動してください。

- 7** 「CD/DVD Drive」を選択し、【Enter】キーを押します。
自動的に診断が開始されます。診断は 6 項目について行われ、各項目の診断結果が画面の「STATUS」の部分に表示されます。
 - ・ 診断でエラーが発生した場合は、「STATUS」部に「ERROR」と表示され、画面の「Message Display」部に 8 桁のエラーコードが表示されます。
お問い合わせのときは、表示されたエラーコードをお知らせください。
 - ・ 診断でエラーが発生しなかった場合は、「STATUS」部に「NO ERROR」と表示されます。
- 8** 診断が終了し、画面の「Message Display」部に次のように表示されたら、「ドライバーズディスク」を取り出します。
Eject CD-ROM.
Press Ctrl+ALT+DEL for power off

- 9 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
- 10 次のように表示されたら、【Enter】 キーを押します。
[Ctrl+ALT+DEL Push] -> Power off execute ok (ENTER)?
約 5 秒後に電源が切断されます。
状況によっては次のように表示され、自動的に電源が切断されない場合があります。
Please power off manually
この場合は、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ってください。

リカバリ

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリを行います。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

■ リカバリ後も状態が改善されない場合は

リカバリ後も状態が改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

3 起動・終了時のトラブル

□ ビープ音が鳴った

電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。

次のようにビープ音が鳴る場合は、メモリのテストエラーです（画面には何も表示されません）。メモリが正しく取り付けられていない、または本パソコンでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。メモリを正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。市販のメモリを増設している場合は、製造元／販売元に確認してください。

ビープ音によるエラー通知は、「ピッ」、「ピッピッ」、「ピッピッピッ」のように1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。ここではビープ音の回数の組み合わせを、「1-2-2-3」のように表記します。

- 1-1-1-1
- 1-3-3-1
- 1-3-3-2
- 1-3-4-1
- 1-3-4-3
- 1-4-1-1

重要

- ▶ 上記の組み合わせ以外の鳴り方をした場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

□ メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、「BIOS」－「BIOSが表示するメッセージ一覧」（→ P.182）をご覧ください。

□ 電源が入らない

- ACアダプタは接続されていますか？
お買い上げ後最初にお使いになるときなど、バッテリーが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してください。また、電源スイッチ付きのACタップをお使いの場合は、ACタップの電源をONにしてください。
- バッテリーは充電されていますか？（バッテリー運用時）
状態表示LEDでバッテリー残量を確認してください。バッテリーが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してお使いください。
- 長期間未使用状態ではありませんでしたか？
長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、ACアダプタを接続してから電源を入れてください。

□ 画面に何も表示されない

- 状態表示 LED の電源ランプが点灯していますか？
 - ・点灯している場合
ペンで操作面に触れるか、キーボードで【↑】【↓】【←】【→】キーまたは【Shift】キーのいずれかを押してください。
TB/S でワイヤレスキーボード（フラットポイント付）をお使いの場合は、【Fn】 + 【F6】キー、または【Fn】 + 【F7】キーを押して明るさを調節してください。
 - ・点滅または消灯している場合
電源ボタンを押して動作状態にしてください。また、バッテリー運用時は、バッテリーが充電されているか確認してください。充電されていないときには、ACアダプタを接続して充電してください。
ACアダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- ペン、キーボードまたはマウスで操作していましたか？
本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないと CPU が停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします（何かキーを押すとバックライトが点灯します）。頻繁に停止してしまうときは、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで、省電力の設定を変更してください。
- 外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。
「機能」－「表示装置の切り替え」（→ P.97）をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。
- 外部ディスプレイを使用している場合（→ P.97、→ P.100）、次の項目を確認してください。
 - ・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
 - ・セットアップ前に、外部ディスプレイを接続していませんか？
必ずセットアップ後に接続してください。
- 解像度や走査周波数は、外部ディスプレイに合った設定になっていますか？（外部ディスプレイに表示している場合）
そのまま 15 秒くらい待っても、液晶ディスプレイ表示に戻らない場合は、本パソコンを強制終了してください。
その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。
「機能」－「外部ディスプレイの走査周波数について」（→ P.103）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してから、外部ディスプレイ表示へ切り替えてください（→ P.97）。

□ ペンが使えない

- ペンの先を画面に押しつける力が不十分な場合、正しく操作が認識されないことがあります。添付のペンを用いて、確実に画面を押して操作をしてください。

□ ペンやマウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。
 1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】 + 【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。

2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。
- ペンやマウスが故障している場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

□ Windows が動かなくなってしまう、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。
 1. パソコン本体のセキュリティボタンを 2 秒以上押すか、キーボードの【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
 2. Windows を終了します。
表示されるウィンドウによって手順が異なります。
 - ・「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合
「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にタップします。
 - ・「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合
 1. 「シャットダウン」をタップします。
「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。
 2. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をタップします。

POINT

- ▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします (→ P.212)。

上記の操作で強制終了されないときは、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れます。

重要

- ▶ ハードディスクが動作しているときに電源を切ってしまうと、ファイルが失われたり、ハードディスクが壊れる可能性があります。
強制的に電源を切るときは、ハードディスクアクセスランプが点灯している場合は、しばらく待つことをお勧めします。また、ハードディスクが動いていると思われる場合（音がするなど）は、その動作が止まるまでしばらく待つことをお勧めします。
- ▶ ご購入後、初めて電源を入れた直後に電源を切ると、本パソコンをお使いになれなくなる場合があります。Windows のセットアップが終わるまでは、電源を切らないでください。画面が映らないなど、画面が確認できない場合は、15 分ほど待ってから電源を切るようにしてください。
- ▶ 「Checking file system on C:」と表示された場合
 - ・アプリケーションを強制終了した後、または強制終了できずに電源を切った後は、次に Windows を起動したときに「Checking file system on C:」と表示される場合があります。自動的に Windows やハードディスクの状態がチェックされ、必要に応じて修復が行われます。
エラーがない場合はそのままお使いください。エラーが表示された場合は、メッセージに従って修復してください。

4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明します。トラブルに合わせてご覧ください。

□ Windows が起動しなくなった

- 周辺機器を取り付けませんでしたか？
いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.196）。もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。
- セーフモードで起動できますか？
いったんセーフモードで起動し（→ P.197）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。
- 「ドライバズディスク」に入っている「QT-PC/U」という診断プログラムで、パソコンの診断をしてください（→ P.199）。
「QT-PC/U」でエラーが発生しなかった場合は、リカバリを実行し、本パソコンをご購入時の状態に戻してください（→ 『取扱説明書』）。
それでも解決しない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- Windows を正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本パソコンを再起動してください。
- スマートカードの作成や、BIOS ロック用パスワードを設定せずに BIOS セットアップを次のように設定すると、Windows の起動ができなくなります。
 - ・「セキュリティ」メニュー－「スマートカードによるロック」：使用するこの場合は、修理が必要となりますので、ご購入元にご連絡ください。

□ Windows にログオンできない

- セキュリティチップ搭載モデルで、セキュリティチップを使用し、「SMARTACCESS/Premium」または「SMARTACCESS/Basic」による機器監査機能を使用している場合、ハードウェアの構成を変更すると、Windows にログオンできなくなります。この場合、ハードウェアの構成を登録したときの設定に戻すか、機器構成を登録しなおす必要があります。機器構成を登録については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- セキュリティチップ搭載モデルで、セキュリティチップを使用して Windows にログオンしている場合、BIOS セットアップの設定を次のようにすると、Windows にログオンできなくなります。
 - ・「セキュリティ」メニュー－「セキュリティチップ設定」－「セキュリティチップ」：「使用しない」この場合、BIOS セットアップの設定を「使用する」に設定しなおしてください。また、「回避パスワード」でログオンすることもできます。「回避パスワード」については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

□プログラムが動かなくなりました

- 次の手順でプログラムを終了させてください。
 1. パソコン本体のセキュリティボタンを2秒以上押すか、キーボードの【Ctrl】+【Shift】+【Esc】キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「アプリケーション」タブをタップします。
 3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をタップします。
プログラムが強制終了されます。
 4. 「Windows タスクマネージャ」ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします(→ P.212)。

□省電力機能が実行されない

- 「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。
省電力機能の詳細については、「機能」－「省電力」(→ P.113)をご覧ください。

□バッテリー運用時に画面がちらつく

- ご購入時の状態で、本パソコンをバッテリー運用すると、液晶ディスプレイの消費電力を節約するインテル®ディスプレイ省電テクノロジーの機能が有効となり、画面がちらついて見えたり、画質が変化しているように見えたりする場合があります。
「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」(→P.88)をご覧ください。

□周辺機器の動作が不安定になった

- なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.151)をご覧ください。

□「システムのプロパティ」ウィンドウの「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」で、「不明なデバイス」がある

- 「IndicatorUtility」で使用される「FUJ02B1 デバイスドライバ」がインストールされていない可能性があります。「デバイスマネージャ」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02B1 DeviceDriver」が表示されているかどうかを確認してください。
表示されていない場合は、「ドライバズディスク」内の「¥app¥indiuty¥fuj02b1.txt」をご覧ください。
- 「富士通拡張機能ユーティリティ」で使用される「FUJ02E3 デバイスドライバ」がインストールされていない可能性があります。「デバイスマネージャ」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 DeviceDriver」が表示されているかどうかを確認してください。
表示されていない場合は、「ドライバズディスク」内の「¥app¥fjextuty¥fuj02e3.txt」をご覧ください。

□ ソフトウェアのインストールが正常に行われない

- ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。

□ 画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない

- Windowsを起動したあと、通知領域に表示されるはずのソフトウェアのアイコンが表示されないことがあります。
通知領域にアイコンが表示されなかったソフトウェアをお使いになる場合は、次のいずれかの方法を実行してください。
 - ・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」の順にタップし、表示されるメニューからソフトウェアを選択する
 - ・「スタート」ボタン→「終了オプション」→「再起動」の順にタップし、Windowsを再起動する

POINT

- ▶ Windowsを起動したあと、通知領域にアイコンが表示されなかった場合、ソフトウェアによっては起動できなかったことを通知するメッセージが表示されることがあります。
この場合、メッセージに従って、Windowsを再起動してください。

5 ハードウェア関連のトラブル

ハードウェア関連のトラブル一覧

- BIOS の「管理者用パスワードを忘れてしまった」(→ P.209)
- BIOS の「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」(→ P.209)
- パソコン本体起動時に「エラーメッセージが表示された」(→ P.209)
- 「BIOS セットアップが起動しなくなった」(→ P.209)
- 「仮想メモリが足りない」(→ P.210)
- 「ネットワークに接続できない」(→ P.211)
- 「ネットワークリソースに接続できない」(→ P.212)
- 内蔵モデムで「通信ができない」(→ P.212)
- 「ハードディスクが使えない」(→ P.212)
- 「ハードディスクからカシャカシャ音がする」(→ P.212)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定」(→ P.212)
- 次の「機器が使用できない」(→ P.213)
 - ・ USB
 - ・ IEEE 1394
 - ・ CD/DVD
 - ・ フロッピーディスク
 - ・ PC カード
 - ・ SD メモリーカード
 - ・ メモリースティック
 - ・ 赤外線通信
- (CD/DVD) 「ディスクからデータの読み出しができない」(→ P.213)
- (CD/DVD) 「ディスクが取り出せない」(→ P.214)
- 「WinDVD が起動しない」(→ P.214)
- 「DVD の再生が円滑に行われない」(→ P.214)
- (CD/DVD) 「外部ディスプレイに再生画面が表示されない」(→ P.214)
- 「DVD の再生音が小さい」(→ P.214)
- (CD/DVD) 「ディスクへの書き込み速度が遅い」(→ P.214)
- 「フロッピーディスクが使えない」(→ P.215)
- 「PC カードが使えない」(→ P.215)
- 「スマートカードが使えない」(→ P.216)
- スマートカード使用時に「エラーメッセージが表示された」(→ P.216)
- 「バッテリー残量表示の点滅(赤色)が止まらない」(→ P.216)
- 「バッテリーが充電されない」(→ P.216)
- 「画面に何も表示されない」(→ P.216)
- 「ディスプレイの表示が見にくい」(→ P.217)
- 「表示が乱れる」(→ P.217)
- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」(→ P.217)
- 「マイクからうまく録音ができない」(→ P.218)
- 「押したキーと違う文字が入力される」(→ P.218)

- 「タブレットのポインタ位置がずれる」 (→ P.218)
- 「マウスカーソルが動かない」 (→ P.218)
- 「マウスカーソルが正しく動作しない (USB マウス (光学式) 場合)」 (→ P.218)
- 「ペン/マウスが使えないため、Windows を終了できない」 (→ P.218)
- 「USB デバイスが認識されない」 (→ P.219)
- 「USB デバイスが使えない」 (→ P.219)
- 「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される」 (→ P.219)
- 「IEEE1394 デバイスが使えない」 (→ P.220)
- 「IEEE1394 デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される」 (→ P.220)
- 「プリンタを使用できない」 (→ P.220)
- 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」 (→ P.220)

BIOS

□ 管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

□ ユーザー用パスワードを忘れてしまった

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、「BIOS」-「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.170) をご覧ください。

□ エラーメッセージが表示された

パソコン本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容と意味については、「BIOS」-「BIOS が表示するメッセージ一覧」(→ P.182) をご覧ください。

□ BIOS セットアップが起動しなくなった

スマートカードの作成や、BIOS ロック用パスワードを設定せずに BIOS セットアップを次のように設定すると、BIOS セットアップの起動ができなくなります。「セキュリティ」メニュー-「スマートカードによるロック」: 使用するこの場合は、修理が必要となりますので、ご購入元にご連絡ください。

メモリ

□ 仮想メモリが足りない

仮想メモリ（ページングファイル）の設定を行います。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに十分な空き容量がないときは、別のドライブに設定してください。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- ▶ 仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。
初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍
最大サイズ：初期サイズの 2 倍

- 1** 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2** 「スタート」 ボタンをタップし、「マイコンピュータ」を右タップして「プロパティ」をタップします。
「システムのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3** 「詳細設定」 タブをタップし、「パフォーマンス」の「設定」をタップします。
「パフォーマンスオプション」 ウィンドウが表示されます。
- 4** 「詳細設定」 タブをタップし、「仮想メモリ」の「変更」をタップします。
「仮想メモリ」 ウィンドウが表示されます。
- 5** ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをタップします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 6** 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をタップします。
- 7** 「OK」をタップし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 8** 本パソコンを再起動します。

内蔵 LAN

□ ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・ 1000Mbps で通信している場合、エンハンスドカテゴリ 5 (カテゴリ 5E) 以上のケーブルを使用してください。
 - ・ 100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 以上のケーブルを使用してください。
- 内蔵 LAN に関して、次の項目を確認してください。
 - ・ 無線 LAN 設定が正しく設定されていますか？
必要に応じて、『IEEE 802.11a/g 準拠 内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。
無線 LAN と有線 LAN で、同じ設定にはできません。
 - ・ ハードウェアの競合が起こっていませんか？ (→ P.198)
 - ・ LAN ドライバは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」 - 「ドライバ」 (→ P.151) をご覧になり、再インストールしてください。
- TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、コマンドプロンプトで次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。

```
ping nnn.nnn.nnn.nnn
```

(nnn には通信相手の IP アドレスを入力します)
- ハブに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ 電源は入っていますか？
 - ・ ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - ・ Speed (1000Mbps/100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、パソコン側の設定と合っていますか？
- 画面右下の通知領域に LAN の接続状況が表示されますので、確認してください。
- スタンバイや休止状態にしませんでしたか？
LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。
- LAN に接続後、休止状態にしてネットワークケーブルを取り外しませんでしたか？
この状態で、AC アダプタを接続しないままレジュームすると、正常に動作しないことがあります。この場合、いったん電源を切り、AC アダプタを接続し、ネットワークケーブルを接続してから起動してください。
- ネットワークケーブルおよび AC アダプタを接続していない状態で起動しませんでしたか？
ご購入時の設定では、ネットワークケーブルおよび AC アダプタを接続していない状態で起動すると、LAN 機能は使えません。いったん電源を切り、ネットワークケーブルを接続してから起動してください。

□ ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- お使いのネットワークに適したコンポーネント(クライアント/サービス/プロトコル)をインストールしていますか？
- 各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

内蔵モデム

□ 通信ができない

- モジュラーケーブルは正しく接続されていますか？
パソコン本体との接続、電話回線の接続を確認してください。
- モジュラーケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
- 内蔵モデムに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ ハードウェアの競合が起こっていませんか？ (→ P.198)
 - ・ モデムドライバは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」 - 「ドライバ」 (→ P.151) をご覧になり、再インストールしてください。
 - ・ 外線発信番号、回線種類 (トーン、パルス) などの設定は正しいですか？

ハードディスク

□ ハードディスクが使えない

- エラーメッセージは出ていませんか？
「BIOS」 - 「BIOS が表示するメッセージ一覧」 (→ P.182) をご覧ください。

□ ハードディスクからカシャカシャ音がする

- 次のような場合に、ハードディスクからカシャカシャという音がすることがあります。
 - ・ Windows を終了した直後
 - ・ スタンバイや休止状態にした直後
 - ・ パソコンの操作を一時中断した場合 (ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合)
 - ・ 中断した状態から再度パソコンを操作させた場合
 - ・ パソコンを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合 (ハードディスクアクセスされた場合)
- これはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

□ 頻繁にフリーズするなど動作が不安定

- 次の手順でハードディスクをチェックしてください。
 1. 実行中のプログラムをすべて終了します。

2. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にタップします。
3. プログラムをインストールしてあるディスクを右タップし、「プロパティ」をタップします。
4. 「ツール」タブをタップし、「エラーチェック」の「チェックする」をタップします。
5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をタップします。「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックしてCドライブを検査する場合は、「次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか？」と表示されます。「はい」をタップすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
6. 「OK」をタップします。

修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリしてください（→『取扱説明書』）。

デバイス

□ 機器が使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？

次の機器が使用できない場合は、システム管理者に「Portshutter」のポート設定が有効になっているか確認してください。

情報漏洩や不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。

- ・ USB
- ・ IEEE 1394
- ・ CD/DVD
- ・ フロッピーディスク
- ・ PC カード
- ・ SD メモリーカード
- ・ メモリースティック
- ・ 赤外線通信

CD / DVD

□ ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。
- ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？
汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ディスクが傷ついたり、極端に反っていたりしませんか？
ディスクを交換してください。
- 規格外のディスクを使用していませんか？
規格に合ったディスクをお使いください。

□ ディスクが取り出せない

- パソコン本体は動作状態になっていますか？
ドッキングステーションに内蔵の DVD-ROM&CD-R/RW ドライブは電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみディスクのセット/取り出しが可能です。
なお、何らかの原因でトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウのディスクアイコンを右タップし、「取り出し」をタップしてください。それでも出ない場合は、内蔵ドライブユニット前面のディスク取り出しボタン横にある穴を、曲がりにくい針金（大きなクリップをのばしたものなど）でつついてください。

□ WinDVD が起動しない

- 市販されているアンチウイルスソフトを起動していませんか？
市販されているアンチウイルスソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。アンチウイルスソフトを終了してから、「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「Norton AntiVirus」は問題ありません。
- 自動検索機能付きのアンチウイルスソフト（市販）をインストールしていませんか？
自動検索機能付きのアンチウイルスソフトをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
アンチウイルスソフトをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「Norton AntiVirus」は問題ありません。

□ DVD の再生が円滑に行われぬ

- 「WinDVD」を正しくインストールしましたか？
「WinDVD」を再インストールしてください。
- 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてからインストールしましたか？
一度アンインストールしてから管理者権限を持ったユーザーとしてログオンし直し、「WinDVD」（→ P.149）のインストールの手順に従って再インストールしてください。
- Wave 音源の再生または AVI ファイルなどの映像再生をしていませんか？
Wave 音源、または AVI ファイルなどの映像と同時再生はできません。

□ 外部ディスプレイに再生画面が表示されない

- パソコン本体がマルチモニタ機能を使用していませんか？
マルチモニタ機能に設定している場合、再生映像は「プライマリディスプレイ」側にしか表示できません。

□ DVD の再生音が小さい

- パソコン本体のボリュームの設定は正しいですか？
DVD ディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。Windows の「音量の調整」または「ボリュームコントロール」の設定を調節してください。

□ ディスクへの書き込み速度が遅い

- ウイルス対策ソフトなどを常駐させていませんか？
ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視をしている状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

フロッピーディスク

□ フロッピーディスクが使えない

- ディスクは正しくセットされていますか？
ディスクのシャッタのある側から、カシャッと音がするまでしっかりと差し込んでください。
- ディスクはフォーマットしてありますか？
ディスクをフォーマットしてください。
- ディスクが書き込み禁止になっていませんか？
ディスクの書き込み禁止タブを、書き込み可能な位置にしてください。
- 別のディスクは使用できますか？
別のディスクが使用できる場合、使用できないディスクは壊れている可能性があります。
- フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか？
クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください。

PC カード

□ PC カードが使えない

- PC カードスロットに正しくセットされていますか？
PC カードが正しくセットされているか確認してください。
- 16bit対応のPCカードの場合、カードによってはPCカードが使う IRQ を予約する必要があります。
PC カードのマニュアルをご覧ください。
- PC カードのドライバはインストールされていますか？
Windows にあらかじめ登録されていない PC カードの場合は、PC カードに添付されているドライバ（各 OS に対応したもの）をインストールする必要があります。PC カードに添付されているマニュアルをご覧ください。
- IRQ リソースは足りていますか？
IRQ リソースが不足する場合があります。次のように操作してください。
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「スタート」ボタンをタップし、「マイコンピュータ」を右タップして「プロパティ」をタップします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「ハードウェア」タブをタップし、「デバイスマネージャ」をタップします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 4. お使いにならないデバイス（プリンタなら「ポート（COM と LPT）」など）をダブルタップします。
 5. お使いにならないデバイス名（プリンタなら「プリンタポート（LPT1）」）を右タップし、「プロパティ」をタップします。
 6. 「全般」タブの「デバイスの使用状況」を「このデバイスを使わない（無効）」に設定します。
 7. 「OK」をタップします。
 8. すべてのウィンドウを閉じます。

スマートカード

□スマートカードが使えない

- スマートカードがスマートカードスロットに正しくセットされていますか？
スマートカードは、専用のスマートカードスロットにセットしてお使いください。

□エラーメッセージが表示された

- スマートカード使用時にエラーメッセージが表示された場合は、「BIOS」(→ P.153)をご覧ください。

バッテリー

□バッテリー残量表示の点滅（赤色）が止まらない

- バッテリーは正しく取り付けられていますか？
バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください。正しい場合は、バッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。

□バッテリーが充電されない

- AC アダプタは接続されていますか？
AC アダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- バッテリーが熱くなっていませんか？
状態表示 LED のバッテリー充電表示ランプがオレンジ色に点滅します。
周囲の温度が高いときや使用中にバッテリーの温度が上昇すると、バッテリーの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。
- パソコン本体が冷えていませんか？
状態表示 LED のバッテリー充電表示ランプがオレンジ色に点滅します。
バッテリーの温度が 5℃以下になっていると、バッテリーの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。
- 充電を途中で中断させていませんか？
充電を始めてから、状態表示 LED のバッテリー充電表示ランプが緑色に点灯するまでの間に本パソコンを使用したり、AC アダプタを取り外したりすると、バッテリーの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリーで稼働させ、バッテリー残量が 89% 以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、状態表示 LED のバッテリー充電表示ランプが緑色に点灯するまで AC アダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

ディスプレイ

□画面に何も表示されない

- 「起動・終了時のトラブル」(→ P.202) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もご覧ください。

□ ディスプレイの表示が見にくい

- 明るさなどを調節しましたか？
「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」(→ P.88) をご覧になり、明るさを調節してください。

□ 表示が乱れる

- Windows の画面が正常に表示されない場合は、次のように操作してください。
「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.151) をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windows が起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください(→ P.197)。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある「最小化」をタップし、アプリケーションを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたアプリケーションのボタンをタップします。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows 起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectX を使用した一部のアプリケーション使用時
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください(→ P.194)。
- 外部ディスプレイに出力していますか？
外部ディスプレイによっては、対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、設定を変更してください(→ P.103)。

サウンド

□ スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。(TB/S でワイヤレスキーボード(フラットポイント付)をお使いの場合)
 - ・ スピーカーの出力は ON になっていますか？
【Fn】＋【F3】キーを押して、スピーカーの出力を確認してください。
 - ・ 音量は正しく調節されていますか？
【Fn】＋【F8】キー、または【Fn】＋【F9】キーを押して、適正な音量にしてください。
- 音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。詳細については、「機能」－「音量の設定」(→ P.105) をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- ハードウェアの競合が起こっていませんか？(→ P.198)
- サウンドドライバが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.151) をご覧になり、再インストールしてください。

□ マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳細については、「機能」－「音量の設定」(→ P.105) をご覧ください。

キーボード

□ 押したキーと違う文字が入力される

- 【NumLk】キーや【CapsLock】キーが有効になっていませんか？
- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をタップします。
 3. 「キーボード」アイコンをタップします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。
 5. 「OK」をタップして、すべてのウィンドウを閉じます。

ペン/マウス

□ タブレットのポインタ位置がずれる

- タブレットを調整してください。調整方法については『取扱説明書』の「セットアップ」－「タブレットの調整」をご覧ください。

□ マウスカーソルが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
- オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？(USB マウス (光学式) 場合)
オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。

□ マウスカーソルが正しく動作しない (USB マウス (光学式) 場合)

- 次のようなものの上で操作していませんか？
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの (木目調など)
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているものマウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

□ ペン/マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使用して Windows を終了してください (→ P.203)。

USB

□ USB デバイスが認識されない

起動中にパソコン本体にドッキングステーションを取り付けた場合、ドッキングステーション側の USB デバイスを認識するまでに、10 秒程度時間がかかります。

□ USB デバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- USB デバイスがルートハブ以外に接続されていませんか？
USB デバイスはルートハブに直接接続してください。
- USB デバイ스에 不具合はありませんか？
USB デバイ스에 不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
パソコンを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイ스のご購入元にご連絡ください。

□ USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される

- デバイスドライバに問題はありますか？インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。
- 外部から電源を取らない USB デバイ스の場合、消費電力に問題はありますか？
次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。
 1. 「スタート」ボタンをタップし、「マイコンピュータ」を右タップして「プロパティ」をタップします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをタップし、「デバイスマネージャ」をタップします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルタップして「USB ルートハブ」をダブルタップします。
「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「電力」タブをタップし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認してください。
 5. 「OK」をタップして、すべてのウィンドウを閉じます。

IEEE1394

□ IEEE1394 デバイスが使えない

- 長すぎるケーブルを使用していませんか？
長さ 4.7 メートル以内のケーブルをお使いください。
- IEEE1394 デバイスが表示されていますか？
IEEE1394 デバイス接続後、IEEE1394 デバイスがデバイスマネージャに一度表示され、すぐに表示されなくなることがあります。
この場合、IEEE1394 デバイス側の電源の管理機能がコンピュータに誤って認識されている可能性があります。IEEE1394 デバイス側の電源設定を変更してください。
- IEEE1394 デバイスに不具合はありませんか？
IEEE1394 デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
パソコンを再起動して、IEEE1394 デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、IEEE1394 デバイスのご購入元にご連絡ください。

□ IEEE1394 デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される

- デバイスドライバに問題はありますか？ インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。

プリンタ

□ プリンタを使用できない

- 次の点を確認してください。
 - ・プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・プリンタの電源は入っていますか？
 - ・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
プリンタのマニュアルをご覧ください、再インストールしてください。
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？ (→ P.211)

その他

□ 使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本パソコンに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

なお、記載の情報は、2006年10月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問合せください。

- Norton AntiVirus 2006

株式会社シマンテック

シマンテックテクニカルサポートセンター

本センターをご利用いただくためには、ユーザー登録が必要です。また、ご利用期間は登録日から 90 日間となります。期間経過後のご利用は、有償サポートをご購入いただくか、またはパッケージ製品へのアップグレードをご検討ください。

URL : <http://www.symantecstore.jp/oem/fujitsu> (ユーザー登録ホームページ)

電話・FAX : テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。

電話受付時間 : 10:00 ~ 18:00 (土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)

- Adobe Reader 7.0

ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

Memo

索引

A

Adobe Reader 138, 148

B

BIOS セットアップ 154
 - 各キーの役割 159
 - 起動する 155
 - 終了する 160
 - 設定を変更する 157
 - 操作のしかた 156
 BIOS のパスワード機能を使う 170

C

CD/DVD 57
 CD/DVD 取り出しボタン 21
 CD アクセスランプ 21
 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Del】 ボタン 27

D

DC-IN コネクタ 16, 22
 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ 21

E

Easy Backup 138, 144
 Easy Media Creator 138, 148
 E-mail ボタン 27, 28
 Enter ボタン 27, 28, 29
 Esc ボタン 27, 28

F

FM Advisor 138, 143, 199
 FM-Menu 138, 145
 FMV 診断 138, 143, 199
 FM 拡大ツール 138, 146
 FM キーガード 138, 146
 Fn ボタン 27

I

IEEE1394 端子 16, 21, 192
 IndicatorUtility 138, 145

L

LAN 108
 LAN コネクタ 16, 22
 LAN 着信によるレジューム 118

N

Norton AntiVirus 124, 138, 140

P

Page Up/Page Down ボタン 14
 PC カード 73
 - スロット 17
 - 取り出しボタン 17
 PC 乗換ガイド 138, 143
 Plugfree NETWORK 138, 146
 Portshutter 133, 138, 140

Q

QT-PC/U 199

S

SD メモリーカードスロット 18
 SMARTACCESS/Basic 138, 140

T

Tablet PC 入力パネル 35

U

UpdateAdvisor (本体装置) 138, 144, 198
 USB キーボード 47
 USB コネクタ 15, 22, 192

W

Wakeup on LAN 機能 118
 Windows Update 126
 Windows XP Tablet PC Edition
 2005 138, 139
 WinDVD 138, 149

あ行

色数	95
液晶ディスプレイ	14
－お手入れ	84
エグゼキュート・ディスエーブル・	
ビット機能	133
音量設定	105
音量つまみ	105

か行

カーソルボタン	14
解像度	95
外部ディスプレイ	82
－コネクタ	16, 22, 192
外部ディスプレイの走査周波数	103
拡張 RAM モジュールスロット	19
角度調節バー	21
角度調節バー固定／解除ボタン	21
仮想メモリ	210
管理者用パスワード	170
キーボード	24, 44
－お手入れ	85
起動時の自己診断 (POST)	154
起動メニュー	167
休止状態	113
コネクタのピン配列と信号名	192

さ行

指紋センサー	13, 132
周辺機器	32
終了メニュー	168
詳細メニュー	162
状態表示 LED	13, 25
情報メニュー	168
数字ボタン	29
スタンバイ	113
スピーカー	13
スマートカード	178
スマートカードスロット	18
スマートカードリーダー／ライター	132
セーフモード	197
赤外線送信部	24
赤外線通信	111
赤外線通信ポート	18
セキュリティ	122
セキュリティセンター	127
セキュリティチップ	176, 131
セキュリティボタン	131, 138, 140

セキュリティメニュー	164
セキュリティランプ	26

た行

タブレット	33
タブレットボタン	14, 27
チルトフット	24
ディスプレイの明るさ設定	88
テンキーモード	50
電源ボタン	14, 24
電源ランプ	25
電池カバー	24
盗難防止用ロック取り付け穴	16, 21
ドッキングステーション	20
－取り付け	65
－取り外す	67
ドッキングステーション接続	
コネクタ	19
ドライバーズディスク	151
「ドライバーズディスク検索」	
ツール	151
ドライブ構成	112

な行

内蔵バッテリーパック	19
－ロック	19
内蔵マイク	12
内蔵無線 LAN アンテナ	13, 15, 17

は行

ハードウェアの競合	198
ハードディスクアクセスランプ	26
ハードディスクデータ消去	138, 141
ハードディスク用パスワード	170
排気孔	18
パスワード (BIOS)	170
－削除する	175
－設定する	170
－変更する	174
パソコン本体のお手入れ	84
バッテリー	51
－LOW バッテリー状態	52
－異常表示	52
－運用する	51
－温度アラーム	25, 52
－交換する	55
－残量表示	52
－残量ランプ	26

－充電する	51	ワイヤレスキーボード受光部	12
－充電ランプ	25	ワイヤレスキーボードスイッチ	24
－取り扱い上の注意	54	ワイヤレススイッチ	19
バッテリーガイド	21		
表示装置の切り替え	97		
富士通拡張機能ユーティリティ	138, 147		
フラットポイント	24, 38		
－使い方	38		
ページングファイル	210		
ヘッドホン端子	16		
ペン先の交換方法	37		
ペン収納スロット	15		
ペンひも取り付け用穴	17		
ペンを使った文字入力	35		
ポインティングデバイス	33		
本体接続コネクタ	21		

ま行

マイク端子	16
マウス	40
－お手入れ	85
－使い方	42
マルチモニタ機能	100
右タップ	34
無線 LAN アンテナ	15, 17
メインメニュー	161
メッセージ (BIOS)	182
メモリ	68
メモリーカード	77
モデム	110
モデムコネクタ	16
モデム着信によるレジューム	117

や行

ユーザー用パスワード	170
------------	-----

ら行

ラインアウト端子	22
冷却ファン	21
ローテーション機能	92
ローテーションボタン	27, 28
ロック解除ボタン	21
ロックレバー	21

わ行

ワイヤレスキーボード	44
－ID の設定	45
－電池交換	46

FMV-STYLISTIC TB13/S、
FMV-STYLISTIC TB13/B、
FMV-STYLISTIC TB13/R

製品ガイド
B5FJ-0991-01-00

発行日 2006年10月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。